

# 平成 30 年度 業務実績等報告書 別冊

小項目別の業務実績及び自己評価

# 目 次

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

- (1) 地域医療の提供・・ 1
- (2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5
- (3) 高度・専門医療の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 1
- (4) 災害医療などの提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 4
- (5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 1

### 2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

- (1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 5
- (2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化・・・・・・・・・・・・ 7 1

### 3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

- (1) 医療従事者の確保と育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 4
- (2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 6
- (3) 信州木曽看護専門学校運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 0
- (4) 県内医療水準の向上への貢献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 5
- (5) 医療に関する研究及び調査の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11 1

### 4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

- (1) より安全で信頼できる医療の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11 6
- (2) 患者サービスの一層の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13 2

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

- (1) 柔軟な組織・人事運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 2
- (2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14 7

2 経営力の強化

- (1) 病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 5 2
- (2) 経営部門の強化・・ 1 5 6

3 経営改善の取組

- (1) 年度計画と進捗管理・・ 1 5 8
- (2) 収益の確保と費用の抑制・・ 1 6 1
- (3) 情報発信と外部意見の反映・・ 1 7 7
- (4) 病床利用率の向上・・ 1 8 5

第3 財務内容の改善に関する事項

- 1 経常黒字の維持・・ 1 8 8
- 2 資金収支の均衡・・ 1 9 1

◎ 評定区分

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している（定量的目標においては年度計画値の120%以上）
A	年度計画を達成している（定量的目標においては年度計画値の100%以上120%未満）
B	年度計画を下回っており、改善を要する（定量的目標においては年度計画値の80%以上100%未満）
C	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する（定量的目標においては年度計画値の80%未満）

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

#### (1) 地域医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、地域の医療需要に応じた初期・二次医療サービスを提供するとともに、地域の救急病院として救急患者の受入れを行った。また、地域において各病院が担うべき在宅医療（訪問診療等）や各種検診業務についても積極的に実施した。

信州医療センターは、今年度から、須高医師会、行政と連携した対策型胃内視鏡検診の受託を開始するとともに、内視鏡センターと健康管理センターとが連携した大腸がんドック検診や治療環境の向上した外来化学療法室でのがん治療を積極的に展開した。また、産科医療に関しては、4月から、産科常勤医3名、婦人科常勤医1名、非常勤医1名の診療体制となり、分娩取扱数の増加など地域の産科医療の充実に貢献した。

阿南病院では、外来診療体制の充実に努めるとともに、人間ドック予約枠の拡大を図り、小児科では日曜診療を実施するなど利便性の向上に努めた。また、認知症なんでも相談室では、認知症を地域で支える体制づくりに向け「認知症カフェ」等の運営や、認知機能障害の疑いのある方へコンサルテーションを行い専門医師による診療へ繋げた。

木曽病院では、急性期医療を担う木曽郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で救急医療を提供した。また、平成30年3月に地域包括ケア病棟を開設し、患者の状態に応じて急性期、回復期、慢性期の医療を提供する体制を整えた。

阿南病院と木曽病院では、限られた人員の中で、医師・看護師・薬剤師らによるへき地巡回診療を定期的実施し、無医地区への切れ目ない医療の提供に貢献した。

介護老人保健施設では、阿南の通所者数は、前年の主要地方道全面通行止めの影響が除外され、かつ新規利用者も獲得でき対前年、対計画を上回った。入所者数は、在宅、他施設からの入所者が伸び悩んだが、地域のケアマネ等と連携により、短期入所者は増加した。木曽は、郡内の社会福祉

協議会や介護施設へ出向き入所者確保を図ったが、入所延期やキャンセルなどが重なり、入所、通所とも対前年、対計画を下回った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(1) 1	ア 地域医療の提供（信州、阿南、木曾） 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。	信州	A	・時間外救急患者 8,822人（29年度 9,522人）、救急車来院患者 1,836人（29年度 1,893人）を受け入れた。※救急医療以外については、4を参照のこと。
2	地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。	信州	A	・訪問診療：283件（29年度：251件） ・訪問看護：4,359件（29年度：4,692件）、緊急対応：196件（29年度：174件） ・訪問リハビリ：2,946件（29年度：2,086件） （課題） ・地域が必要としている在宅医療の維持継続 ・家族の受け入れ態勢が整わない等の理由により、在宅診療に移行できない重篤な患者も増えている。
3	(ア) 信州医療センター 患者目標（延べ人数） 入院 91,051人（結核を含む） 外来 121,155人	信州	B	患者数 入院 90,876人（29年度 90,537人） 外来 120,801人（29年度 122,540人） （前年度比 入院 100.3% 外来 98.5%）
4	【平成30年度に推進する事項】 ・地域包括ケア病棟を3床増床、「在宅医療安心ネット」の後方支援病院として、サブアキユート患者の受け入れ ・がんの早期発見・治療機能及び予防医療の	信州	A	・冬季の患者増加に対する受入体制の整備のため、地域包括ケア病棟を3床増床し、平成31年1月から運用を開始した。 ・平成30年度から須高地区の市町村で導入されたがん検診事業（対策型胃内視鏡検診）において、上部内視鏡検診の受託件数の増加を図った。（30年度受託件数 517件） ・対策型胃内視鏡検診の受託等により、内視鏡検査実施件数は7,013件（29年度 6,439

充実、在宅復帰支援機能の強化を推進

- ・内視鏡センターでは、上部、下部消化管及び肝胆膵、気管支等の内視鏡検査と治療を積極的に実施
- ・須高地区の市町村等と連携し、内視鏡検査を受託し件数を増加
- ・健康管理センターでは、ロコモティブシンドローム予防のためのロコモチェック、運動指導を実施
- ・人間ドックの大腸内視鏡オプション検査の件数増加
- ・外来化学療法室では、充実した入院から在宅に至る治療体制を活かし、外部からの紹介患者数を増加
- ・感染症センターによる、感染症専門医療の提供を継続
- ・遺伝子検査室では、遺伝子解析装置を用いた遺伝子検査とその診断及び治療を推進
- ・ピロリ菌外来、海外渡航者外来等の専門外来の利用促進
- ・血液内科、産婦人科及び腎臓内科の医師を増員し、診療体制を充実
- ・呼吸器・感染症内科の午後外来を継続
- ・入院患者に対し休日に提供している理学療法、作業療法及び言語聴覚療法を継続

件)と前年度を上回った。

- ・平成29年10月に開設した感染症センターでは、感染症医療の拠点病院として感染症の専門医療を提供し、地域の感染症対策水準の向上を図った。
- ・ピロリ菌専門外来、海外渡航者外来等の専門外来の利用促進を図った。

項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差
ピロリ菌専門外来人数	269人	270人	△1人
海外渡航者外来人数	170人	152人	18人
貧血外来人数	319人	274人	45人
スキンケア外来人数	154件	88件	66件
嚥下機能評価外来	34件	26件	8件

- ・認定看護師によるスキンケア外来によりストーマの良好な維持管理に貢献した。
- ・従来から行っている抗酸菌PCR検査に加え、マラリア病原体遺伝子の検出（PCR法）、通常培養において同定困難な菌に対するDNA解析装置（メチライザシステム）を活用し、感染症指定機関としての検査体制を維持した。
- ・地域包括ケア病棟では、急性期病院との連携・強化のほか、慢性期対応病院や介護施設並びに訪問介護ステーションとの連携を強化し、入院から在宅に向けた地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。
- ・地域包括ケア病棟におけるリハビリテーションは、24,427単位実施し、施設基準である1日平均2単位以上のリハビリテーションを提供した。
- ・全身麻酔下で手術を受ける患者、脳血管疾患障害の患者及び化学療法を受けている患者等に対して、感染症の防止を含む医療の質向上及び患者や家族のQOLを維持・向上させ、入院療養が円滑に進むように多職種から構成される口腔ケアチームによる口腔ケアを提供した。
- ・歯科衛生士が行った口腔ケア延べ人数 3,394人
- ・患者及び患者家族が安心して入院できるよう「入退院支援室」を設置し、10月から運用

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅において理学療法、作業療法及び、摂食・嚥下障害に対する言語聴覚療法を継続</li> <li>・診療部長による積極的な診療所訪問、地域医療福祉連携室における広報活動の充実</li> <li>・入退院センターの設置に向けた準備</li> <li>・訪問看護の365日提供を継続</li> <li>・がん診療における医科歯科連携の推進</li> <li>・院内助産の実施に向けた「信州大学院内助産リーダー養成コース」研修に助産師参加</li> <li>・産後ケア事業を持継続、生後3カ月までの乳児を持つ母親に授乳や沐浴の指導等を行う「宿泊型」と「デイサービス型」の2種類の支援を提供</li> </ul> <table border="1" data-bbox="235 817 815 1066"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28実績</th> <th>H30目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新外来患者数</td> <td>25,052人</td> <td>26,500人</td> </tr> <tr> <td>手術件数(手術室)</td> <td>1,546件</td> <td>1,650件</td> </tr> <tr> <td>内視鏡検査件数</td> <td>6,605件</td> <td>7,800件</td> </tr> <tr> <td>分娩件数</td> <td>82件</td> <td>265件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H28実績	H30目標	新外来患者数	25,052人	26,500人	手術件数(手術室)	1,546件	1,650件	内視鏡検査件数	6,605件	7,800件	分娩件数	82件	265件		<p>を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出産後の育児や体の回復に不安を抱える母子に育児指導やデイケアを提供することで、地域で安心して子育てできる環境づくりのため、産後ケア事業を維持継続した。</li> </ul> <p>産後ケア事業の実施状況</p> <table border="1" data-bbox="958 379 2056 529"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>宿泊型</td> <td>5人</td> <td>10人</td> <td>△5人</td> </tr> <tr> <td>デイサービス型</td> <td>7人</td> <td>19人</td> <td>△12人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における妊産婦、母体、胎児及び新生児への心身両面の一貫した医療を提供を継続している。</li> <li>・地域の高齢者のニーズに対応し、訪問リハビリテーションの充実を図り訪問リハビリ2,946件(29年度2,086件)実施。うち、作業療法士による訪問は764件実施。</li> <li>・4月から産婦人科常勤医師を3名から4名(うち産科常勤医師3名)に増員し、分娩取扱数を増加させ地域の産科医療の充実を図った。</li> <li>・院内助産の実施に向けて、助産師を「信州大学院内助産リーダー養成コース」研修に派遣した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 906 2056 1152"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新外来患者数</td> <td>24,623人</td> <td>24,943人</td> <td>△320人</td> </tr> <tr> <td>手術件数(手術室)</td> <td>1,613件</td> <td>1,603件</td> <td>10件</td> </tr> <tr> <td>内視鏡検査件数</td> <td>7,013件</td> <td>6,439件</td> <td>574件</td> </tr> <tr> <td>分娩件数</td> <td>186件</td> <td>123件</td> <td>63件</td> </tr> </tbody> </table>	内容	30年度実績	29年度実績	前年との差	宿泊型	5人	10人	△5人	デイサービス型	7人	19人	△12人	区分	30年度実績	29年度実績	前年との差	新外来患者数	24,623人	24,943人	△320人	手術件数(手術室)	1,613件	1,603件	10件	内視鏡検査件数	7,013件	6,439件	574件	分娩件数	186件	123件	63件
区分	H28実績	H30目標																																																
新外来患者数	25,052人	26,500人																																																
手術件数(手術室)	1,546件	1,650件																																																
内視鏡検査件数	6,605件	7,800件																																																
分娩件数	82件	265件																																																
内容	30年度実績	29年度実績	前年との差																																															
宿泊型	5人	10人	△5人																																															
デイサービス型	7人	19人	△12人																																															
区分	30年度実績	29年度実績	前年との差																																															
新外来患者数	24,623人	24,943人	△320人																																															
手術件数(手術室)	1,613件	1,603件	10件																																															
内視鏡検査件数	7,013件	6,439件	574件																																															
分娩件数	186件	123件	63件																																															
5	<p>ア 地域医療の提供(信州、阿南、木曾) 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。</p>	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、急性期から回復期、慢性期に至るまで幅広く患者層を受入れ、救急、訪問、へき地診療、施設の後方支援等を担った。内科医の確保について、昨年度から3名の常勤医が派遣され、また常勤の外科医が不在となったが、内科医でカバーするなど診療体制の充実が図られた。</li> <li>・整形外科を常勤医2人体制とし、大腿骨骨折等の手術を行い、地域のニーズに応えた。</li> </ul>																																															

			<p>・地域の医療ニーズの高い泌尿器科外来について、愛知医科大学からの非常勤医師を増員し、月4回に診療とし地域のニーズに応えた。患者数は増加し、前立腺癌等の画像診断件数の増により診療収入も増加した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来患者数</td> <td>775人</td> <td>616人</td> <td>159人</td> </tr> <tr> <td>診療収入</td> <td>5,957千円</td> <td>4,287千円</td> <td>1,670千円</td> </tr> <tr> <td>診療単価</td> <td>7,687円</td> <td>6,960円</td> <td>728円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・携帯型X線撮影装置及び携帯型超音波診断装置を用いて在宅医療における検査体制を充実した。 (巡回診療・訪問診療などでの利用件数：X線撮影 13件、超音波診断 1件) ※携帯型超音波診断装置については、その他股脱健診58件、救急外来99件、泌尿器科外来61件、病棟34件の利用があった。</p>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	外来患者数	775人	616人	159人	診療収入	5,957千円	4,287千円	1,670千円	診療単価	7,687円	6,960円	728円								
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差																								
外来患者数	775人	616人	159人																								
診療収入	5,957千円	4,287千円	1,670千円																								
診療単価	7,687円	6,960円	728円																								
6	地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。	阿南	<p>A</p> <p>・地域医療総合支援センターを中心に、訪問診察、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実を図った。施設入所や死亡などにより訪問診療の実患者が減少し件数も減少傾向にあるが、病棟看護師、訪問看護師、リハビリスタッフ等が連携し、患者が微増する中で、訪問看護、リハビリに力を入れ、在宅での療養生活を継続できるよう支援を行った。</p> <p>・阿南町医療介護連携支援システムを用いての、訪問記録の相互参照の拡大を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>968件</td> <td>817件</td> <td>151件</td> </tr> <tr> <td>訪問診療</td> <td>197件</td> <td>228件</td> <td>△31件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>1,037件</td> <td>1,052件</td> <td>△15件</td> </tr> <tr> <td>訪問薬剤指導</td> <td>91件</td> <td>78件</td> <td>13件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,293件</td> <td>2,175件</td> <td>118件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(課題)</p>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	訪問リハビリ	968件	817件	151件	訪問診療	197件	228件	△31件	訪問看護	1,037件	1,052件	△15件	訪問薬剤指導	91件	78件	13件	合計	2,293件	2,175件	118件
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差																								
訪問リハビリ	968件	817件	151件																								
訪問診療	197件	228件	△31件																								
訪問看護	1,037件	1,052件	△15件																								
訪問薬剤指導	91件	78件	13件																								
合計	2,293件	2,175件	118件																								

				人口減、在宅ニーズの低迷から訪問件数は大きな伸びは期待できないが、経営企画会議で毎月の動向を公表し、ポスター掲示など、地域連携室等が中心となって在宅医療が必要な患者へ医療を提供していく。																
7	(イ) 阿南病院 患者目標（延べ人数） 入院 21,500人 外来 43,200人	阿南	B	<p>患者数（延人数） 入院 19,272人 外来 47,667人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院は、常勤外科医の不在を内科や整形外科である程度カバーしたが及ばず、対前年、対計画とも減少した。</li> <li>・外来は、小児科で感染症の流行や日曜診療などにより患者が増加、また泌尿器科の定着などにより増加したが、やはり常勤外科医の不在、死亡、夜間透析希望の対応ができず、人工透析患者が大きく減少したことにより、対前年、対計画とも減少した。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・域医療構想、新公的病院改革ガイドラインの閾値（利用率70%）を見据えて抜本的な対策が必要となる。しかし圏域の人口減少や医師不足など厳しい環境の中で、さらなる地域との連携強化、公衆衛生活動の活性化、病床の再編などにより患者の確保を目指していく。</li> </ul>																
8	<p>【平成30年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療のあり方や病棟の再編等について検討、下伊那南部地域の中核病院として地域医療体制を整備</li> <li>・常勤外科医の欠員を内科、整形外科の常勤医でカバーし、診療機能を維持</li> <li>・内視鏡検査等の提供体制整備による、人間ドックの充実</li> <li>・小児科日曜診療の実施など診療体制の充実</li> <li>・OCT（光干渉断層診断）検査機器を活用し、加齢黄班変性症、緑内障の早期発見・診</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科では日々の外来のほか、町村への乳幼児健診等への派遣を継続した。また30年度は感染症の流行や月1回の日曜診療の実施などにより外来患者が増加した。</li> <li>・常勤外科医の不在を非常勤医師や内科でカバーし診療機能を維持した。</li> <li>・整形外科では常勤医2人体制となり、大腿骨骨折などの手術件数を伸ばした。</li> <li>・眼科では、前年度OCT（光干渉断層計）を用いて、加齢とともに多くなる網膜系の眼疾患の早期発見、治療にあたった。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 1134 2056 1334"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児科外来患者数</td> <td>5,319人</td> <td>4,836人</td> <td>483人</td> </tr> <tr> <td>整形外科手術件数</td> <td>35件</td> <td>15件</td> <td>20件</td> </tr> <tr> <td>眼科3次元画像解析</td> <td>827件</td> <td>791件</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公的病院ガイドラインへの対応や地域医療構想の二次医療圏における当院の役割を考</li> </ul>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	小児科外来患者数	5,319人	4,836人	483人	整形外科手術件数	35件	15件	20件	眼科3次元画像解析	827件	791件	36人
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差																	
小児科外来患者数	5,319人	4,836人	483人																	
整形外科手術件数	35件	15件	20件																	
眼科3次元画像解析	827件	791件	36人																	

<p>断・治療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CT撮影装置の更新による、画像診断の質の向上</li> <li>・「地域医療総合支援センター」では次の3センターの機能を拡充</li> </ul> <p>①「健康管理センター」</p> <p>内視鏡スタッフの確保による予約枠の拡大 乳幼児の1歳6カ月検診のワンストップサービスの実施</p> <p>②「へき地医療研修センター」</p> <p>「へき地医療臨床プログラム」に基づき信州医療センターと連携した信州型総合医の養成</p> <p>新専門医制度における連携病院として総合診療専門医を養成</p> <p>③「認知症なんでも相談室」</p> <p>市町村などとも連携しながら、公開講座などの啓発活動、地域住民に対する認知症サポーターなどの育成のための研修会等を実施</p> <p>「院内デイサービス」「認知症カフェ」を継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症対応については、次の事項に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>①「認知症なんでも相談室」の相談から治療</p>	<p>えながら、病棟再編について院内に病棟再編ワーキンググループを設置して検討を進め、1月から試行的に運用病床数を77床とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理センターにおける公衆衛生活動の充実</li> </ul> <p>①3歳児健診の受託（阿南町、天龍村、泰阜村）年4回実施</p> <p>②3歳児眼科検診の受託（阿南町、天龍村、泰阜村）年2回実施 （視能訓練士（ORT）の派遣による）</p> <p>③先天性股関節脱臼検診を超音波診断によるエビデンスに基づいた実施による異常の早期発見</p> <p>④人間ドックでは、予約枠を増やし、地元住民を積極的に受け入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地医療研修センターでの総合医育成への取り組み</li> </ul> <p>信州医療センターの総合診療医の受入れをして受託に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症なんでも相談室」での取り組み</li> </ul> <p>①専任スタッフと認知症認定看護師を配置し相談業務を積極的に行うとともに、ボランティアの協力を得ながら認知症を併発した入院患者を対象に院内デイサービスを実施した。</p> <p>②認知症カフェ「かふえなごみ」を継続開設、毎月第2木曜日に実施し認知症の方や家族の支援につなげた。 （相談業務：院内68件、院外82件、在宅訪問 6件、院内デイサービス：稼働 226日、818人、認知症カフェ：稼働10日、123人）</p> <p>③地域住民や関係団体へ啓蒙活動を積極的に実施した。 （認知症サポーター養成講習会 4回、99人）</p> <p>④認定看護師、各病棟、外来、アイライフ看護師を構成員とする「認知症ケア委員会」を設置し、困難事例への対応方法を検討し、認知症ケアの向上策を探った。（月1回）</p> <p>⑤高齢の患者が多い当院において職員が認知症を正しく理解し、高齢者に優しい病院・地域づくりの実践のため、新規・異動職員対象に院内認知症サポーター研修を継続実施</p>
--	--

<p>につなげるため、地域の病院から専門医師の派遣を受けて診療を実施</p> <p>認知症外来の開設を検討</p> <p>②認知症初期集中支援チームの運営への協力、診療圏町村の包括支援センターとの情報交換、サポート医の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予防リハビリや維持期リハビリを積極的に実施、認知症や高次脳機能障害患者に対する評価による質の高い支援</li> <li>・救急搬送については、ドクターヘリの円滑な運用に努め、救急患者の受入搬送体制を維持</li> <li>・院内ワーキンググループで人工透析の診療体制充実の検討</li> </ul>	<p>し職員の認知症の理解と意識の向上を図った。(2回開催、受講者38人)</p> <p>⑥認知症の治療については専門医の不在を内科医師が補っているが、地域住民が住みなれた場所で生活していける居場所づくりや相談から治療に繋げ支援をしていくための認知症外来の開設に向け、非常勤医師を確保し、認知機能のある患者さんへのコンサルトから、診療を行った。(専門医師による診療41人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回の非常勤の言語聴覚士を雇用し(その後常勤)嚥下障害、脳血管疾患の後遺症等の回復期へ手厚く対応した。</li> <li>・予防リハビリ、維持期リハビリの積極的な実施によりリハビリテーションの充実を図った。運動器リハ、呼吸器リハに関しては、職員の療養休暇等により、この間、須坂病院から週2日の派遣応援を受けて対応したが、実施単位は減少となった。</li> <li>・言語聴覚士が阿南老人保健施設においてミールラウンドを実施し、昨年度とほぼ同様の収益を確保した。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 756 2056 1252"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児脳リハ単位数</td> <td>0単位</td> <td>29単位</td> <td>△29単位</td> </tr> <tr> <td>小児脳リハ実患者数</td> <td>0人</td> <td>9人</td> <td>△9人</td> </tr> <tr> <td>脳血管リハ</td> <td>2,601単位</td> <td>1,916単位</td> <td>685単位</td> </tr> <tr> <td>廃用リハ</td> <td>11,782単位</td> <td>5,842単位</td> <td>5,940単位</td> </tr> <tr> <td>運動器リハ</td> <td>3,730単位</td> <td>4,929単位</td> <td>△1,129単位</td> </tr> <tr> <td>呼吸器リハ</td> <td>333単位</td> <td>422単位</td> <td>△89単位</td> </tr> <tr> <td>がんリハ</td> <td>0単位</td> <td>55単位</td> <td>△55単位</td> </tr> <tr> <td>摂食嚥下指導</td> <td>5,034件</td> <td>4,113件</td> <td>921件</td> </tr> <tr> <td>経口維持加算(老健)</td> <td>517件</td> <td>516件</td> <td>1件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテシステムは、稼働後5年半が経過し、ほぼ安定した運用管理が行われている。</li> <li>・遠隔操作が可能なモバイル端末を活用し、電子カルテシステムを訪問診療、へき地巡回診療及び地域の医療機関との連携強化に役立てているとともに、嘱託医として派遣して</li> </ul>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	小児脳リハ単位数	0単位	29単位	△29単位	小児脳リハ実患者数	0人	9人	△9人	脳血管リハ	2,601単位	1,916単位	685単位	廃用リハ	11,782単位	5,842単位	5,940単位	運動器リハ	3,730単位	4,929単位	△1,129単位	呼吸器リハ	333単位	422単位	△89単位	がんリハ	0単位	55単位	△55単位	摂食嚥下指導	5,034件	4,113件	921件	経口維持加算(老健)	517件	516件	1件
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差																																						
小児脳リハ単位数	0単位	29単位	△29単位																																						
小児脳リハ実患者数	0人	9人	△9人																																						
脳血管リハ	2,601単位	1,916単位	685単位																																						
廃用リハ	11,782単位	5,842単位	5,940単位																																						
運動器リハ	3,730単位	4,929単位	△1,129単位																																						
呼吸器リハ	333単位	422単位	△89単位																																						
がんリハ	0単位	55単位	△55単位																																						
摂食嚥下指導	5,034件	4,113件	921件																																						
経口維持加算(老健)	517件	516件	1件																																						

			<p>いる全施設で使用が可能となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院からの救急医については引き続き通年で協力が得られた。</li> <li>・以上の項目において実績数値においては、前年度を下回るものもあるが、当院においては、職員が不足しているなかで職員一丸となって、種々の事業に取り組んでいる状況を鑑み、所期の目標を上回る成果が得られていると評価する。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外科の常勤化を含め医師増員のめどがたったが、引き続き内科やドック部門での医師の補充に努め、安定的な診療体制の確保を図る必要がある。</li> <li>・人工透析については転院などにより減少傾向にあるが、診療圏内の患者状況や人口の動向、他院の状況を見ながら、患者の獲得を図りたい。</li> </ul>															
9	ア 地域医療の提供（信州、阿南、木曾） 地域の医療需要に応じた初期医療及び二次医療サービスの提供を行う。	木曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急性期医療を担う木曾郡内唯一の病院として、救急告示医療機関、災害拠点病院、へき地医療拠点病院等の指定を受け、24時間365日体制で全診療科がオンコール体制を敷き、救急医療を提供した。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者受入 件数(うち救急 車搬送受入件 数)</td> <td>5,058件 (1,040件)</td> <td>4,750件 (900件)</td> <td>308件 (140件)</td> <td>106.5% (115.6%)</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>821件</td> <td>799件</td> <td>22件</td> <td>102.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(課題)</p> <p>常勤の医師及び看護師を継続して確保していくこと。</p>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	対前年度比	救急患者受入 件数(うち救急 車搬送受入件 数)	5,058件 (1,040件)	4,750件 (900件)	308件 (140件)	106.5% (115.6%)	手術件数	821件	799件	22件	102.8%
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	対前年度比														
救急患者受入 件数(うち救急 車搬送受入件 数)	5,058件 (1,040件)	4,750件 (900件)	308件 (140件)	106.5% (115.6%)														
手術件数	821件	799件	22件	102.8%														

10	<p>地域において県立病院が担うべき在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導）及び各種検診業務を行う。</p>	木曾	A	<p>・地域の高齢化及び住宅でのターミナルケア等の患者ニーズに対応するため、24時間365日訪問体制の維持等、在宅医療を積極的に展開し、地域医療に貢献した。（訪問）</p> <p>・スタッフ一人体制になったため、件数が減少した（訪問リハ）</p> <table border="1" data-bbox="960 331 2051 580"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療</td> <td>549件</td> <td>501件</td> <td>48件</td> <td>110.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問看護</td> <td>3,708件</td> <td>3,275件</td> <td>433件</td> <td>113.0%</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ</td> <td>544件</td> <td>747件</td> <td>△203件</td> <td>72.8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4,801件</td> <td>4,523件</td> <td>278件</td> <td>106.1%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	対前年度比	訪問診療	549件	501件	48件	110.0%	訪問看護	3,708件	3,275件	433件	113.0%	訪問リハビリ	544件	747件	△203件	72.8%	計	4,801件	4,523件	278件	106.1%
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	対前年度比																									
訪問診療	549件	501件	48件	110.0%																									
訪問看護	3,708件	3,275件	433件	113.0%																									
訪問リハビリ	544件	747件	△203件	72.8%																									
計	4,801件	4,523件	278件	106.1%																									
11	<p>(ウ) 木曾病院 患者目標（延べ人数） 入院 46,107人 外来 129,256人</p>	木曾	A	<p>・地域包括ケア病棟の開設と適切なベットコントロールにより、入院患者数が増加した。外来患者数は地域の人口減少等により減少した。</p> <table border="1" data-bbox="960 722 2051 871"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>48,709人</td> <td>46,554人</td> <td>2,155人</td> <td>104.6%</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>127,418人</td> <td>128,076人</td> <td>△658人</td> <td>99.5%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	対前年度比	入院	48,709人	46,554人	2,155人	104.6%	外来	127,418人	128,076人	△658人	99.5%										
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	対前年度比																									
入院	48,709人	46,554人	2,155人	104.6%																									
外来	127,418人	128,076人	△658人	99.5%																									
12	<p>【平成30年度に推進する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次医療圏内唯一の病院として、24時間365日オンコール体制で救急医療の提供</li> <li>・木曾広域消防本部と連携し、救急搬送の事後検証会や早朝勉強会を開催し、関係職員の資質を向上</li> <li>・地域包括ケア病棟を開設、急性期・回復期及び慢性期それぞれの病床機能に応じた病棟運営</li> </ul>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二次医療圏内唯一の病院及び救急告示病院として、木曾広域連合と連携し24時間365日オンコール体制で救急医療を提供するとともに、救急対応をテーマとした早朝勉強会を計11回実施し、関係職員の資質向上に努めた。</li> <li>・地域がん診療病院として、職員それぞれが専門性を高め、横の連携を図ることで診療体制の充実を図るとともに、がん相談支援センターでは広報誌の定期発刊、がん患者サロンの開催等で支援体制の充実を図った。</li> <li>・郡内町村の健康増進施策に呼应し、介護予防に関する講演や集団体操指導、認知症に関する講義等を行う「地域巡回リハビリテーション」を4町村で合計13回実施し、延べ160人の参加があった。</li> <li>・地域包括ケア病棟の基準を満たせるように対応し、年度末には全実施単位数の48.9%を</li> </ul>																									

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実</li> <li>・「地域巡回リハビリテーション」の継続</li> <li>・当院では対応困難な脳外科手術、心臓手術などの緊急を要する治療を確保するため、隣接医療圏に所在する医療機関との連携を維持</li> </ul>		<p>投入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法部門では休職に伴う人員減により、地域包括ケア病棟の対応として、平日を充足させ土曜日の出勤数を減らし、365日リハビリテーションを継続した。</li> <li>・作業療法部門では、中途退職に伴う地域包括ケア病棟の対応として、休日出勤を廃止した。</li> </ul> <p>疾患別リハビリテーション</p> <table border="1" data-bbox="958 475 2056 769"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>34,548件</td> <td>29,612件</td> <td>4936件</td> </tr> <tr> <td>単位数</td> <td>53,496単位</td> <td>52,090単位</td> <td>1,406単位</td> </tr> <tr> <td>一件当たりの単位数</td> <td>1.55単位</td> <td>1.76単位</td> <td>△0.21単位</td> </tr> <tr> <td>早期加算算定件数</td> <td>11,920件</td> <td>23,344件</td> <td>△11,424件</td> </tr> <tr> <td>摂食機能療法件数</td> <td>4,330件</td> <td>3,980件</td> <td>350件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部で行われた人材育成事業（院内助産リーダー養成コース）の研修を修了した。研修を修了した助産師が中心になり、2月には助産師外来を開設した。また、産後ケア事業の1つとして、院内デイサービスを行い、産後2ヶ月までの母子のケアを行う体制を整えた。</li> <li>・地域母子健康連絡会議を偶数月に開催、各町村との連絡、情報交換を行った。</li> <li>・質の高い医療を効率的に提供するため、日本医療機能評価機構が行う病院機能評価3rdG:Ver.2.0を6月に受審し、認定を受けた。人事・労務管理の項目でSの評価を受けるなど日頃の取組みが評価された。</li> </ul>	区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差	件数	34,548件	29,612件	4936件	単位数	53,496単位	52,090単位	1,406単位	一件当たりの単位数	1.55単位	1.76単位	△0.21単位	早期加算算定件数	11,920件	23,344件	△11,424件	摂食機能療法件数	4,330件	3,980件	350件
区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差																								
件数	34,548件	29,612件	4936件																								
単位数	53,496単位	52,090単位	1,406単位																								
一件当たりの単位数	1.55単位	1.76単位	△0.21単位																								
早期加算算定件数	11,920件	23,344件	△11,424件																								
摂食機能療法件数	4,330件	3,980件	350件																								
13	<p>いへき地医療の提供（阿南、木曾）</p> <p>町村並びに地域の医療、保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、巡回診療により無医地区の医療確保に努める。</p>	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・看護師・薬剤師のチームによるへき地巡回診療を、今年度も継続して阿南町和合2地区へ隔週で実施し、切れ目のない地域医療の提供に努めた。</li> <li>・診療所医師の派遣については欠員時に短期の対応をしているが、本年度はなかった。当院では在宅当番医が診療に対応できなかった時に担当し、輪番での支援を行っている。</li> </ul>																								

	また、へき地診療所等からの要請に基づいた医師の派遣などの支援を積極的に行う。			
14	(ア) 阿南病院 ・医師・看護師・薬剤師等のチームによる、無医地区への巡回診療 ・へき地巡回診療、訪問診療、福祉施設等での診療における、モバイル端末を活用しての電子カルテシステムへのアクセスや、携帯型のX線装置や超音波診断装置を活用しての画像診断などの実施	阿南	A	医師・看護師・薬剤師のチームによるへき地巡回診療を、今年度も継続して阿南町和合2地区へ隔週で実施し、地域医療の提供に努めた。 また、モバイル端末を活用した電子カルテによりへき地巡回診療を行っており、検査結果に基づく診断・治療に効果を上げている。 ・診断機能の向上と利便性を図るため、携帯型X線装置や超音波診断装置を活用し、在宅医療における検査体制を充実した。 (巡回診療・訪問診療などでの利用件数： X線撮影 13件、超音波診断 1件) ※携帯型超音波診断装置については、その他股脱健診58件、救急外来99件、泌尿器科外来61件、病棟34件の利用があった。
15	・福祉施設等からの要請に基づく医師及び理学療法士の派遣	阿南	A	・特別養護老人ホーム等8施設のうち、7施設嘱託医として当院の医師5人を派遣した。 ・引き続き、診療圏の市町村及び福祉施設へリハビリ指導のため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を派遣した。(天龍村 集団12回、泰阜村 集団38回・個別75回、売木村 集団11回、救護施設富草寮 集団12回)
16	イ へき地医療の提供(阿南、木曾) 町村並びに地域の医療、保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、巡回診療により無医地区の医療確保に努める。 また、へき地診療所等からの要請に基づいた医師の派遣などの支援を積極的に行う。	木曾	A	・病院地域連絡協議会を2ヶ月に1回開催し、施設の状況把握に努めた。また、学習会、報告会を開催した。 ・地域包括支援センター会議に毎月出席し、介護の理解を深めるなど連携強化を図った。 ・病院・地域連携連絡会議(2ヶ月に1回)、病院・町村市域包括ケア推進会議(2町各1回、1町2回)、木曾広域連合 福祉・保健医療懇談会(年1回)、木曾医師会研修会等への参加を通じ、地域の関係機関との連携を図った。 ・常勤医師が体調を崩した木曾町ひよし診療所が行っていた周辺の施設2か所の訪問診療を代わって担当することとなり、月1回医師を派遣した。 ・周辺介護施設3か所の嘱託医を受託し、当院医師を派遣した。

17	<p>(イ) 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医師・看護師・薬剤師等のチームによる、無医地区への定期的な巡回診療</li> </ul>	木 曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町村、地域の医療・保健及び福祉関係者との連携をより強化するとともに、上松町2地区（台、才児）への巡回診療を各地区月1回実施し、無医地区の医療確保に貢献した。</li> </ul>
18	<p>ウ 介護老人保健施設の運営</p> <p>高齢者の地域での生活を支えるために、地域包括ケアシステムにおける病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。</p> <p>(ア) 阿南介護老人保健施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員による介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格取得を推進、認知症及び感染症、皮膚ケア等の研修への参加、阿南病院の認知症認定看護師の協力を得て、職員研修会を開催</li> <li>・広報活動等により、阿南病院診療圏内の利用者の増</li> <li>・介護福祉情報の共有を図り、サービスの質を向上</li> </ul>	阿 南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所は昨年に比べて新規入所が10%以上減小、リピーターの特養入所や要介護4,5の高い方の減小が目立った。ただ各事業所のケアマネージャー等との連携により、短期入所者の利用は1.7%の増加をみた。</li> <li>・感染症の研修会に参加し、研修内容を流行期に備え職員で共有し、実施した。阿南病院の認知症ケア委員会メンバーとして情報交換を行い、さらに自己のスキルアップのために施設外研修にも参加し、日々のケアに活かした。</li> <li>・通所リハビリテーションは、本年度、主要道路の通行止めがなかったこと、かつ新規利用者を獲得できたことで利用者数が対前年、対計画とも上回った。</li> </ul> <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当施設を定期的に利用されていた方が特養の本入所又は死亡されることが多く、また下伊那南部地域の人口減に伴い利用者の獲得が難しくなってきた。そのため新規利用者に再度利用していただけるように関係施設と連携調節をしながら充実したサービスの推進を行う必要がある。</li> <li>・地域医療介護連携システムの構築により、医療と介護情報の連携したサービスの把握に努める。</li> </ul>

19	<p>ウ 介護老人保健施設の運営</p> <p>高齢者の地域での生活を支えるために、地域包括ケアシステムにおける病院との機能分担と連携を図りながら充実したサービス等を提供する。</p> <p>(イ) 木曾介護老人保健施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短期集中リハビリ・個別リハビリを積極的に実施</li> <li>・職員の介護支援専門員（ケアマネージャー）の資格取得を推進、病院の認定看護師の協力を得て、職員研修を開催</li> <li>・高齢者虐待の防止や職業倫理に関する職員研修の実施、多職種間のコミュニケーションの向上</li> <li>・事業所訪問や木曾広域連合のCATV等を利用した広報活動</li> <li>・ボランティアの積極的な受け入れ</li> </ul>	木曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入所利用者で治療が必要な場合には、木曾病院で入院治療を行い、治療後は利用者の調整等を行った上で優先的に受入れを行った。また、木曾郡外からの受入れも行った。</li> <li>・在宅復帰困難な入院患者について、月2回の入所判定委員会に諮り、老健施設としては医療行為の必要性が比較的高い患者の受け入れも行った。また、在宅復帰に向け、リハビリを行いADL（日常生活動作）の維持に努めた。</li> <li>・入所者を対象とした個別リハビリテーションを積極的に展開した。短期集中リハ・短期入所個別リハは計3,322回（前年度比81.0%）と昨年度より減少したものの、個別のニーズには適切に対応することができた。</li> <li>・感染管理認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師による研修を受講し、施設内での感染防止、褥瘡対策を図るとともに、高齢者虐待防止研修会を開催し、安全管理及び職員の資質向上を図った。</li> <li>・認知症、医療・介護倫理について外部講師による学習会を行った。</li> <li>・シーツ交換や傾聴、敷地内の草取りなど地元ボランティア団体の積極的な受け入れや、毎月のイベントに楽器演奏等の地元団体を積極的に受け入れた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 850 2038 1046"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>対前年増減比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>短期集中リハ</td> <td>2,540回</td> <td>3,250回</td> <td>78.0%</td> </tr> <tr> <td>短期入所個別リハ</td> <td>784回</td> <td>842回</td> <td>92.9%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,322回</td> <td>4,100回</td> <td>81.0%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	30年度実績	29年度実績	対前年増減比	短期集中リハ	2,540回	3,250回	78.0%	短期入所個別リハ	784回	842回	92.9%	計	3,322回	4,100回	81.0%
項目	30年度実績	29年度実績	対前年増減比																
短期集中リハ	2,540回	3,250回	78.0%																
短期入所個別リハ	784回	842回	92.9%																
計	3,322回	4,100回	81.0%																

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州医療センターでは、平成31年1月より地域包括ケア病棟を3床増床し受け入れ態勢を整備するとともに、在宅復帰のための環境整備を図る改修工事に向け検討を進めた。開設後4年となる地域包括ケア病棟は、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーションとの連携を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。

こころの医療センター駒ヶ根では、多職種で診察を行う「もの忘れ外来」による診療や、駒ヶ根市が実施する認知症初期集中支援チーム事業への参画及び県の「地域型認知症疾患医療センター」の設置に向けた準備等、認知症医療の充実を図った。

阿南病院では、地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等を積極的に実施し在宅医療の充実を図った。

木曽病院では、4月に患者サポートセンターを設置し、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。

こども病院は、「長野しろくまネットワーク」(在宅電子連絡帳等)の運用などを通し、小児在宅医療に係る全県的なネットワークの推進に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(2)	関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビ	信州	A	在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）

1	<p>り、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(ア) 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟を3床増床（再掲）</li> <li>・訪問看護の365日提供（再掲）</li> <li>・地域包括ケア病棟において、理学療法と作業療法を365日間提供</li> <li>・在宅において理学療法、作業療法及び、摂食・嚥下障害に対する言語聴覚療法を継続（再掲）</li> </ul> <p>在宅医療件数</p> <table border="1" data-bbox="235 719 817 967"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28実績</th> <th>H30目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療件数</td> <td>319件</td> <td>260件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>4,394件</td> <td>4,500件</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ件数</td> <td>1,984件</td> <td>1,900件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,697件</td> <td>6,660件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H28実績	H30目標	訪問診療件数	319件	260件	訪問看護件数	4,394件	4,500件	訪問リハビリ件数	1,984件	1,900件	合計	6,697件	6,660件		<table border="1" data-bbox="958 236 2042 536"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療件数</td> <td>283件</td> <td>251件</td> <td>32件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>4,359件</td> <td>4,692件</td> <td>△333件</td> </tr> <tr> <td>うち 緊急</td> <td>(196件)</td> <td>(174件)</td> <td>(22件)</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ件数</td> <td>2,946件</td> <td>2,086件</td> <td>860件</td> </tr> <tr> <td>嚥下機能評価外来</td> <td>34件</td> <td>26件</td> <td>8件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・地域包括ケア病棟に対するリハビリテーションの実施のうち、日曜日の訓練については職員の配置が困難であること、現状においても、施設基準2単位を維持できている為休止とした。（土曜・祝祭日訓練は全病棟で実施継続）</p> <p>・作業療法士を一部兼務としたことで定期的な訪問リハビリが可能となり日常動作における多様なニーズに応えることと共に件数も増加した。</p>	区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差	訪問診療件数	283件	251件	32件	訪問看護件数	4,359件	4,692件	△333件	うち 緊急	(196件)	(174件)	(22件)	訪問リハビリ件数	2,946件	2,086件	860件	嚥下機能評価外来	34件	26件	8件
区分	H28実績	H30目標																																								
訪問診療件数	319件	260件																																								
訪問看護件数	4,394件	4,500件																																								
訪問リハビリ件数	1,984件	1,900件																																								
合計	6,697件	6,660件																																								
区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差																																							
訪問診療件数	283件	251件	32件																																							
訪問看護件数	4,359件	4,692件	△333件																																							
うち 緊急	(196件)	(174件)	(22件)																																							
訪問リハビリ件数	2,946件	2,086件	860件																																							
嚥下機能評価外来	34件	26件	8件																																							
2	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(イ) こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種チームが、地域との連携を推進し、診療体制を充実</li> <li>・駒ヶ根市が推進する「認知症初期集中支援</li> </ul>	駒ヶ根	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関等と連携した「もの忘れ外来（認知症専門外来）」による診療を実施した。（30年度初診受診者数61人）</li> <li>・駒ヶ根市がモデル事業で行っている認知症初期集中支援チーム事業に、作業療法士1人と看護師1人が参画し、訪問支援を行った。（30年度実績 訪問延べ53回、チーム会議参加延べ41人）</li> <li>・認知症ケアパス（地域連携パス）による医療機関からの紹介は0件であったが、当院から地域包括支援センターへ情報提供した件数は33件であった。</li> <li>・駒ヶ根市だけではなく、上伊那圏域の関係機関と連携し、認知症の予防から地域生活の維持までを支援する認知症疾患医療センター（地域型）の指定に向け、3月に、すでに指</li> </ul>																																							

	<p>事業」、伊南4市町村が推進する「認知症医療・介護連携事業」に引き続き参画、「認知症ケアパス」(地域連携パス)への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新オレンジプラン、県保健医療計画を踏まえた、地域型認知症疾患医療センターの指定に向けた検討</li> </ul>		<p>定を受けている飯田病院へ視察を行った。</p>								
3	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(ウ) 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問診療・看護・リハビリ・服薬指導等在宅医療の積極的な実施</li> <li>・在宅医療や介護等と連携した地域医療の役割の明確化、地域包括ケアシステム構築に向けた訪問看護ステーションへの応援・連携体制の検討</li> <li>・院内デイサービスの空き時間を利用した認知症カフェの継続</li> <li>・認知症看護認定看護師が中心となり、認知症サポーターの養成や地域への啓発活動などを積極的に実施</li> <li>・阿南町医療介護連携支援システムの登録対象者の増加によるシステムの更なる有効活用</li> <li>・阿南町の「地域ケア会議」への参画による</li> </ul>	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療総合支援センターにおいて、訪問診療、看護、リハビリ、服薬指導等を積極的に実施し、在宅医療の充実を図った。今年度は訪問リハビリで、新規患者が増えたこと、また在宅の患者の入院や施設入所が少なかったことにより、計画実施できたことにより件数を伸ばすことができた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="958 670 2056 769"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>在宅医療件数</td> <td>2,293件</td> <td>2,175件</td> <td>118件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※在宅医療件数：訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導回数の計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーションへの応援・連携体制について、今後の運営協力等について院内WGで検討し、運営の方向性等の協議を進めた。</li> <li>・専任スタッフと認知症認定看護師を配置し相談業務を積極的に行うとともに、ボランティアの協力を得ながら認知症を併発した入院患者を対象に院内デイサービスを実施した。</li> <li>・認知症カフェ「かふえなごみ」を継続、毎月第2木曜日に実施し認知症の方や家族の支援につなげた。(認知症カフェ：稼働10日、123人)</li> <li>・地域住民や関係団体へ啓発活動の実施(認知症サポーター養成講習会 4回 99人)</li> <li>・高齢の患者が多い当院において職員が認知症を正しく理解し、高齢者に優しい病院・地域づくりの実践のため、全職員の受講を目指して、院内認知症サポーター研修を実施し、職員の認知症への理解と意識の向上を図った。</li> <li>・認知症専門外来の開設に向け、関係機関へ協力を依頼した。認知機能の低下が見られる</li> </ul>	区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差	在宅医療件数	2,293件	2,175件	118件
区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差								
在宅医療件数	2,293件	2,175件	118件								

	<p>退院調整に係る情報共有、在宅医療における実践的な連携を強化、診療圏内の他の関係機関ともシステム化するなどの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田下伊那地域の「南信州在宅医療介護連携推進協議会」に参画</li> <li>・認知症初期集中支援チームの運営への協力、診療圏町村の包括支援センターとの情報交換、サポート医の養成（再掲）</li> </ul> <p>在宅医療件数 （訪問診療・看護・リハビリ・薬剤指導）</p> <table border="1" data-bbox="235 671 813 772"> <thead> <tr> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,198 件</td> <td>2,200 件</td> </tr> </tbody> </table>	H28 実績	H30 目標	2,198 件	2,200 件		<p>方とその家族へ問診・認知機能検査を行い生活障害への相談とともに、専門医師による診療へつなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケア加算2 算定要件である研修を、院内看護部を中心に認知症の方への理解を深めるため各部署への研修と集合研修（20名参加）を行った。</li> <li>・併設介護老人保健施設において認知症研修の実施（参加者15名）</li> <li>・各自治体・関係団体での認知症の研修会実施（3回 63名）</li> <li>・自治体や関係施設から個別の相談対応（認知機能低下に伴う相談 2件）</li> <li>・H30年度より院内に退院支援チームを発足し活動を開始している。</li> </ul> <p>①定期的なチーム会の開催②看護部内へ社会保険の成り立ちと介護保険の理解を深める目的の研修を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南町医療介護連携支援システムが、訪問医療において処置画像など多職種で共有され、処置の継続性が保てた。今後は、システム運用面等の課題を抽出して対応策を検討し、関係機関と連携していく。</li> <li>・地域ケア会議へ定期的な参加を行い、町内の関係者と町内の関係者と情報共有、課題協議ができた。また、入院患者にかかる困難処遇についての協同、福祉制度の活用等、検討が出来た。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この地域の地域包括ケアの運用に向けて認知症初期集中支援チームの運営協力について後方支援病院として全町村においてどのように対応するかさらに詰めていく必要がある。</li> </ul>
H28 実績	H30 目標						
2,198 件	2,200 件						
4	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(エ) 木曽病院</p>	木 曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に患者サポートセンターを設置し、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。</li> <li>・患者サポートセンターと退院支援チームが連携して退院支援の充実を図り、11月より退院支援加算の算定を開始した。</li> <li>・参照（p.10-No.10）</li> </ul>				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携室を中心に病院・地域連携会議を開催し、地域の医療・介護・福祉施設等と連携</li> <li>・入退院調整及び相談支援等について、専任の職員を配置</li> <li>・入退院支援に関する研修を関係職員対象に行い、支援体制を充実</li> <li>・人間ドック及び各種検診の充実、公開講座等による啓発活動を実施</li> <li>・「地域巡回リハビリテーション」を継続（再掲）</li> <li>・訪問診療・看護において電子カルテ用モバイル端末を活用し、医療機能の向上</li> </ul> <p>在宅医療件数</p> <table border="1" data-bbox="235 865 815 1114"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問診療件数</td> <td>479 件</td> <td>500 件</td> </tr> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>3,011 件</td> <td>3,000 件</td> </tr> <tr> <td>訪問リハビリ件数</td> <td>1,621 件</td> <td>800 件</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>5,111 件</td> <td>4,300 件</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	H28 実績	H30 目標	訪問診療件数	479 件	500 件	訪問看護件数	3,011 件	3,000 件	訪問リハビリ件数	1,621 件	800 件	合 計	5,111 件	4,300 件		<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.12-No.16）</li> </ul>
区 分	H28 実績	H30 目標																
訪問診療件数	479 件	500 件																
訪問看護件数	3,011 件	3,000 件																
訪問リハビリ件数	1,621 件	800 件																
合 計	5,111 件	4,300 件																
5	<p>関係市町村・福祉施設・医師会などと連携しながら、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、訪問薬剤指導などの在宅医療に積極的に取り組む。</p> <p>(オ) こども病院</p>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児等在宅医療連携拠点事業については、平成24年度から実施をしてきているが、国の事業としては終了となっている。平成27年度は県からの補助金を受け継続活動を行っており、引き続き県内の小児在宅医療の推進に努めている。</li> <li>・小児在宅医療に係るネットワーク構築が圏域ごとに進んできており、すそ野の広がりにも成果が出ている。地域の福祉・行政関係者との連携強化による在宅医療への円滑な移行を目指し、障害者相談支援専門員、療育コーディネーター及び各医療圏の保健師、訪問</li> </ul>															

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、福祉、教育、行政関係者との連携による、小児在宅医療に係るネットワークを構築</li> <li>・「長野しろくまネットワーク」(在宅電子連絡帳等)の運用、ホームページでの情報提供など、小児在宅に係る全県的なネットワークの推進、在宅患者のレスパイトケアの実施について検討</li> </ul>	<p>看護ステーションとの連絡会などに機会を捉えて参加したこともあり、圏域ごとのネットワークも成熟、中心的に圏域を引っ張っていける「コンダクターチーム」としての動きも出ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年1月から試験稼働した「しろくまネットワーク(電子手帳による家族を含めた関係者間との情報共有)」は対象者が50人となり支援者も233人と拡大してきている。年1回の学習会をはじめ各施設等に出向き個々の体験説明会を23回開催し拡大の働きかけを行った。今後も拡大の働きかけを続け独立運営ができるようにさらなる取り組みが必要。</li> <li>・重症心身障害児の実数調査は今後引き継いでいけるよう圏域のコンダクターチームに働きかけを行い協力している。</li> <li>・重症心身障害児のショートステイ受入体制充実検討のため、「松本圏域3病院短期入所連絡会」を月1回開催した。</li> <li>・県内の小児在宅を支える医療・福祉・教育関係者を対象に、「在宅医療の現状とこれから」「医療・福祉制度」「在宅診療報酬」「在宅支援の実際」についての小児在宅医療研修会を4回実施した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域ごとにチームが立ち上がってきてはいるが、まだ小児在宅に対する意識の地域差、職種間差がありその差をどう埋めか、また、かかりつけ医開拓をどのように進めるか、医療機関間の連携をどう密にし患児の情報共有をしていくかの課題はある。</li> <li>・県が小児在宅の推進をどう進めるつもりか、どう継続して、財源をどうするかという方針に基づき、こども病院がそれに協力体制を作っていく必要がある。</li> <li>・特別支援学校卒業後の生活(成人移行)をどう進めていくかといった課題もあるが、当院の中でも今後積極的に取り組むべきものである。</li> </ul>
---	---

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

#### (3) 高度・専門医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

感染症医療の提供では、信州医療センターが、第一種・第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等の感染症の発生等に適切に対応できる体制を維持するとともに、県の政策医療として結核患者を受入れ早期発見及び蔓延防止に努めた。

また、感染症の専門治療と研究及び教育機能を有する感染症センターにおける専門医療の提供、県内唯一の第一種感染症指定医療機関としての患者受入れ訓練の実施及びエイズ治療中核拠点病院として「H I V感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業」の多職種チームの設置などにより、感染症医療の県内拠点病院としての役割を發揮した。

精神医療の提供では、こころの医療センター駒ヶ根が、県の精神科医療の中核病院として、24時間365日体制で精神科救急医療、アルコール・薬物依存、児童精神科など多職種チームによる高度な専門医療を提供した。

児童・思春期精神科医療の充実について、思春期外来を開設するとともに、思春期デイケアを開始し、多職種連携によるS S T（ソーシャルスキル・トレーニング）を取り入れたプログラムの開発を行った。

高度小児医療、周産期医療の提供については、こども病院において、一般の医療機関では対応が困難な高度な小児医療の中核病院、県の総合周産期母子医療センターとしての機能を担いつつ、出生前心臓診断ネットワークの充実、遺伝子関連検査機能の強化と遺伝カウンセリング・フォローアップの推進、また、産後の精神的サポートを行う母子メンタルヘルス外来の開設や成人移行期医療支援外来の開設など、幅広い分野についてその役割を果たした。

がん診療機能の向上では、木曽病院が、地域がん診療病院として、がん相談支援センターや緩和ケアチームの体制を強化する等がん診療機能の充実を図り、こども病院は、信州大学医学部附属病院、信州がんセンター及び相澤病院と連携し小児がんの診療体制を強化する等、各病院において、

がんの治療や緩和ケア等で質の高い医療サービスを提供するため、医師や看護師などの技術水準の向上に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(3) 1	ア 感染症医療の提供（信州医療センター） 感染症の専門治療と研究及び教育機能を有する感染症センターにより、以下の役割を發揮 ・常勤感染症専門医2名による感染症の専門医療の提供	信州	A	・感染症センターでは、常勤感染症専門医1名ほか外科系診療科及び多職種から構成されるメンバーとの連携により、感染症専門医療の提供を行った。
2	・第一種・第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症の集団発生等に適切な対応ができるよう、定期的に「患者受入れ訓練」を実施	信州	A	・感染症病棟では第一種・第二種感染症指定医療機関及び県の政策医療としての新型インフルエンザ、エボラ出血熱などに備え、月1回程度PPE※着脱訓練、患者受入れ訓練を実施し、常に患者対応ができるよう準備するとともに設備の保安管理も実施している。 ・感染症病棟内研修等 感染症病棟関係職員対象PPE※着脱訓練、PPE※着用下での訓練（採血、血管確保、嘔吐物処理）、エボラ出血熱患者受け入れシミュレーション等を10回実施した。（参加者 延べ107人） ※PPE（personal protective equipment）：人に危険な病原体から医療従事者を守る個人用防護具。
3	・地域の医療機関などと協働で感染症発生時の地域行動計画の策定に参画	信州	A	・地域の医療機関などと協働で感染症発生時の地域行動計画等を策定するため、長野県新型インフルエンザ等対策委員として参加した。
4	・結核患者の受入体制の維持、県下各地域からの合併症を伴う肺結核の患者を受け入れ、	信州	A	・結核病棟で延べ4,397人の患者を受け入れた。（29年度5,229人） ・第93回日本結核病学会に参加し、当院他25施設間で実施した「地域連携パスの作成と

	地域住民、医療機関などに向けた結核に関する情報発信			運用」について発表した。						
5	・エイズ治療中核拠点病院として、県内の拠点8病院を統括	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エイズ患者診療患者数 33人（29年度末 33人）</li> <li>・エイズ治療拠点病院におけるH I V迅速検査を61件実施した。</li> <li>・エイズ治療中核拠点病院として「H I V感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業」の現地研修事業（厚労省委託事業）を10月30日～11月1日の3日間実施した。3名の訪問看護師の参加があった。</li> <li>・エイズ治療中核拠点病院として「H I V感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業」の支援チーム派遣事業（厚労省委託事業）は多職種チームを院内に設置し、研修会を企画したが、今年度の、参加申し込みはなかった。</li> <li>・H I V診療チームで、エイズデーなどの啓発普及活動、月1回症例検討や研修会参加、情報交換等の活動を行った。</li> <li>・エイズ治療中核拠点病院として県保健疾病対策課と連携して、エイズ治療拠点病院連絡会を年3回開催した。また、感染症医療従事者研修会開催に協力した。（薬剤師が講演、看護師が演題発表）</li> </ul>						
6	・県と協力して感染症の発生予防・まん延防止などの感染症対策を推進	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎善隆呼吸器感染症内科部長が長野県エイズ治療拠点病院連絡会座長と長野県医師会感染症対策委員会の委員長を務めている。</li> <li>・長野県「世界エイズデー」普及啓発週間に参加し、レッドリボンツリー、啓発品の展示や配布を行った。</li> <li>・情報発信については以下の取組を行った。</li> </ul> <p>山崎善隆呼吸器・感染症内科部長</p> <table border="1" data-bbox="958 1230 2056 1377"> <tr> <td>4.2</td> <td>千曲市:千曲市市民公開講座</td> <td>「高齢者に多い肺炎のことを知って健康寿命を延ばそう」</td> </tr> <tr> <td>4.29</td> <td>大阪市:第58回日本呼吸</td> <td>「呼吸器科医だからこそ取り組みたい肺炎球菌ワ</td> </tr> </table>	4.2	千曲市:千曲市市民公開講座	「高齢者に多い肺炎のことを知って健康寿命を延ばそう」	4.29	大阪市:第58回日本呼吸	「呼吸器科医だからこそ取り組みたい肺炎球菌ワ
4.2	千曲市:千曲市市民公開講座	「高齢者に多い肺炎のことを知って健康寿命を延ばそう」								
4.29	大阪市:第58回日本呼吸	「呼吸器科医だからこそ取り組みたい肺炎球菌ワ								

				器学会学術講演会	クチン接種ー院内体制整備と地域への普及ー
			5.9	上田市：上田市医師会学術講演会	「高齢者における認知症と不眠、そして誤嚥性肺炎」
			5.31	仙台市：第4回 みちのく肺疾患フォーラム	「肺非結核性抗酸菌症診療のポイント！ー新規吸入薬の話題を含めてー」
			6.29	阿南町：阿南病院 院内感染対策研修会	「高齢者肺炎の治療と予防」
			7.27	横浜市：神奈川呼吸器感染症フォーラム	「肺炎球菌ワクチン普及に向けた院内・地域での取り組み～健康寿命延伸をめざして～」
			8.31	さいたま市：肺炎球菌フォーラム in さいたま	「ICT・ASTによる院内感染対策と地域連携に向けた取り組み～予防接種を中心として～」
			9.21	千葉市：Meet the Specialist in CHIBA	「高齢者肺炎対策としての肺炎球菌ワクチン～AMR対策を推進するために～」
			11.22	伊那市：上伊那呼吸器研究会	「肺非結核性抗酸菌症診療のポイント」
			11.25	松本市：長野県女性薬剤師会、平成30年度第3回学術研修会	「薬剤耐性（AMR）対策のポイントー適切な抗菌薬治療を考えるー」
			11.29	丸子町：特定医療法人丸山会丸子中央病院 感染防止対策研修会	「肺炎球菌感染症と薬剤耐性（AMR）対策」
7	・県内の医療機関に対して感染症専門医によるコンサルテーション窓口を常設	信州	A	・長野県「世界エイズデー」普及啓発週間に参加し、レッドリボンツリー、啓発品の展示や配布を行った。	

8	<p>・北信地域の医療機関と情報を共有し、県内唯一の日本環境感染学会認定教育施設としての実績を活かして「北信ICT※連絡協議会」などを通じ、地域の感染対策水準の向上に寄与</p> <p>※ICT：感染対策チーム（インフェクションコントロールチーム（Infection Control Team））</p>	信州	<p>A</p> <p>・北信地域で抗菌薬使用量と耐性率に関するサーベイランス活動、合同カンファレンス及び相互ラウンドなどによって感染防止技術・対策の向上に貢献した。</p> <p>・山崎善隆感染症センター長が北信ICT連絡協議会代表理事を務め、年2回（8月、12月）、講演会と合同カンファレンスを開催した。</p>																
9	<p>・感染対策に関する講演会や出前講座を行うとともに相談に対応</p>	信州	<p>A</p> <p>・感染症の知識普及のため介護施設等へ出前講座等を行った。</p> <table border="1" data-bbox="952 622 2060 1005"> <thead> <tr> <th data-bbox="952 622 1512 678">開催場所</th> <th data-bbox="1512 622 2060 678">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="952 678 1512 821">           信州医療センター、須高医師会出前講座            ・愛ランドはるかぜ            ・グループホーム愛ランドわたうち         </td> <td data-bbox="1512 678 2060 821">           感染対策について、         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="952 821 1512 1005">           社会福祉施設等における感染症防止対策            ・小布施荘、朝日ホーム            ・小布施デイサービスセンター            ・グリーンアルム         </td> <td data-bbox="1512 821 2060 1005">           感染対策について         </td> </tr> </tbody> </table>	開催場所	内容	信州医療センター、須高医師会出前講座 ・愛ランドはるかぜ ・グループホーム愛ランドわたうち	感染対策について、	社会福祉施設等における感染症防止対策 ・小布施荘、朝日ホーム ・小布施デイサービスセンター ・グリーンアルム	感染対策について										
開催場所	内容																		
信州医療センター、須高医師会出前講座 ・愛ランドはるかぜ ・グループホーム愛ランドわたうち	感染対策について、																		
社会福祉施設等における感染症防止対策 ・小布施荘、朝日ホーム ・小布施デイサービスセンター ・グリーンアルム	感染対策について																		
10	<p>イ 精神医療の提供 （こころの医療センター駒ヶ根）</p> <p>患者目標（延べ人数）</p> <p>入院 37,668人</p> <p>外来 41,310人</p>	駒ヶ根	<p>B</p> <table border="1" data-bbox="952 1061 2060 1268"> <thead> <tr> <th data-bbox="952 1061 1243 1117">区分</th> <th data-bbox="1243 1061 1523 1117">30年度実績</th> <th data-bbox="1523 1061 1803 1117">30年度目標</th> <th data-bbox="1803 1061 2060 1117">対目標比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="952 1117 1243 1165">入院</td> <td data-bbox="1243 1117 1523 1165">37,515人</td> <td data-bbox="1523 1117 1803 1165">37,668人</td> <td data-bbox="1803 1117 2060 1165">99.6%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="952 1165 1243 1212">外来</td> <td data-bbox="1243 1165 1523 1212">40,051人</td> <td data-bbox="1523 1165 1803 1212">41,310人</td> <td data-bbox="1803 1165 2060 1212">97.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="952 1212 1243 1268">病床利用率</td> <td data-bbox="1243 1212 1523 1268">78.5%</td> <td data-bbox="1523 1212 1803 1268">80.0%</td> <td data-bbox="1803 1212 2060 1268"></td> </tr> </tbody> </table> <p>・30年度の目標値であり、当院の収支均衡を図り経営を安定させ、医療の質をさらに高めるための目標でもある「病床稼働率80%、1日外来患者数170人」を達成するため、“チ</p>	区分	30年度実績	30年度目標	対目標比率	入院	37,515人	37,668人	99.6%	外来	40,051人	41,310人	97.0%	病床利用率	78.5%	80.0%	
区分	30年度実績	30年度目標	対目標比率																
入院	37,515人	37,668人	99.6%																
外来	40,051人	41,310人	97.0%																
病床利用率	78.5%	80.0%																	

				<p>チャレンジ80”入院期間の適正化をキャッチフレーズとし、収益確保のための対策を実施した結果、病床稼働率79.7%となり、ほぼ目標を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均在院日数は69.3日、前年度比で1.7日延びた。</li> </ul>
11	<p>【平成 30 年度に推進する事項】</p> <p>県内の精神科医療の中核を担うべく次のとおり医療機能を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24 時間 365 日体制で、救急患者を受け入れ</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 24時間365日、重症精神科急性期患者の受入れに対応する常時対応型施設として空床2床を確保し、精神保健指定医等による診療応需態勢を整備した。(国の精神科救急医療体制整備事業) 措置入院37人、緊急措置入院2人を受入れた。</li> <li>・ 医療機関の診察時間外の緊急相談に対応する精神障がい者在宅アセスメントセンターへの相談件数は303件であった。(29年度262件)</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童精神科医療では、他の医療機関や福祉、教育機関との役割分担を明確化、連携体制の一層の強化、他医療機関では対応困難な症状の重い患者に医療を提供、県内の専門医療機関で構成するネットワークを活用した専門治療を行うため、「子どもの心の診療ネットワーク事業」へ参画</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童病棟運営会議等で、病棟運営や治療の評価及び検討を行った。</li> <li>・ 医師、看護師、臨床心理技師及び精神保健福祉士による多職種チームでの外来診療を行った。(30年度 117件、前年度比 8 件増)</li> <li>・ 7月に上伊那圏域連携サポート会議、11月に発達障がい診療地域連絡会上伊那圏域連絡会の参加し、教育、療育、保健、行政、医療分野の関係者と連携の効果と情報共有を行った。発達障がい診療地域連絡会では、当院副院長が全体のスーパーバイザーを務め、子どもに関わる地域の様々な専門職に対して助言を行った。</li> <li>・ 児童相談所との連携を強化するため、3月に児童相談所長会に参加した。</li> <li>・ 2月に発達障がい人材育成事業講演会を開催し、医療、教育、福祉分野から関係者106名の参加を得て、発達障がいへの理解と支援の連携の必要性について知見を深めた。</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多職種で構成する「認知症ラウンドチーム」により、認知症及び高齢の入院患者に対する治療方針の統一化</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症を有する入院患者に対して、早期に地域生活に戻れることを目指し、適切な治療と対応方針の検討を行う多職種で構成する「認知症ラウンドチーム」により、月2回院内ラウンドを実施した。(30年度実績 75人)</li> <li>・ 地域の医療機関等と連携した「もの忘れ外来(認知症専門外来)」による診療を実施した。(30年度初診受診者数61人)</li> <li>・ 参照 (p.16-No.2)</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急性期治療(依存症)病棟では、多様化す</li> </ul>	駒	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長野県全域から入院患者を受入れ、入院による専門的なアルコール依存症リハビリプ</li> </ul>

	る急性期患者を受け入れ	ヶ 根		<p>ログラムを提供した。(実参加者数90人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・28年度から開催しているうつストレス関連疾患患者を対象としたハートフルセミナーの実参加者数は40名であった。病棟を横断したセミナーとなっており、定着してきている。</li> <li>・3月に「ギャンブル依存症の理解」をテーマに、依存症関係機関研修会を開催し、講演と事例検討会を行った。関係機関から44人の参加があり好評を得た。</li> <li>・長野県全域から外来通院と入院による専門的な薬物依存症リハビリプログラムを提供した。(実患者数13人)</li> </ul>
15	・退院後3カ月以内の再入院率の減少	駒 ヶ 根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院後速やかに、多職種や地域関係者及び家族と支援会議を行い、退院後の地域生活について検討を行った。</li> <li>・外出・外泊評価シートを利用し、外出・外泊訓練前に目標を立て、訓練後の評価を多職種で検討し退院につなげた。</li> <li>・3カ月以内の再入院率は18.5%となった。(29年度実績 20.5%) 平成30年4～12月の全国の県立精神科単科病院の平均再入院率は19.8%であり、全国平均を下回っている。</li> </ul>
16	・長期在院者のうち、地域の受入れ条件が整えば退院可能である対象者への、多職種チームによる生活体験等の支援	駒 ヶ 根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期在院者検討委員会で6ヵ月以上の入院患者5ケースについて、上伊那圏域障害者総合支援センターや保健福祉事務所の職員とともに退院に向けた検討を行った。</li> <li>・1年以上入院している患者の退院支援を多職種チームで行い、8人の患者が退院した。(前年度8人)</li> </ul>
17	・病棟薬剤業務の充実や新薬の導入、薬物療法では効果が見られない場合に治療効果の高い修正型電気けいれん療法による治療	駒 ヶ 根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟薬剤業務として、救急・急性期病棟、依存症病棟、総合治療病棟服薬指導を1,190件行った。(前年度比26件増)</li> <li>・飯田市立病院から麻酔科専門医の派遣を受け、難治性、治療抵抗性の精神疾患患者に、週2回、1日に3例m-ECT(修正型電気けいれん療法)を実施し247件の治療を行った。(29年度 210件)</li> <li>・5人の治療抵抗性統合失調症患者に対しクロザピン治療を実施した。他の治療薬では効果が認められず、長期入院となっていた患者を通院治療に移行させることができた。</li> </ul>

				年度末投与者は外来2人、入院3人であった。
18	・精神科研修・研究センターと連携を取り、医療の質の向上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育研修委員会を中心に、各職種の教育管理を一元化するとともに、院内・院外研修の内容の充実を図り、評価・検証を行い医療の質の向上を図った。</li> <li>・教育研修委員会の委員に、精神科研修・研究センター長補佐を加え、院内外の研修体制の検討を行った。</li> </ul>
19	・入院治療と連動するデイケアプログラムの検討、多機能デイケア、訪問看護の充実や関係者との支援会議の開催など、外来医療の充実	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援強化の一環として休職して療養されている方に対応するため、リワーク協会の承認を受け、リワークプログラムを開始し、復職に向けたより効果的なサポートが可能となった。</li> <li>・プログラムの強化・改善を行い、目標を上回る1日平均40.1人の利用があった。(前年度比 2.1人の増加)</li> <li>・12月から毎月、救急・急性期病棟において多職種とのカンファレンスを実施し、上伊那地域の医療保護、措置入院患者の自宅退院後の訪問看護導入の検討を行い、訪問看護利用者の増加につながった。</li> <li>・初回入院の患者に対し、退院直後は週1回の訪問を実施することで、手厚い支援を行うことができた。</li> </ul>
20	・デイケア参加者の定期的な評価を行い、効果的な社会生活機能の向上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3カ月に1度、定期的に2職種以上での評価を実施した。毎週ミーティングを開催し、情報共有を図りながら地域生活に必要なケアを提供することができた。</li> </ul>
21	・多職種連携による効果的なプログラムを開発し、「思春期デイケア」を実施	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新設された思春期デイケアプロジェクトチームで検討を行い、SST等のプログラムを新たに追加し内容の強化を図った。</li> </ul>
22	・地域生活支援を推進するため、訪問看護機能を強化し、多職種チームによる訪問や退院後の早期訪問を実施、治療中断者等に対するアウトリーチ活動※を検討、クリニカルパス	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那地域の医療保護、措置入院患者について、自宅退院後の訪問看護導入の検討を行うため、12月から毎月、救急・急性期病棟において、多職種との退院調整カンファレンスを実施した。その結果、訪問看護利用者の増加につながった。</li> <li>・初回入院の患者に対し、退院直後は週1回の訪問を実施することに努め、手厚い支援を</li> </ul>

	<p>(入院診療計画書) に在宅医療導入のための項目の追加、入院開始時から退院後の支援も視野に入れた治療の実施</p> <p>※アウトリーチ活動：受療中断者や自らの意思では受診が困難な精神障がい者を対象に、看護師、作業療法士及び精神保健福祉士等の専門スタッフが「多職種チーム」として、それぞれの技術、知識を用い、医療や生活に関することなど多面的な支援を共同で行う。</p>			<p>行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者の支援会議に訪問看護科が55回参加し、入院中から退院後の訪問看護を見据えた支援を行った。</li> <li>・外来患者の支援会議に訪問看護科が135回参加し、地域で安定し過ごせるようにアセスメントや情報共有を行い、利用者のニーズに沿った訪問看護を行うことができた。</li> <li>・精神保健福祉士、作業療法士及び薬剤師との多職種訪問は合計で107件となった。入院中から関わりのある精神保健福祉士と訪問することにより、退院直後の患者に対し、スムーズに地域資源や支援方法の提案と導入支援を行うことができた。</li> <li>・アウトリーチ活動については、駒ヶ根市の担当者と情報共有を図った。</li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携室が中心となり、入院から退院後まで質の高い支援が図られるように病院、診療所及び市町村・福祉施設との連携機能強化及び院内における相談機能の充実、入院時、退院時には原則精神保健福祉士が関わるようにし、一貫した支援の実施</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関及び退院後の受入先との連携を図るため、病院や地域の診療所及び退院後に入居する福祉施設等の訪問を行った。 (訪問件数：病院・診療所7件、福祉施設10件)</li> <li>・入院時及び退院時には、原則として精神保健福祉士が関与し、地域支援者の状況、福祉制度利用状況、入院及び退院時の課題などについてのアセスメントを実施した。それにより、多職種間での情報共有及び連携が促進され、一貫した支援が可能となり、さらに地域生活へのスムーズな移行、施設での生活維持に向けた支援が図られた。</li> <li>・長野県内で初めて、近隣保健所と連携し、措置入院患者に対し、「地方自治体が行う退院支援のガイドライン」に沿った退院支援を開始した。</li> </ul>
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療観察法に基づく指定入院及び通院医療機関として、対象者が社会復帰するために適切な医療の実施</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国及び他の指定入院医療機関などとも連携して社会復帰に向けた治療を行った。</li> <li>・今年度、新たな入院の受入れは0人、入院処遇の終了者(退院)は1人、1日平均入院患者数は5.0人であった。(3月末現在：入院5人、いずれも回復期)</li> <li>・運営会議、倫理会議で慎重に検討した上で、m-ECT治療やクロザピン処方などを実施し、治療の効果がみられている。</li> <li>・通院処遇では、2人に対し治療を行い処遇終了に至った。</li> </ul>
25	ウ 高度小児医療、周産期医療の提供	こ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者数</li> </ul>

	(こども病院) 患者目標 (延べ人数) 入院 52,797 人 外来 63,113 人	ど も	入院 55,723人 (前年度比104.0%) 外来 64,946人 (前年度比103.3%) ・入院外来ともに目標数に到達し、過去最高の患者数となった。																																																											
26	<b>【平成 30 年度に推進する事項】</b> 高度小児医療、救急救命医療及び周産期医療を提供するため、次のとおり取り組む。 ・新生児及び小児の重症患者を全県及びその周辺地域から受け入れ、ドクターカーの配備によって、24 時間体制で緊急時の対応、コンパクトドクターカーの効果的な運用	こ ど も	A ・24時間の救急担当医配置などの救急医療体制をとる中で、3,901人の救急患者の受入や、ドクターカーの379回の出動を行い、県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。 ・コンパクトドクターカーを送り搬送を中心に運用し、病院間連携及び搬送事業体制の充実・強化が図られた。 ・当院P I C U (小児集中治療室) と県下 5 地域の地域中核病院との間で、それぞれ症例検討会議を開催し、病院間連携の強化及び長野県における小児重症治療の質の向上に努めた。 <table border="1" data-bbox="958 762 2056 1337"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">平成30年度</th> <th colspan="3">平成29年度</th> <th colspan="3">前年との差</th> </tr> <tr> <th></th> <th>迎え 搬送 等</th> <th>送り 搬送</th> <th></th> <th>迎え 搬送 等</th> <th>送り 搬送</th> <th></th> <th>迎え 搬送 等</th> <th>送り 搬送</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数 (人)</td> <td>3,901</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3,874</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>27</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ドクターカー 出動回数(回)</td> <td>267</td> <td>257</td> <td>10</td> <td>283</td> <td>265</td> <td>18</td> <td>△16</td> <td>△8</td> <td>△8</td> </tr> <tr> <td>コンパクトド クターカー出 動回数(回)</td> <td>112</td> <td>11</td> <td>101</td> <td>110</td> <td>5</td> <td>105</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>△4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>379</td> <td>268</td> <td>111</td> <td>393</td> <td>270</td> <td>123</td> <td>△14</td> <td>△2</td> <td>△12</td> </tr> </tbody> </table> ※迎え搬送等内訳	区分	平成30年度			平成29年度			前年との差				迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送	救急患者数 (人)	3,901	-	-	3,874	-	-	27			ドクターカー 出動回数(回)	267	257	10	283	265	18	△16	△8	△8	コンパクトド クターカー出 動回数(回)	112	11	101	110	5	105	2	6	△4	合計	379	268	111	393	270	123	△14	△2	△12
区分	平成30年度				平成29年度			前年との差																																																						
		迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送		迎え 搬送 等	送り 搬送																																																					
救急患者数 (人)	3,901	-	-	3,874	-	-	27																																																							
ドクターカー 出動回数(回)	267	257	10	283	265	18	△16	△8	△8																																																					
コンパクトド クターカー出 動回数(回)	112	11	101	110	5	105	2	6	△4																																																					
合計	379	268	111	393	270	123	△14	△2	△12																																																					

				平成30年度：ドクターカー（迎え搬送232、三角搬送24、往診1） 平成29年度：ドクターカー（迎え搬送240、三角搬送21、往診4）
27	・救急外来を中心とした院内の救急診療体制と病院間連携を充実・強化	こども	A	・小児緊急入院患者数 942人（前年度比 98%） ・救急患者数 3,901人（前年度比 101%） ・担当診療科が明らかでない緊急入院患者については、総合小児科が担当診療科となり、そのベッドコントロールは看護管理者が行うなど、円滑な受け入れが行えた。
28	・県内消防機関との意見交換会を開催し、課題の研究や症例検討等を実施	こども	A	・県内13消防機関と信州大学医学部附属病院高度救命救急センター、こども病院による意見交換会及びこども病院施設見学会を1月に開催した。 ・救急時のよりスムーズな連携に向けて、病院と救急双方の立場から意見を出し合うことができた。 (課題) ・小児及び周産期救急に係る連携強化のため、引き続き意見交換会を開催していく必要がある。
29	・在宅人工呼吸器装着患児などの情報を記載した救急情報連絡カードの利用拡大	こども	A	・長野県下の各消防署の協力を得て、在宅人工呼吸器装着患児の情報を記載した「救急情報提供カード」について、平成30年度は新たに12人（人工呼吸器装着患者11人）の登録を行った。運用を開始した平成25年6月からの登録者数は合計65人(内6人死亡)になった。家族からは「救急情報提供カード」携帯により安心感があるという声が聞かれた。 (課題) ・少しずつ所持者が全県に広がってはいるものの、今後も地域の拠点病院と連携を図りながら、所持者の拡大を図ること、人工呼吸器装着患児の他、何らかの医療的ケアを必要とする患児に対象を拡大することが必要であるとともに、効果についても検討していく必要がある。
30	・信州大学医学部附属病院及びこころの医療センター駒ヶ根と共同して、こどもの心の診療を充実	駒ヶ根	A	・こども病院の神経小児科等と連携し、治療を行った。 こども病院からの紹介患者 6人 ・信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部と連携し、治療を行った。

				<p>信大医学部附属病院子どものこころ診療部からの紹介患者 3人  信大医学部附属病院子どものこころ診療部への紹介患者 1人</p> <p>・子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、2月に公開講座「不安定な愛着をもつ親と子どもの支え方」を実施した。(参加者 100人)</p>
31	同上	こども	A	<p>・県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に、講師として専門家を派遣し、各地域における発達障害診療のネットワークづくりに寄与した。参加者数は1,047人で各圏域の発達障がい診療のネットワークづくりに役立てた。また、医師向け研修会では、77人の医師が参加し発達障がい診療体制の整備に寄与した。</p>
32	・県及び信州大学医学部附属病院等と連携し、地域産科・周産期施設との出生前心臓診断ネットワーク（先天性心疾患スクリーニングネットワーク）の構築、インターネットも活用した地域拠点病院間の画像診断データを用いた遠隔診断を推進	こども	A	<p>・懸案であった胎児遠隔診断システム構築に関しては、長野赤十字病院とこども病院間で倫理委員会承認を得た後、試験的画像診断の送付をDVDで実施した。H31年度4月から本格稼働することになった。本稼働に向けて事務手続きについて療育支援部と協議し両病院間のデータ手続きシステムを構築した。</p> <p>・平成30年度の胎児心臓病学会の症例登録registryに症例を登録した。(254例)</p> <p>・平成30年12月16日に日本胎児心臓病学会レベルII講習会遠隔セミナーを長野県立こども病院でITを用いて開催し合計8人の参加を得た。</p> <p>(課題)</p> <p>・長野県内の胎児診断ネットワーク構築については、個別病院ごとの交渉と対応をしているが、県全体で構築するためには協議会の設立が必要。</p> <p>・依然として新生児期緊急手術を要する「総肺静脈環流異常」「完全大血管転換」などの胎児非診断例があり、これらの診断率の向上のためのスクリーニング体制及び診断のための教育普及システムの構築が必要。</p>

33	<p>・患者の自立教育のためのツール作成、外来でのコーディネーター看護師の育成、成人先天性心疾患の地域医療ネットワークを構築</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯医療としての移行医療という観点から、外来で使用する患者家族向けのリーフレットを作成し、日常診療で活用。さらに従来の患者病歴サマリーを作成して患者の『自立教育』の促進をさらに図ることができた。</li> <li>・成人移行医療モデルとして、全国でも先進的な“長野モデル”を全国に向けて情報発信。平成30年度は 信州大学へのACHD移行症例数は485例。信大からの逆紹介例は18例。</li> <li>・電子カルテ内に成人移行医療対象患者台帳を作成し、外来に成人移行のためのフォローアップ体制を医師、看護師、SWなどで構築し運用を開始した。</li> <li>・学会活動への積極的参加：日本循環器学会を中心とする関連8学会から発表された「先天性心疾患の成人への移行医療に関する提言」の改訂版を平成31年3月に発表。</li> <li>・平成31年度から発足した日本成人先天性心疾患学会の専門医制度発足に伴い、信州大学との連携研修施設として認定され、暫定専門医として当院医師の2名が認定を受けた。</li> <li>・日本小児科学会小児慢性移行医療検討委員会委員として当院医師が任命され、移行医療提言作成に関わるようになった。</li> <li>・長野県成人先天性心疾患研究会を信州大学と共同で2回開催した。(平成30年6月15日、10月26日)</li> </ul> <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療内容の拡大に伴い、長野県立こども病院と信大の2施設間だけではなく、長野県内の基幹施設(小児と循環器内科)との間で成人移行のためのネットワーク構築が必要。</li> <li>・成人移行のための患者自立教育体制の整備と教育コンテンツの作成を推進することが必要。(予算化の必要性)</li> </ul>
34	<p>・生命科学研究センターの高度解析装置を活用した、先天異常症、腫瘍などの遺伝子関連検査機能の充実、遺伝科医及び遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングの実施及びフォローアップを推進</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学研究センターに設置された高度検査機器を活用して、遺伝子関連検査428件(遺伝学的検査12件、腫瘍関連検査43件、移植関連検査1件、病原体遺伝子検査372件)を実施し、診断・治療に有効に活用した。</li> <li>・6月より信州大学病院遺伝子医療研究センターと連携し保険収載された指定難病の遺伝学的検査を開始し、当院で12件、信州大学で12件のクリニカルシーケンスを実施し</li> </ul>

			<p>た。また、24件すべての症例について、遺伝科（臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー）による検査前遺伝カウンセリングを実施し、患者の自己決定による遺伝学的検査の実施選択をサポートするとともに、検査後遺伝カウンセリングにより遺伝学的検査結果の理解を手助けし、適切な健康管理に結びつけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生命科学研究センターにおける人材育成プログラムの一環として、次世代シーケンサーを用いた「微小残存腫瘍検出系の構築」という臨床研究を通じて、3名のスタッフの解析技術を高めた。</li> <li>・ 遺伝子診療学会、血液学会および染色体研究会にそれぞれ臨床検査技師1名を派遣し、遺伝子関連検査・解析の知識および技術の向上を目指した。染色体研究会では症例提示も行った。</li> <li>・ 臨床検査技師である2名の社会人大学院生（前期課程）を指導し、修士号の取得をサポートすることによって高度技術者としての人材育成に寄与した。</li> <li>・ 来年度に向けた外部研究費の獲得を目指し、科研費公募に5件の応募申請を行った。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外部研究費獲得・管理に向けた院内体制の整備。</li> <li>・ 生化学的分野の研究環境の整備。</li> <li>・ 総合的な研究能力を備えた創造性の高い人材の育成。</li> </ul>
35	・ タンデムマス法等を用いた新生児マス・スクリーニング検査を県から受託実施、先天性代謝異常症等の早期発見・早期治療と専門医によるフォローアップ、遺伝科医及び遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングを推進	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新生児マススクリーニング検査を引続き県から受託し、初回検査15,369件、再検査830件のスクリーニングを行った。精密検査が必要な新生児はのべ26例、先天性甲状腺機能低下症（疑い含む）の13人、副腎過形成症1人の診断がついた。4名は現在精査中。残りの8例は正常と診断した。</li> <li>・ 必要に応じて遺伝カウンセリングを行った。患者家族の疾患への理解を手助けし、心理的なサポートを行う体制を確立した。また、スクリーニング結果の把握から精密検査、診断および治療に総合小児科医師が加わることにより、早期発見・早期治療を円滑に行った。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・精密検査およびフォローアップ検査（他施設からの依頼検査を含む）を実施した[75名（126件）、うち他施設分は11名（14件）]。</li> <li>・受託開始から平成29年度までのマスキング検査件数および検査成績をこども病院学術雑誌に投稿し、掲載された。</li> <li>・県との協力のもと11月に連絡協議会を開催し、対象疾患の追加およびOTC（カルチトランスカルパモイラーゼ）欠損症に関する研究の開始について協議し、翌年度から実施することとした。</li> <li>・必要に応じてろ紙血採取施設に対して適正な検体採取法の指導を行い、高い検査精度の維持を実現した。</li> </ul> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受託検体数の維持。</li> <li>・県との協力による協議会のさらなる充実。</li> <li>・新しい確認検査法の導入（協議会での協議と検査法の性能検討）。</li> </ul>
36	・改正臓器移植法に基づいた、適切な対応	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳死移植関係マニュアルを脳死移植委員会を中心に整備し、最終版が完成した。</li> <li>・実際の患者を対象に、脳死判定マニュアルに基づいて対応した。</li> <li>・上記経験を振り返りより詳細の検討を行った。</li> <li>・心停止下臓器提供についても講演会を開催し、院内体制の整備を行った。</li> </ul> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に臓器移植関係検討委員会を開催し、臓器移植の患者発生時に備える。</li> </ul>
37	・エコーセンターの機能を充実し、超音波診断に関する院内外の専門医・技術者等育成	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコーセンターの指導体制は、日本超音波医学会指導医3名、超音波専門技師1名の構成で実施した。</li> <li>・平成30年度もこの研修システムを利用した県内医療施設の臨床検査技師1人が、日本超音波医学会の超音波専門技師試験に合格した。</li> <li>・エコーセンターでの臨床研究研修としてオーストリアからの短期留学生1名が3週間研修した。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコーセンターでは、平成30年度は循環器小児科 GE E95 (GE社)、麻酔科Konika が導入された。</li> <li>・平成30年度の外来エコー検査件数は9,974例で、保険収益は前年度の58,402千円から62,254千円となり、前年比6.6%の増収となった。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコーセンター勤務の超音波専門検査技師の人材確保と育成が急務である。</li> <li>・超音波機器の保守計画について、随時見直しが必要。</li> <li>・エコーレポートシステムのサーバー更新がすでに2年遅れており、このままではレポートシステムが使用できなくなり、動画サーバーの保守とともに解析ソフトなど臨床上必要な画像管理システムの整備が喫緊の課題である。</li> </ul>
38	・県内周産期医療機関の要請に応じて、軽度胎児異常分娩の患者を受け入れ	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度の分娩数は295件で、25件/月の目標は達成した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、分娩数を大幅に増加させることは期待できないが、軽度から重度な胎児異常の妊婦を全県より引き受け現状の分娩数維持を目標とする。リエゾン精神看護師の常勤化に伴い母子メンタルヘルスケア外来をさらに充実する。</li> </ul>
39	・予防接種センターにおいてワクチン接種に関する各種相談業務及び県民・医療者への啓発活動を実施	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県予防接種センターを委託され、新たに一般向けに研修会を開催した。</li> <li>・ワクチン接種で防ぐことのできる病気から小児を守るため、当院かかりつけの患児に対する予防接種の情報提供、スケジューリング、相談業務および接種を実施した。合計384件の相談があり、予防接種数の増加に寄与した。</li> <li>・のべ443人(のべ828本)の接種を行った。入院中の予防接種も積極的に推奨を行い182回の接種に繋がった。</li> <li>・ホームページや院内掲示を用いての予防接種に関する情報提供を行った。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談対象や相談枠の拡大のためには人的体制の拡充が必要。</li> </ul>
40	・「長野しろくまネットワーク」(在宅電子連	こ	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.19-No.5)</li> </ul>

	<p>絡帳等)の運用、ホームページでの情報提供など、小児在宅に係る全県的なネットワークの推進、在宅患者のレスパイトケアの実施について検討(再掲)</p>	<p>ど も</p>		
41	<p>・極低出生体重児の2次障害(不登校・うつ病等)予防のための継続的な医学的健診、定期的発達検査及びホームページを活用した療育相談に対しての情報発信(「よくある質問への回答」の掲載)、育児相談の実施、思春期を超えた長期フォローアップ体制の整備</p>	<p>こ ど も</p>	A	<p>・長野県で出生した極低出生体重児の全保護者への、安心した子育てにつながる医学的情報の提供とフォローアップ体制の強化を実施した。現在は極低出生児だけではなく、その他合併疾患のある児の一部も同様のフォローアップ体制に組み込んでいる。</p>
42	<p>・新生児病棟入院児の保護者、の精神的なサポート(心のケア)体制の構築</p>	<p>こ ど も</p>	A	<p>周産期うつに対するスクリーニングテストや精神科受診のためのフローチャートを作成し、メンタルヘルス外来を開始した。 緩和ケアチームの一員として体制を整え、コンサルテーション方法を定め、加算を開始した。 (課題) 実際の紹介患者数は少なく、精神科への敷居の高さがうかがわれる。院内に浸透するための取り組みが求められている。周産期の精神障害、集団精神療法についての勉強会をそれぞれ開催したが、チーム医療としてのかかわりが必要である。</p>
43	<p>・ハイリスク妊娠の対応、遺伝カウンセラー・臨床心理士の妊産婦へのかかわりの拡充を検討、遺伝カウンセリングに柔軟に対応できる外来枠の設定についての検討</p>	<p>こ ど も</p>	A	<p>・胎児診断目的での受診者数は、382件と例年と大きな変化はなかったが、母体高年齢のため出生前診断を希望し紹介受診となる妊婦が、昨年までは10人にも満たない状態であったが、平成30年度は33症例と増加している。 ・母体高年齢に対する出生前診断のニーズに対応するため、当科で実施している絨毛・羊水検査の侵襲的確定診断やクアトロテストのみならずNIPTにもフレキシブルに対応できるように、他府県の医療機関への紹介も随時行っている。 ・そのため当科での絨毛・羊水検査の実施件数は母体高年齢が増加しているにも関わら</p>

			<p>ず、例年と変化は認めない。これは、出生前診断に対する十分な遺伝カウンセリングが実施できていることを意味している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重篤な先天性の疾患について、次子の妊娠についての着床前診断、出生前遺伝子診断等にも数例ではあるが、対応している。今後このような家族に対する遺伝カウンセリングが増加することが予想される。</li> </ul> <p>(今後の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年6月よりNIPTが一般産婦人科（分娩取り扱い施設）で開始される予定であるが、陽性となった症例は基幹病院での遺伝カウンセリングを受ける必要がある。その場合、当科もしくは信州大学への症例の集中する可能性が危惧されるため、開始後の対応を考えておく必要がある。</li> </ul>
44	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーに対する診療体制として「食物アレルギー診療チーム」の強化・充実を図り、食物経口負荷試験の実施件数を増加、小児アレルギーエデュケーター※の養成</li> <li>※小児アレルギーエデュケーター：患者及び家族に対し、適切なセルフケアについて教育・指導できる日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会の承認する資格。</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児アレルギーエデュケーターの養成を行い、新たに1名が研修を開始した。</li> <li>・食物アレルギーや内分泌負荷試験等について、これまでの外来対応から検査体制を整備し7月から集中的評価、指導を行う日帰り入院での対応とし、充実を図った。</li> </ul>
45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院等の関係施設と協働してクラニオセンター、漏斗胸センター及び血管奇形センターの設置に向けた検討</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門外来および診療体制の充実を図った。漏斗胸センターにおいては、今年度漏斗胸専門外来受診総数は191人、新患42人、内県外患者が4人、CT外来受診者は60人であった。血管奇形センターに関しては421件のレーザーによる治療を行い、その内38件が全身麻酔下で治療を要する状況であった。</li> <li>・クラニオセンターにおいては、頭蓋形状誘導療法を目的とした受診患者が10名と増加した。この内5名を治療対象と判断しヘルメット装具治療を施行した。経過中の装具調整に関しては、昨年度に講習会を受講した装具技師による調整を行った。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方、顎顔面領域における治療に対しては信州大学医学部附属病院及び松本歯科大学病院との定期的なカンファレンスを開き治療方針の決定を行った。これに基づき小顎症による上気道狭窄患児に対し下顎骨延長治療を施行し気管切開を回避し気道障害の改善を成し得た。またApert症候群患児に対しては創内および創外延長に吸収プレートを使用した新たな骨延長術を施行し、眼窩周囲と咬合両者においてバランスの取れた良好な顔貌の形成を成し得た。</li> <li>・漏斗胸治療においては形成外科領域における漏斗胸疾患のガイドライン作成に携わった。また10月には全国学会でのシンポジウムにおいて「胸郭運動システムおよび成長変化を考慮した胸郭形態および機能再建」のタイトルで当院での20年にわたる漏斗胸診療を通じ培った内容をまとめ報告した。昨年度より徐々に増加をみる思春期以降の漏斗胸初診患者は16件であった。</li> <li>・血管奇形治療に対しては、新たな治療法となった塩酸プロプラノロールによる血管腫治療の使用成績調査として当院で治療を施行した15症例につき追跡評価を施行した。 (課題)</li> <li>・クラニオセンターにおいては頭蓋形状誘導療法症例数は増加したものの、初診時期の関係で実際の治療適応時期から外れてしまう症例が半数程度みられた。乳幼児検診時期の問題もあり、適切な紹介時期等に関し更なる啓蒙活動が必要と考える。また実際の治療に使用する装具作成自体が当院で行えず、作成等を含め複数回の県外施設への受診を患者およびその後家族に強いている状況である。装具作成からの一連の治療を当院で行えるよう進める必要がある。</li> </ul>
46	・成人移行期支援体制を確立、小児専門看護師による成人移行期支援看護外来を開設	こども	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人移行期支援看護外来は平成30年4月より開設できた。始めは関わる診療科は血液腫瘍科や循環器科など少なかったが、今では小児外科・総合小児科・形成外科・神経科など多数の診療科から相談が寄せられている。</li> <li>・院内の成人移行期支援体制は、病院全体の委員会や看護部のチーム会などで多職種が連携して行っている。病気の理解と自立支援もメインに、長期的視点での関わりを進め</li> </ul>

				ている。必要な人は大人までケアなど支援できる体制づくりを始めている。						
47	<p>エ がん診療機能の向上 (信州、阿南、木曾、こども) がん診療機能の向上を図るため、各県立病院において次のとおり取り組む。</p> <p>(ア) 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの早期発見・治療機能及び予防医療の充実、在宅復帰支援機能の強化を推進(再掲)</li> <li>・内視鏡センターでは、上部、下部消化管及び肝胆膵、気管支等の内視鏡検査と治療を積極的に実施(再掲)</li> <li>・須高地区の市町村等と連携し、内視鏡検査を受託し件数を増加(再掲)</li> <li>・ピロリ菌外来、海外渡航者外来等の専門外来の利用促進(再掲)</li> <li>・遺伝子検査室では、遺伝子解析装置を用いた遺伝子検査とその診断及び治療を推進(再掲)</li> <li>・がん遺伝子の先端的検査体制を確立、オーダーメイドの治療</li> <li>・外来化学療法室及びがん遺伝子検査の充実、並びに専任医師及びがん化学療法認定看護師の配置</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪性腫瘍診断に寄与する遺伝子検査</li> <li>免疫遺伝子再構成検査(PCR法:悪性リンパ腫関連疾患)</li> <li>JAK2遺伝子変異検査(Q probe法:骨髄増殖性疾患)</li> <li>MYD88遺伝子変異検査(allele specific PCR:悪性リンパ腫)</li> <li>BRAF遺伝子変異検査(allele specific PCR:Hairy cell leukemia)</li> <li>EGFR遺伝子変異検査(RTPCR法:肺がん)</li> <li>染色体検査(FISH法:造血器腫瘍)</li> <li>・外部施設における造血器病理診断</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海南病院(愛知県)</td> <td>423件</td> </tr> <tr> <td>その他:上田医療センター、松本医療センター、伊那中央病院等(長野県)</td> <td>22件</td> </tr> </tbody> </table> <p>信州大学医学部附属病院での造血器腫瘍診断(平均10例/年間50回)および悪性リンパ腫症例コンサルテーション業務</p> <p>論文等</p> <p>1) Takeuchi M, Miyoshi H, Asano N, Yoshida N, Yamada K, Yanagida E, Moritsubo M, Nakata M, Umeno T, Suzuki T, Komaki S, Muta H, Furuta T, Seto M, Ohshima K. Human leukocyte antigen class II expression is a good prognostic factor of adult T-cell leukemia/lymphoma. Haematologica. 2019 Jan 10. [Epub ahead of print]</p> <p>2) Suzuki Y, Sakakibara A, Shimada K, Shimada S, Ishikawa E, Nakamura S, Kato S, Takahara T, Asano N, Satou A, Kohno K. Immune evasion-related extranodal large B-cell lymphoma: A report of six patients with neoplastic PD-L1-positive extranodal diffuse large B-cell lymphoma. Pathol Int. 2019 Jan;69(1):13-20</p> <p>3) Sakakibara A, Takahashi E, Ishikawa E, Kohno K, Asano N, Nakamura S. Neoplastic PD-</p>	病院名	件数	海南病院(愛知県)	423件	その他:上田医療センター、松本医療センター、伊那中央病院等(長野県)	22件
病院名	件数									
海南病院(愛知県)	423件									
その他:上田医療センター、松本医療センター、伊那中央病院等(長野県)	22件									

	<p>・がん診療における医科歯科連携の推進（再掲）</p>		<p>L1 expression on interdigitating dendritic cell sarcoma: A supplementary study of a case report. Pathol Int. 2018 Oct;68(10):577-578.</p> <p>4) Yamashita D, Shimada K, Takata K, Miyata-Takata T, Kohno K, Satou A, Sakakibara A, Nakamura S, Asano N, Kato S. Reappraisal of nodal Epstein-Barr Virus-negative cytotoxic T-cell lymphoma: Identification of indolent CD5+ diseases. Cancer Sci. 2018 Aug;109(8):2599-2610.</p> <p>5) Yamaguchi M, Suzuki R, Kim SJ, Ko YH, Oguchi M, Asano N, Miyazaki K, Terui Y, Kubota N, Maeda T, Kobayashi Y, Amaki J, Soejima T, Saito B, Shimoda E, Fukuhara N, Tsukamoto N, Shimada K, Choi I, Utsumi T, Ejima Y, Kim WS, Katayama N. Early disease progression in patients with localized natural killer/T-cell lymphoma treated with concurrent chemoradiotherapy. Cancer Sci. 2018 Jun;109(6):2056-2062.</p> <p>6) Sakakibara A, Kohno K, Kuroda N, Yorita K, Megahed NA, Eladl AE, Daroontum T, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Satou A, Kato S, Yatabe Y, Asano N, Nakamura S.</p> <p>Anaplastic variant of diffuse large B-cell lymphoma with hallmark cell appearance: Two cases highlighting a broad diversity in the diagnostics. Pathol Int. 2018 Apr;68(4):251-255.</p> <p>（課題） 悪性腫瘍・感染症領域における遺伝子検査を継続するとともに、さらなる先進的な取り組みを進めることで、広く社会の医療の質の向上に貢献していく。</p>																				
48	<p>(イ) 阿南病院</p> <p>・MRI、超音波診断装置等の検査機器の活用や、内視鏡検査による生検率の向上</p> <p>・「病理診断支援システム」を活用した、信州大学医学部附属病院との間での遠隔レポート通信による病理診断の迅速化及び質の向上</p>	阿南	<p>A</p> <table border="1" data-bbox="958 1134 2056 1378"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>3,426件</td> <td>3,955件</td> <td>△529件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>803件</td> <td>805件</td> <td>△2件</td> </tr> <tr> <td>超音波診断</td> <td>2,087件</td> <td>2,183件</td> <td>△96件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6,316件</td> <td>6,943件</td> <td>△627件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差	CT	3,426件	3,955件	△529件	MRI	803件	805件	△2件	超音波診断	2,087件	2,183件	△96件	合計	6,316件	6,943件	△627件
項目	30年度実績	29年度実績	前年度との差																				
CT	3,426件	3,955件	△529件																				
MRI	803件	805件	△2件																				
超音波診断	2,087件	2,183件	△96件																				
合計	6,316件	6,943件	△627件																				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療圏町村保健師と連携した婦人科健診受診率の向上、他院紹介状様式の標準化によるがん診療の病病連携の推進</li> <li>・がん患者リハビリテーションを精力的に実施</li> <li>・「がん登録等の推進に関する法律」に基づいた、原発性新生物の初回診断のケースファインディングの適切な対応</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者の減少によりCTの件数は、昨年度より実績が減少したが、MRIは昨年同様の実績となった。</li> <li>・心臓超音波検査、ポータブル超音波検査の依頼が増加した。(30年度実績 418件)</li> <li>・「病理診断支援システム」の活用により、短時間で病理検査結果報告が可能となり、病理診断の迅速化と患者サービスにつながった。</li> <li>・病理細胞検査(細胞診)が実施できる細胞検査士の資格を職員が取得したため、検査の迅速化、検査精度の向上、外部への検査委託経費の削減が図られた。</li> <li>・婦人特有のがん(乳癌、子宮頸癌)に関して、外科および婦人科で月2~3回の婦人科検診の実施を継続した。</li> </ul> <p>乳癌検診受診者数 29年度 424人 → 30年度 446人 子宮頸癌検診受診者数 29年度 398人 → 30年度 428人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、引き続き原発性新生物の初回診断のケースファインディングを行った。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療部及び医療技術部において、検査機器の有効利用について意識を高めるとともに外部機関との連携による有効利用の検討が必要。</li> <li>・検診スケジュールの調整や利便の向上により、キャンセル率を低下させ、乳癌検診、子宮頸癌検診の受診率をさらに向上させる。</li> </ul>
49	<p>(ウ) 木曽病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実(再掲)</li> <li>・信州大学医学部附属病院での症例検討会への参加及び、信州大学医学部附属病院との連携により、診療や職員への教育体制の維持</li> </ul>	木 曽	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域がん診療病院としてがん相談支援センターへ専従職員1人を引き続き配置するとともに、患者サロンの毎月2回開催(うち1回は院内職員の講師によるミニ勉強会)、広報紙の発行(年2回)等、がんに関する相談・情報提供及び患者への支援体制を充実させた。</li> <li>・緩和ケアチームに認定看護師を引き続き専従で配置するとともに、週1回院内ラウンドを実施した。</li> <li>・緩和ケア外来を設置し、週1回診療を実施するなど、診療体制を充実させた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センターによる患者相談、情報提供を進め、がん予防、がん診療支援等の機能の充実</li> <li>・患者サロン等を定期的に開催</li> <li>・緩和ケアチームにおいて、認定看護師を専従配置、定期的な院内ラウンドを継続</li> <li>・がん患者に関する地域連携クリニカルパスの運用を継続、地域との連携を強化</li> </ul>		<p>・信州大学医学部附属病院での症例検討会への定期的な参加及び信州大学がんセンターから派遣された教授による化学療法、放射線治療、緩和ケア等、病棟・外来での診療・職員への指導等、信州大学医学部附属病院との連携によりがん診療体制を強化した。</p> <table border="1" data-bbox="958 331 2054 480"> <thead> <tr> <th>相談実績</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年との差</th> <th>対前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談支援センター</td> <td>657件</td> <td>858件</td> <td>△201件</td> <td>76.5%</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>192件</td> <td>232件</td> <td>△40件</td> <td>82.7%</td> </tr> </tbody> </table>	相談実績	30年度実績	29年度実績	前年との差	対前年度比	がん相談支援センター	657件	858件	△201件	76.5%	緩和ケアチーム	192件	232件	△40件	82.7%
相談実績	30年度実績	29年度実績	前年との差	対前年度比														
がん相談支援センター	657件	858件	△201件	76.5%														
緩和ケアチーム	192件	232件	△40件	82.7%														
50	<p>(エ) こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部附属病院小児科、信州がんセンター及び相澤病院（陽子線センター、ガンマナイフセンター）と連携し、小児血液及び固形腫瘍における診療体制を強化、患者のニーズに応じた最先端の質の高い診断と医療及び情報の提供</li> <li>・小児に特化した緩和ケアチーム活動の推進、地域病院と連携して、緩和ケア医療の提供</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白血病、固形腫瘍、脳腫瘍患者を中心に診療を行い、長野県内で発症する全ての固形腫瘍の患者の診療にあたった。</li> <li>・日本小児がん研究グループ(JCCG)を中心に行われる臨床試験に積極的に参加した。また若年性骨髄単球性白血病については臨床試験を計画している。</li> <li>・次世代シーケンサーを利用した白血病の微小残存検出法の開発を行い、公表に向け準備を開始した</li> <li>・緩和ケアチームを設立し、保険請求できる体制が整い、10月から請求を開始した。また緩和ケアチームが病棟を定期的にラウンドし、緩和ケアの実施を症例ごと具体的に検討するなど、組織的なコンサルテーションシステムの構築をおこなった。さらに在宅を希望する患者および家族に地域病院と連携し医療の提供を行った。</li> <li>・陽子線治療においては相澤病院と連携し治療を行える体制を整えるとともに、収益増にも寄与した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICH-GCP準拠の臨床試験や医師主導臨床試験など行うための院内システムの整備が必要。</li> <li>・がんサバイバーに対する、就労支援の体制整備。</li> <li>・妊孕性温存に対するシステム構築。</li> </ul>															

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(4) 災害医療などの提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

こころの医療センター駒ヶ根では、県と連携しながら研修プログラムを作成する等、災害派遣精神医療チーム（DPAT）の体制整備を進め、北海道胆振（いぶり）東部地震では業務調整員1名をDPAT事務局に派遣し、災害への対応を行った。

木曽病院では、災害現場で適切な救命救急処置等を行うため、DMATが木曽地区災害時医療救護訓練や長野県総合防災訓練に参加し、災害時に対する体制強化を図った。

各病院においては、BCP（事業継続計画）や防災マニュアルの見直し、地域と連携し総合防災訓練を実施し、また、電子カルテシステムの更新に併せ、新たにこころの医療センター駒ヶ根、信州医療センターにおいて、バックアップシステムを構築（計4病院）し、大規模災害時における継続的な医療提供体制を整備した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(4) 1	ア 災害医療の提供 ・災害が発生した場合、各県立病院は長野県 地域防災計画に基づいて適切な医療活動を行	信 州	A	・4月4日 新規採用職員及び異動職員向けに防災についてのオリエンテーションを実施。 ・4月17日 非常用連絡網メール配信システム「オクレンジャー」を使用し、全職員及び

	<p>う。また、木曽病院のDMA T（災害派遣医療チーム）は、直ちに被災地に出動して救命救急処置等を行う。</p> <p>・こころの医療センター駒ヶ根は、県の要請に基づきD P A T（災害派遣精神医療チーム）先遣隊を直ちに派遣する。また、県と連携しL-D P A T（後続隊）の登録に向けた体制整備を進める。</p>			<p>委託業者を対象とした非常招集及び伝達訓練（夜間想定）を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月29日 須坂市主催の医療救護活動（エマルゴ）訓練に5名（医師1名、看護師2名、事務2名）参加。</li> <li>・ 8月26日 須坂市主催の総合防災訓練に研修医及び看護師が参加。</li> <li>・ 10月9日 須坂市消防本部の指導のもと、北棟4階から出火し、北棟6階結核病棟の患者を避難させる想定で、地域住民（立町、東横町）も参加した総合消防・防災訓練を実施した。</li> </ul> <p>また、併せて休日に大規模停電が発生した想定で実際に自宅から登院して、災害対策本部を設置する大規模災害訓練を実施した。</p> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ より実際に即した連絡体制、訓練方法、災害対策マニュアル及びB C Pの見直しを検討する必要がある。</li> </ul>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月に長野県D P A T統括者意見交換会、11月に長野県DPAT運営委員会に出席し長野県のD P A T体制について協議を行い、長野県のDPAT体制整備を進めた。</li> <li>・ 11月に開催された長野県DPAT研修会では、県と連携しながらプログラムを策定するとともに講師1名を派遣し、職員8名が受講した。</li> <li>・ 北海道胆振東部地震では、業務調整員1人をD P A T事務局に派遣し、災害への対応を行った。</li> <li>・ 院内研修会を9回開催（延参加者数112人）するとともに、職員が先遣隊研修（参加者数3人）及び技能維持研修（参加者2人）を受講し、職員の技術向上及び院内の体制強化を図った。</li> <li>・ 地域に対し災害時の心理的応急処置の手法を普及させるため、PFA（心理的応急処置）指導者研修を職員1人が受講した。</li> <li>・ 長野県DPATの統括者を当院院長が務めた。</li> </ul>
3	同上	阿	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H30.12月に阿南消防署と合同で災害等医療救護訓練を実施し、多数傷病者発生等のト</li> </ul>

		南		<p>リアージ訓練を行った。</p> <p>当院47名 消防署18名 参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練の反省からBCPワーキンググループによりアクションカードの見直しを行い、災害時の対応に備えた。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員を対象に非常用連絡メール配信システム「オクレンジャー」の送信訓練を行った。(5月)</li> <li>・当院職員を対象とした、木曾広域消防本部及び地元地区等の協力を得た院内総合防災訓練を10月に、また、9月に事前訓練として、エアストレッチャーでの訓練を実施し、災害発生時の傷病者受け入れ態勢の強化を行った。</li> <li>・災害現場で適切な救命救急処置等を行うため、8月に上松町において開催された木曾地区災害時医療救護訓練にDMAT(災害派遣医療チーム)の隊員が参加し、大規模災害発生時の初動体制及び関係機関との連絡連携体制の確認を行い、災害時に対する体制強化を図った。</li> <li>・10月に塩尻市において実施された、長野県総合防災訓練にDMAT1隊を派遣した。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月4日に新任職員を対象として消火訓練の実施、避難経路の確認を行った。</li> <li>・10月26日に総合防災訓練を実施し、病院全体で火災発生時の自衛消防隊の対応について訓練した。また、豊科消防署の協力により消火訓練を実施した。</li> <li>・2月2日に、長野県が主催した長野県災害医療研修会に医師1名、看護師3名、事務1名が参加し、災害発生時の医療提供に対する理解を深め、医療体制の更なる充実と強化を図った。</li> <li>・災害時に使用するための防災物品を順次整備している。</li> </ul> <p>(課題)</p> <p>県内外の医療機関との災害時の協力に関する協定の締結。</p>
6	イ 防災対策 ・災害に備えるため、次の事項について重点	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に北棟4階からの出火を想定した総合消防・防災訓練を実施した。合わせて、「非常用連絡網メール配信システム」による非常招集訓練も実施し、夜間における非常招集</li> </ul>

	<p>的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災担当者会議を開催し、「事業継続計画（BCP）」及び「災害時の対応マニュアル」等の内容確認をとおり、課題の整理や共有化</li> </ul>		<p>内容の伝達訓練及び災害時における職員の登院時間の把握、データ収集を行った。また、併せて大規模停電が発生した想定で、実際に自宅から登院しての大規模災害訓練を実施し参加職員の実際の登院方法や時間について把握することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に備えるため医薬、材料、食糧をそれぞれ3日分程度備蓄しており、見直しと期限切れの水の購入を行った。</li> <li>・1台保有している衛星携帯電話の維持管理のため、トレーニングを兼ねた動作チェックを定期的に実施している。</li> <li>・「非常用連絡網メール配信システム」がいつでも利用できるよう、登録者及び発信者の管理を行い、体制の整備に努めた。</li> <li>・防災関連用品の整備を行った。（防災ヘルメット）</li> <li>・昨年度に策定したBCPの見直しのため、長野県災害医療研修会に出席して、病院におけるBCP策定の現状や県内外の災害拠点病院のBCPの事例を参考に防災委員会を中心にBCPの見直しを進めている。</li> <li>・大規模地震発生に備えて、院内の棚やロッカーの転倒防止対策について調査を行い、対策について業者から見積徴取を実施するなど検討を進めている。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模地震発生時に備えた院内の棚やロッカーの耐震対策</li> <li>・「非常用連絡網メール配信システム」オクレンジャーの維持管理及び運用</li> <li>・災害対策マニュアルやBCPの継続的な見直し</li> <li>・停電発生時の自家発電設備等院内設備の運用・維持管理、災害時の飲用水やトイレ等の確保</li> </ul>
7	同上	駒ヶ根	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉メール送信システムを利用して、6月に全職員対象に非常参集訓練を行った。</li> <li>・新たに当院配属となった職員を主な対象として7月に消火栓取扱訓練を実施、11月には院内で火災が発生したことを想定した避難訓練及び消火器の取扱い訓練を消防署立会いのもと実施した。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練の継続により、消火設備を扱える職員が増え、対応力が増強している。</li> <li>・山梨県立北病院との「災害時等における相互支援に関する協定」に関して、協定締結の意識を高めるために、2月に山梨県立北病院において担当者会議を開催した。</li> <li>・防災対策委員会において、防災マニュアルの見直しを行った。</li> </ul>
8	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院消防防災計画に基づき、災害用の医薬品等を備蓄の実施。</li> <li>・土砂災害防止に係る避難確保計画についてBCPワーキンググループで検討を行い、消防防災計画に追加記載する内容で防災対策委員会において計画策定した。</li> </ul>
9	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した院内総合防災訓練の結果を基に、災害対応マニュアルの改訂を行い、災害発生時の傷病者受け入れ体制の強化を行った。</li> </ul>
10	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災訓練を実施し、各部署のアクションカードの見直しを行った。また、大規模災害時の対応マニュアルについての整備を継続している。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業継続計画（BCP）を検証する必要がある。</li> <li>・防災テントの整備を行う。</li> <li>・トリアージ訓練の継続的な実施。</li> </ul>
11	同上	機構本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各病院におけるBCPの見直し・改善状況等の把握を行った。各病院からは、他病院の訓練内容、研修方法等を知りたいとの意見があり、引き続き、支援を行っていく。</li> </ul> <p>電子カルテシステムの更新に併せ、新たにこころの医療センター駒ヶ根(10/1)、信州医療センター(1/1)においてバックアップシステムを構築(計4病院)し、大規模災害時における継続的な医療提供体制を整備した。</p>
12	また大規模災害時に必要な最低限の電子カルテ情報のバックアップシステムの構築	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ更新時に、画像を除く各システムバックアップ及びSS-MIX2標準化ストレージを院内バックアップサーバ及び院外データセンターにバックアップを保存することとした。</li> <li>・SS-MIX2標準化ストレージのオフライン参照用端末を用意し、停電時でも参照できるよう大容量バッテリーを搭載した。</li> </ul>

13	同上	駒ヶ根	A	・電子カルテ更新時に院内サーバ、外部データセンター及び長時間バッテリーを搭載した専用パソコンによるバックアップシステムを導入し、災害時の体制を整えた。
14	同上	こども	A	・「長野県立こども病院災害時電子カルテ継続運用マニュアル」(案)の作成に着手した。 ・BCP専用端末導入台数は5台に決定して、北・南外来、第4病棟、NICU,PICUへの設置を計画している。
15	・第一種・第二種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症の集団発生等に適切な対応ができるよう、定期的に「患者受入れ訓練」を実施(再掲)(信州医療センター)	信州	A	・参照(p.22-No.2)
16	・地域の医療機関などと協働で感染症発生時の地域行動計画の策定に参画(再掲)(信州医療センター)	信州	A	・参照(p.22-No.3)
17	・県と協力して感染症の発生予防・まん延防止などの感染症対策を推進(再掲)(信州医療センター)	信州	A	・参照(p.23-No.6)
18	・県民の感染症予防等の知識を高めるため、出前講座等による啓発活動の実施(信州医療センター)	信州	A	・感染症の知識を高める啓発活動として、出前講座や医療関係者の研修会等の講師を行った。
19	・災害拠点病院である木曽病院では、災害時における安定的かつ継続的な医療を提供	木曽	A	・災害時対応マニュアルに必要な機材等の保管位置・数量を表示するとともに数量の確認、整理を行い災害時の対応に備えた。
20	・木曽病院のDMAT(災害派遣医療チーム)は、災害現場で適切な救命救急処置等を	木曽	A	・参照(p.46-No.4) ・7月に長野市で行われた技能維持研修に1名、9月に大阪医療センターで行われた日本DMAT養成研修に1名、11月に北信総合病院で行われた長野県DMAT養成研修に5名

	行うため、定期的に技能維持研修に参加、各行政機関・病院が実施する研修・訓練に参加するとともに、木曽地区災害時医療救護訓練に参加し、関係機関との連絡・連携体制の確認（木曽病院）			参加した。
21	・地域や近隣薬局との防災協定の継続、大規模災害医療救護訓練等の実施やBCP研修会等の実施、アクションカードやマニュアルの見直し、職員研修会の実施（阿南病院）	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年に阿南町北條御供地区と締結した相互援助協定の継続、平成25年に災害時の医薬品等の提供に関して近隣薬局と締結した協定を継続し災害時に医薬品を安定供給できる体制を確保している。</li> <li>・阿南消防署との合同トリアージ訓練の反省から、災害対策本部及びトリアージに関するアクションカードの見直しを行った。</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州メディカルネットによる電子カルテの相互参照に取組み、効率的な医療連携や質の高い医療サービスを提供した。

信州医療センター及びこころの医療センター駒ヶ根では電子カルテを更新し、須高在宅ネットワーク(エイル)とID-Linkにより診療情報を連携する仕組みや診療情報データベースの統合により情報の一元化や医療の質を向上し、また、災害時に備えた遠隔地バックアップ体制を構築した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 1(5) 1	ア 県立病院間等を結んだネットワークシステムを活用した連携強化 ・県立病院及び信州大学医学部附属病院との間で、高画質診療支援ネットワークシステムを利用して、多地点連結医療従事者カンファレンスや各種研修会などにも活用	木曾	A	・信州大学とのカンファレンスに、小児科医師が参加した。
2	同上	こ	A	・県立病院に導入されているテレビ会議システムを利用して、他の病院で開催された医

		ども		療安全やメンタルヘルスに関する研修会を受講したほか、機構全体に係る予算会議などもテレビ会議システムを使用して開催した。																														
3	同上	本部	A	・テレビ会議システムについては、病院の担当者を参集する日程の調整が難しい各種担当者会議において、積極的な活用を図った。																														
4	・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテの相互参照による情報の共有化を図るため引き続き県内医療機関などとの間での診療体制の拡充	信州	B	・新電子カルテ運用開始に伴い31年1月より未接続とした。																														
5	同上	駒ヶ根	A	<p>・昭和伊南総合病院や伊那中央病院等と電子カルテの相互参照をし、迅速な診療に役立っていた。(30年度43件、前年度55件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>実件数</th> <th>参照</th> <th>公開</th> <th>相互参照</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昭和伊南総合病院</td> <td>27</td> <td>26</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>伊那中央病院</td> <td>14</td> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>信州大学附属病院</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>辰野病院</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>43</td> <td>42</td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	病院名	実件数	参照	公開	相互参照	昭和伊南総合病院	27	26		1	伊那中央病院	14	14			信州大学附属病院	1	1			辰野病院	1	1			合計	43	42		1
病院名	実件数	参照	公開	相互参照																														
昭和伊南総合病院	27	26		1																														
伊那中央病院	14	14																																
信州大学附属病院	1	1																																
辰野病院	1	1																																
合計	43	42		1																														
6	同上	阿南	A	<p>・電子カルテ相互参照 院内医療情報システムと「信州メディカルネット」の接続を行い、平成26年9月から「信州メディカルネット」を利用した相互データ参照・公開を開始した。 飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク (Ism-Link) による閲覧 (29年度実績 14件 30年度実績 14件) (課題)</p> <p>・「信州メディカルネット」が、飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク(Ism-Link) との併行運用となっているため圏域内での相互参照には使いづらいので電子カルテの更新時に再度情報の共有化の運用について検討する。</p>																														

7	同上	木曾	A	<p>・信州メディカルネットを活用した医療機関同士の電子カルテデータの相互参照により、より一層の安全で高品質な医療の提供及び医療体制が強化された。(30年度実績 12件、29年度実績 13件)</p>
8	同上	こども	A	<p>・患者情報の共有化による効率的な医療連携、医療資源の有効活用、安全で質の高い医療サービスの提供などを目的に構築された電子カルテの相互参照システムについては、信州大学医学部附属病院、長野赤十字病院、諏訪赤十字病院、阿南病院、信州上田医療センター、県立木曾病院と協定を締結している。</p> <p>・この協定に基づき、43件のカルテ公開をしており、内訳は相互参照件数29件、提供のみ13件、参照のみ1件となっている。</p>
9	同上	本部	A	<p>・「信州メディカルネット」の運用のため運営委員会へ参加した。</p>
10	<p>イ 電子化の推進</p> <p>信州医療センターでは、電子カルテシステムを更新、更新に当たって以下の仕組みを構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B C P 対策</li> <li>・ 地域医療連携対応</li> <li>・ 医学管理料等の算定漏れの防止</li> <li>・ 情報の一元化と記録の質向上</li> <li>・ ネットワークの統合及び全館無線LANの整備</li> <li>・ ハードウェアの仮想化集約</li> </ul>	信州	A	<p>・ 石川コンピュータ・センターと契約。4月にキックオフを実施し導入を開始した。</p> <p>・ 31年1月より新電子カルテが稼働した。</p> <p>・ 須高在宅ネットワーク(エイル)とID-Linkにより診療情報を連携する仕組みを構築した。</p>
11	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、電子カルテシステムを更新し、診療情報データベースの統合による情報の一元化と医療の質を向</p>	駒ヶ根	A	<p>・ 院内の放射線画像簡易、文書管理システム等のデータを1つのシステムで統合化し、一元管理ができる次世代システムを導入した。</p> <p>・ 電子カルテシステム更新において最大の課題となるデータ移行は、専門業者によって</p>

	上、災害時に備えた遠隔地バックアップ体制を構築			<p>抽出を行い、ベンダへ提供することで課題の解決を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DWH（データウェアハウス）の導入によりデータ集計、分析の迅速化が図られ、医療の質の向上や収益等経営力の向上に向けた体系を整えることができた。</li> <li>・ 電子カルテ更新時に院内サーバ、外部データセンター及び長時間バッテリーを搭載した専用パソコンによるバックアップシステムを導入し、災害時の体制を整えた。</li> <li>・ 業務内容ごとのワーキンググループを複数回実施し、新電子カルテシステム導入後の運用策定を行った。</li> <li>・ 新電子カルテシステムの操作研修を、業務時間内に全ての職員に実施した。</li> <li>・ 新電子カルテシステムの構築検証及び習熟度と運用・業務フローの確認検証を行うため、9月1日（土）に外来総合リハーサルを実施した。入院のリハーサルは、各病棟複数回実施した。</li> <li>・ 新電子カルテシステムの最終的な稼働判定を9月29日（土）に行い、10月1日に本稼働した。本稼働後は、大きな混乱はなく、業務停止や超過勤務の増加は無く、安定稼働することができた。</li> </ul>
12	阿南病院では、電子カルテシステム更新プロジェクト会議により更新に向けた検討を開始	阿南	A	<p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ H31.1月より電子カルテ等委員会を設置し、システム更新に関する検討を開始。</li> </ul>
13	阿南病院では、阿南町医療介護連携支援システムの活用を推進	阿南	A	<p>（業務の実績）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿南病院を中核とした阿南町地域医療介護連携支援システムについて、阿南町エイルシステムと当院の電子カルテシステムの統合をモデル的に構築し、利用者の拡大を図った。（システム連携者数 H30年度末 36件）</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このシステムのハード面の更新時期に地域包括ケアシステムの情報の共有化等について再度運用方法を検討する必要がある。</li> </ul>

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

#### (1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

県立病院の持つ医療機能を効率的・効果的に提供するため、地域の関係機関と連携し在宅医療に積極的に取組むとともに、地域の医療機関との連携、機能分担を進めた。また、信州メディカルネットを活用した電子カルテの相互参照により、各病院において迅速な診療に役立てた。

地域の医療機関への支援として、信州医療センターでは、CTやMRIなど高度医療機器の地域医療機関との共同利用を積極的に促進するとともに、出前講座を積極的に開催するなど活動を充実させた。

研修センターでは、県内の医療機関等と連携し、基本的な診療等の実践的なトレーニングが行えるスキルラボを活用したより質の高いシミュレーション研修を、機構職員及び地域医療機関等の職員に提供した。

各病院が地域の関係機関と連携し、幅広い分野で県立病院が持つノウハウを提供するとともに、市町村等が行う母子保健や予防医療への支援を行った。

信州医療センター、阿南病院及び木曽病院では、人間ドックや各種検診の充実を図るとともに広報活動にも力を入れ、地域における予防医療を推進した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績	
		病院	評定
			取組結果及び取組の効果

<p>第1 2(1) 1</p>	<p>ア 地域の医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州メディカルネットを活用した電子カルテの相互参照を推進、地域連携クリニカルパスの作成・活用、地域の医療機関と連携し、患者の紹介、逆紹介を積極的に実施</li> <li>・子どもの発達障害に対し、長野県、信州大学医学部、こころの医療センター駒ヶ根、こども病院などと連携し、診療専門医・診療医の育成、診療体制の整備、原因や発祥機序の解明などを行うシステムの構築に向けて検討</li> </ul>	<p>信州</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・須高地域の医療機関、介護施設及び住民と活発に交流し、地域の中核病院としてソフト面、ハード面共に貢献している。</li> <li>・須高医師会が開設する須高休日緊急診療室を当院内で実施している。</li> <li>・産婦人科では、近隣診療所の急な休診に伴う地域の医療供給体制の低下を防止するため、受入態勢を整備し子宮がん検診等の患者を受け入れた。</li> <li>・近隣の医療機関、介護施設、行政機関など79か所の訪問活動を実施した。</li> <li>・研修会・会議の開催や意見交換等により須高地域の医療機関、介護施設、行政機関等と連携を図った。</li> <li>・地域医療福祉連携室に社会福祉士資格を取得している職員4人を配置している。</li> <li>・地域医療福祉連携室において、セカンドオピニオン体制を維持した。</li> <li>・登録医制度の見直しを行い、規定等を改定し、登録医に登録医証を発行した。</li> <li>・平成31年度より小児発達評価を受け入れの為、平成30年10月よりリハビリテーション技術科理学療法士2名を2回/月こども病院に研修派遣した。</li> <li>・須高地域リハビリテーション連絡会をとおして須高地域のリハ職種との連携を強化した。</li> </ul>
<p>2</p>	<p>信州医療センターでは、「須高在宅ネットワーク」等に積極的に参加</p> <p>地域包括ケア病棟では、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーション等と連携</p> <p>引き続き「信州メディカルネット」を活用した県内医療機関との電子カルテの相互参照</p>	<p>信州</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州メディカルネットから脱退し、在宅支援システム「エイル」と接続を行った。</li> <li>・シダトレン脱感作療法連携パスの運用を引き続き継続した。</li> <li>・エビペンパスについても、27年度より使用を開始し、展開している。</li> <li>・須高地区介護施設との定例会議を9月に開催し、相談員、施設のケアマネジャーと連携を図った。</li> <li>・須坂市高齢者福祉課、包括支援センターとの合同会議を6回開催し、地域ニーズに対する意見交換を実施した。</li> <li>・「医療と介護の連携推進協議会」のメンバーとして、ケアマネジャーなどの介護関係者との研修会を2回開催した。</li> <li>・須高地域医療福祉推進協議会では、「リビング・ウィルってなあに？」をテーマとした</li> </ul>

			<p>講演会と多職種研修会（2回）を開催し、意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワーク」に参加し「地域みんなで支える在宅医療」の実現に寄与した。</li> <li>・須高医師会、須高歯科医師会、須高薬剤師会等と組織する「須高地区手をつなごう会」を11月に開催し、竹前医院院長、当院訪問看護師長による講演「感染性胃腸炎」「在宅医療それぞれの立場から」を行った。（参加者96人）</li> </ul>
3	同上	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、南信州広域連合で構築を進めている地域包括ケアシステムへの支援について、医療・介護関係者の情報共有化を図るため、阿南病院の電子カルテ情報と、阿南病院を中核とした阿南町地域医療介護連携システムの在宅患者等の要支援者見守り情報との統合をモデル的に構築し、運用しており、地域での運用に向け登録者の拡大を図った。患者・利用者の療養、体調の変化、服薬状況、食事・排泄・家屋の状況などの医療と介護の情報を共有でき、連携機能の強化が図られる。</li> <li>（電子カルテ情報の公開：1件、介護情報の公開閲覧：39件、システム登録者：39件）</li> <li>・子どもの発達がい診療医の育成のため小児科医が研修を受講し、今後の診療体制の充実を図った。</li> <li>（課題）</li> <li>・システムが活用されておらず、今後のあり方について再検討が必要</li> </ul>
4	同上	木曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携室を強化した患者サポートセンターを設け、地域の医療・介護・福祉施設等との連携、退院調整、相談支援等の実施体制を充実させた。</li> <li>・郡内医療機関からの紹介患者に関する合同症例検討会を開催する（年1回実施）など、当院の状況を積極的に公開し、連携体制の強化を図った。</li> <li>・木曾広域連合から運営を委託された「在宅医療・介護連携支援センター」を設置し、郡内各関係機関の情報共有や共通課題の解決を図り、地域包括ケアシステムの中核的役割を果たした。</li> <li>・参照（p.10-No.12）</li> </ul>

5	同上	こ ど も	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度専門医療の提供は当院で行うが、日々の療養に必要な基本的な医療は患者家族が住む地域の医療機関に情報の提供を行って依頼するといった形をとっている。</li> <li>・専門性の高い高度な医療が必要となった場合の受け入れは24時間体制で行っており、必要に応じドクターカーでの迎え搬送も行っている。</li> <li>・状態が安定し、自宅近くの病院でのケアが可能となった場合は逆紹介を行い、地域病院との連携を図り必要な患者を受け入れられる体制を整えている。</li> <li>・県内の小児在宅を支える医療・福祉・教育関係者を対象に、「在宅医療の現状とこれから」「医療・福祉制度」「在宅診療報酬」「在宅支援の実際」についての小児在宅医療研修会を4回実施した。</li> <li>・地域医療支援病院の指定を受け、134の医療機関、176人の医師に登録いただいている。</li> <li>・病院の機能を紹介するための見学会を1回開催した。また機器の共同利用は91件だった。</li> <li>・信州大学医学部子どものこころの発達医学教室の連携病院として、研修中の医師が行う陪席実習を受け入れ、長野県の発達障害専門医・診療医の育成に協力した。</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根で専攻医が短期研修し、発達障害診療と児童精神医療を学ばせた。</li> </ul>
6	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、地域連携室が中心となり、入院から退院後まで質の高い支援が行われるように病院、診療所及び市町村・福祉施設との連携機能強化及び院内における相談機能を充実、入院時、退院時には原則精神保健福祉士が関わるようにし、一貫した支援を実施（再掲）</p> <p>地域の精神科クリニックとの情報交換を行うなど連携体制を強化</p>	駒 ヶ 根	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.16-No.2）</li> <li>・参照（p.29-No.23）</li> <li>・参照（p.52-No.5）</li> </ul>

	「認知症ケアパス」(地域連携パス)への参加(再掲)			
7	<p>阿南病院では、信州メディカルネットを利用した病診連携等の有効活用、飯田市立病院を中心にした「がん診療連携パス」などによる連携、大腿骨骨折術後連携パスの新たな運用</p> <p>J A 歯科診療所の歯科医師の訪問診療による嚥下機能検査(VE)の実施、医師・言語聴覚士等の入院患者の食事形態の判断による嚥下機能の改善</p>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ相互参照</li> </ul> <p>院内医療情報システムと「信州メディカルネット」の接続を行い、平成26年9月から「信州メディカルネット」を利用した相互データ参照・公開を開始した。(29年度実績:14件 30年度実績:26件)</p> <p>飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク(Ism-Link)による閲覧 (29年度実績:14件 30年度実績:14件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携クリニカルパス</li> </ul> <p>がん連携診療指導料の施設基準に基づいて連携パスを活用し、がんの二次診療において、乳がんでの地域連携パスの適応症例があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非算定ではあるが、大腿骨頸部近位部骨折クリニカルパスの運用が1件あった。 (29年度実績:25件 30年度実績:15件 新:大腿骨頸部近位部骨折クリニカルパス1件)</li> <li>・J A みなみ信州阿南歯科診療所と連携し、入院患者の嚥下機能の評価のため、診療所の歯科医の訪問診療により内視鏡的嚥下機能検査(VE)を実施した。(H30実績 26件) (課題)</li> <li>・「信州メディカルネット」が、飯田下伊那圏域での地域連携ネットワーク(Ism-Link)との併行運用となっているため圏域内での相互参照には使いづらいので電子カルテの更新時に再度情報の共有化の運用について検討する。</li> <li>・非算定ではあるが、大腿骨頸部近位部骨折クリニカルパスの運用が1件あり、今後施設基準を満たした場合の体制を各部署と検討していく。</li> </ul>
8	木曽病院では、地域包括ケア病棟を開設し、急性期・回復期及び慢性期それぞれの病床機能に応じた病棟運営(再掲)	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照(p.12-No.16)</li> <li>・参照(p.53-No.7)</li> </ul>

	<p>地域連携室を中心に病院・地域連携会議を開催し、地域の医療・介護・福祉施設等と連携（再掲）</p> <p>入退院調整及び相談支援等について、専任の職員を配置（再掲）</p> <p>がん患者に関する地域連携クリニカルパスの運用を継続、地域との連携を強化（再掲）</p>			
9	<p>こども病院では、県及び信州大学医学部附属病院等と連携し、地域産科・周産期施設との出生前心臓診断ネットワーク（先天性心疾患スクリーニングネットワーク）の構築、インターネットも活用した地域拠点病院間の画像診断データを用いた遠隔診断を推進（再掲）</p> <p>口唇口蓋裂センターは、信州大学医学部附属病院、松本歯科大学病院とで構成する多施設間協力型センターを運営</p> <p>発達障がい専門外来の円滑な運用を図るための連携強化</p>	こども	A	<p>・参照（p.32-No.32）</p> <p>・参照（p.53-No.8）</p> <p>・口唇口蓋裂センターについて、長野県内外から口唇口蓋裂患者の受診があった。松本歯科大学矯正歯科との合同カンファレンスを平成30年5月22日、10月16日および平成31年2月5日の計3回、松本歯科大学にて開催し、顎裂骨移植患者を始め、顔面骨骨切り患者の治療プラン等につき検討した。11月11日には駒ヶ根こころの医療センターにて昨年引き続き県内外患者、言語聴覚士、教師らを対象とした市民公開講座を開催し27人の参加者があった。”出産前に口唇裂があることがわかり、まだまだ程度もわからず不安な中今回参加させていただきました。ほんの少しでも心の準備ができたように思います”、”専門的なことから日常的なことまで、沢山の先生方や時間がかかることを改めて知りました”などの声が聞かれた。</p> <p>・発達障害専門外来では100人の診察をおこない、行政・保育・教育からの診察同席者は44人、診察後の地域医療機関への紹介は27件であった。発達障がいに係る支援者育成のため、小学校教諭を対象とした研修会を1回開催し、44人が参加した。</p> <p>（課題）市民公開講座を含め唇顎口蓋裂センターの活動をもっと発信していく必要があると考える。</p>
10	<p>研修センターでは、シミュレーション教育に取り組む県内の医療機関等と連携し、より質</p>	本部	A	<p>・伊那中央病院と連携し、SimTiki研修修了者及び長野県内医療機関等でシミュレーション教育に携わる職員等を対象とした、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ</p>

	の高い研修を機構職員及び地域医療機関等の職員に提供			①～③を北信・南信2会場で計6回開催し、11施設から延べ86人が参加した。 スキルアップシリーズ① 29人 スキルアップシリーズ② 29人 スキルアップシリーズ③ 28人 <b>【新規参加施設】</b> 佐久大学、佐久総合病院看護専門学校、諏訪中央病院看護専門学校、市立大町総合病院・シナリオを用いたシミュレーション教育に携わる長野県内の看護職及び看護教員を対象とした、スキルアップシリーズ④シナリオブラッシュアップ講座を3月に開催し、7施設から25人が参加した。講師の指導により、参加施設での研修指導用シナリオ7本が完成した。 <b>【新規参加施設】</b> 長野中央病院																								
11	紹介率及び逆紹介率（信州医療センター） <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>57.9%</td> <td>63.7%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>16.5%</td> <td>18.0%</td> </tr> </table> ※紹介率、逆紹介率は全国自治体病院協議会方式にて算定	区分	H28 実績	H30 目標	紹介率	57.9%	63.7%	逆紹介率	16.5%	18.0%	信州	B	・紹介率及び逆紹介率（信州医療センター） <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>30 年度目標</th> <th>30 年度実績</th> <th>29 年度実績</th> <th>目標との差</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>63.7%</td> <td>59.6%</td> <td>59.4%</td> <td>△4.1%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>18.0%</td> <td>15.4%</td> <td>15.7%</td> <td>△2.6%</td> </tr> </table> ※紹介率、逆紹介率は全国自治体病院協議会方式にて算定	区分	30 年度目標	30 年度実績	29 年度実績	目標との差	紹介率	63.7%	59.6%	59.4%	△4.1%	逆紹介率	18.0%	15.4%	15.7%	△2.6%
区分	H28 実績	H30 目標																										
紹介率	57.9%	63.7%																										
逆紹介率	16.5%	18.0%																										
区分	30 年度目標	30 年度実績	29 年度実績	目標との差																								
紹介率	63.7%	59.6%	59.4%	△4.1%																								
逆紹介率	18.0%	15.4%	15.7%	△2.6%																								
12		駒ヶ根	A	・他医療機関からの紹介率 47.1%（前年度48.2%） ・他医療機関への逆紹介率 51.8%（前年度43.3%）																								
13	紹介率及び逆紹介率（阿南病院） <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>19.5%</td> <td>21.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>13.3%</td> <td>15.0%</td> </tr> </table>	区分	H28 実績	H30 目標	紹介率	19.5%	21.0%	逆紹介率	13.3%	15.0%	阿南	B	・紹介率及び逆紹介率（阿南病院） <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>30 年度目標</th> <th>30 年度実績</th> <th>29 年度実績</th> <th>目標との差</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>21.0%</td> <td>20.3%</td> <td>18.8%</td> <td>△0.7%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>15.0%</td> <td>13.0%</td> <td>14.1%</td> <td>△2.0%</td> </tr> </table>	区分	30 年度目標	30 年度実績	29 年度実績	目標との差	紹介率	21.0%	20.3%	18.8%	△0.7%	逆紹介率	15.0%	13.0%	14.1%	△2.0%
区分	H28 実績	H30 目標																										
紹介率	19.5%	21.0%																										
逆紹介率	13.3%	15.0%																										
区分	30 年度目標	30 年度実績	29 年度実績	目標との差																								
紹介率	21.0%	20.3%	18.8%	△0.7%																								
逆紹介率	15.0%	13.0%	14.1%	△2.0%																								

14	紹介率及び逆紹介率（木曽病院）			木 曽	A	・ 紹介率及び逆紹介率（木曽病院）				
	区分	H28 実績	H30 目標			区分	30 年度目標	30 年度実績	29 年度実績	目標との差
	紹介率	20.2%	21.0%			紹介率	21.0%	27.0%	24.6%	6.0%
	逆紹介率	13.1%	14.0%			逆紹介率	14.0%	18.1%	17.1%	4.1%
15	紹介率及び逆紹介率（こども病院）			こ ど も	A	他医療機関からの紹介率 74.0%（前年度77.0%） 他医療機関への逆紹介率 73.9%（前年度80.7%） ・ 上記は地域医療支援病院認定要件を満たしている。				
	区分	H28 実績	H30 目標							
	紹介率	70.8%	70.0%							
	逆紹介率	89.3%	90.0%							
16	イ 地域の医療機関への支援 次のとおり地域医療機関等への支援を行う。 ・ 高度医療機器の共同利用			信 州	A	・ 高度医療機器の共同利用				
	項目		30 年度実績			29 年度実績	前年度との差			
	C T		326 件			328 件	△2 件			
	M R I		170 件			141 件	29 件			
	内視鏡		607 件			531 件	76 件			
	その他（超音波、脳波等）		52 件			46 件	6 件			
合計		1,155 件	1,046 件	109 件						
17	同上			こ ど も	A					
	項目		実績			項目	実績			
	リニアック		63			3 Dモデル造形	17			
	C T		3			R I	2			
M R I		6	合計	91						
18	・ 出前講座や研究会等への職員派遣（信州医療センター）			信 州	A	・ 出前講座を54回開催し3,218人が聴講した。（29年度 78回 3,718人） ・ 地域医療福祉連携室及び在宅診療運営委員会が中心となって、地域の行政と共催で年間10回の「家族介護教室」を開催した。				

19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種チームで地域の医療機関に協力し、地域での認知症医療を推進（こころの医療センター駒ヶ根）</li> <li>・地域医療機関の要請に応じてアルコール依存症等に係る出前講座の実施（こころの医療センター駒ヶ根）</li> <li>・飯田市立病院へ月2回医師を派遣し、精神科患者の心理的問題の相談や精神科リエゾンチームを支援（こころの医療センター駒ヶ根）</li> </ul>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症を有する入院患者に対して、早期に地域生活に戻れることを目指し、適切な治療と対応方針の検討を行う多職種で構成する「認知症ラウンドチーム」により、月2回院内ラウンドを実施した。（30年度実績 75人）</li> <li>・駒ヶ根市がモデル事業で行っている認知症初期集中支援チーム事業に、作業療法士1人と看護師1人が参画し、訪問支援を行った。（30年度実績 訪問延べ53回、チーム会議参加延べ41人）</li> <li>・参照（p.16-No.2）</li> <li>・アルコール依存症に係る出前講座を4回実施し、133人が参加した。</li> <li>・飯田市立病院及び伊那中央病院に月2回医師を派遣し、総合病院における精神科リエゾンチームのコンサルティングを行った。</li> </ul>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地診療所等からの要請に基づき医師派遣等の支援を積極的に実施（阿南病院）</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>（業務の実績）</li> <li>・診療所医師の派遣については欠員時に短期の対応はしているが、H30年度は実施なし。</li> </ul>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会の例会会場に病院施設を開放し、病院医師と医師会会員との連携、情報交換を促進（木曽病院）</li> </ul>	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師会等へ病院施設を開放することで医師会主催による例会・講演会等（8回）、症例検討会（1回）が積極的に開催され、当院医師も参加し医師会会員との連携、情報交換等が活発に行われる等、地域医療の連携の推進に貢献できた。また、医師会に病院機能の活用を促すことで、地域医療の推進が図られた。</li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3Dモデル造形センターを地域の医療機関・医療関係教育機関へ積極的にPR、利用拡大（こども病院）</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年ホームページのマイナーチェンジを行いながら3Dモデル造形の宣伝を行っている。</li> <li>・平成30年度の実績は34件（前年比113%）であったが、院外からの依頼は17件（前年比100%）であり、横ばいであったが、17件中、13件が特定の医療機関からの依頼であり、当院の3Dモデルが恒常的に活用されている。また、新規施設の依頼はなかったが、院内からは形成外科、整形外科からの依頼が増加し、前年を上回る17件（前年比121%）であった。</li> </ul>
23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関からのリハビリテーションスタッフ研修生の受け入れ（こども病院）</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に、地域医療機関のリハビリテーションスタッフを受け入れて実施する臨床研修については、4人を計15日間受け入れ、小児リハビリテーションへの理解を深めること</li> </ul>

		も		ができた。事後アンケート調査では、全員から治療に役立ったとの感想が得られた。																																								
24	・信州大学小児医学講座、信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、こころの医療センター駒ヶ根と共同し、医師や臨床心理技術者、作業療法士などを県内10圏域ごとに行われる研修会や事例検討会などに派遣（こども病院）	こども	A	・県から「発達障がい診療専門家現地派遣事業」の一部委託を受け、信州大学医学部附属病院、こころの医療センター駒ヶ根とともに、県内10圏域の地域連携病院と保健福祉事務所で企画する研修会に、講師として専門家を派遣し、各地域における発達障害診療のネットワークづくりに寄与した。参加者数は1047人で各圏域の発達障がい診療のネットワークづくりに役立てた。また、医師向け研修会では、77人の医師が参加し発達障がい診療体制の整備に寄与した。																																								
25	・エコーセンターの機能を充実し、超音波診断に関する院内外の専門医・技術者等育成（再掲）（こども病院）	こども	A	・参照（p.35-No.37）																																								
26	・地域医療機関等に医療で必要となる基本的な診療、処置、治療の実践的なトレーニングが行える研修センターが所有するスキルラボ等の積極的な活用（研修センター）	本部	A	<p>・スキルラボを活用したシミュレーション研修等 新しくなったスキルラボの活用が広がり、使用者数が2倍となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30使用回数</th> <th>H30使用者数</th> <th>H29使用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師、研修医</td> <td>85回</td> <td>161人</td> <td>206人</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>84回</td> <td>1,023人</td> <td>636人</td> </tr> <tr> <td>多職種（ICLS等）</td> <td>26回</td> <td>450人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>5回</td> <td>55人</td> <td>43人</td> </tr> <tr> <td>看護補助者</td> <td>6回</td> <td>74人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>看護学生（信州木曾看護等）</td> <td>2回</td> <td>38人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>医学生</td> <td>36回</td> <td>140人</td> <td>83人</td> </tr> <tr> <td>その他（職場体験等）</td> <td>28回</td> <td>310人</td> <td>112人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>272回</td> <td>2,251人</td> <td>1,112人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	H30使用回数	H30使用者数	H29使用者数	医師、研修医	85回	161人	206人	看護師	84回	1,023人	636人	多職種（ICLS等）	26回	450人	9人	介護福祉士	5回	55人	43人	看護補助者	6回	74人	0人	看護学生（信州木曾看護等）	2回	38人	23人	医学生	36回	140人	83人	その他（職場体験等）	28回	310人	112人	計	272回	2,251人	1,112人
区分	H30使用回数	H30使用者数	H29使用者数																																									
医師、研修医	85回	161人	206人																																									
看護師	84回	1,023人	636人																																									
多職種（ICLS等）	26回	450人	9人																																									
介護福祉士	5回	55人	43人																																									
看護補助者	6回	74人	0人																																									
看護学生（信州木曾看護等）	2回	38人	23人																																									
医学生	36回	140人	83人																																									
その他（職場体験等）	28回	310人	112人																																									
計	272回	2,251人	1,112人																																									
27	ウ 地域の保健、福祉関係機関等との連携の推進 母子保健、予防医療や認知症対策へ取り組	信州	A	<p>・市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に参加している。</p> <p>・地域における妊産婦、母体、胎児及び新生児への心身両面の一貫した医療を提供を継続</p>																																								

<p>むとともに、地域の福祉関係機関と連携して、退院後の患者やその家族を支援する。</p> <p>また、医療の提供に止まらず、児童虐待への対応や発達障がい児への支援を推進するため、市町村、保健福祉事務所（保健所）、児童相談所などの関係機関やNPOなどと連携し、県立病院の持つノウハウを提供する。</p> <p>信州医療センターでは、市町村、病院、福祉団体等で構成される「須高地域医療福祉推進協議会」に参加し、次の取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんの早期発見・治療機能及び予防医療の充実、在宅復帰支援機能の強化を推進（再掲）</li> <li>・須高地区介護施設との定例会議や須崎市高齢者福祉課、包括支援センターとの合同会議及び「医療と介護の連携推進協議会」において積極的な連携、「地域みんなで支える在宅医療」の実現のため、地域の病院、診療所、訪問看護ステーション及び行政でつくる「須高在宅ネットワーク」に参加</li> <li>・地域包括ケア病棟では、急性期病院との連携のほか、慢性期対応病院や介護施設及び訪問看護ステーション等と連携（再掲）</li> <li>・こども虐待の予防と早期把握のための、須高地域連携システムを維持継続</li> </ul>	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.3-No.4）</li> </ul> <p>（課 題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産婦人科診療体制の安定化、出産受け入れについて地域への周知と分娩件数の増加</li> </ul>
---	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産後ケア事業を継続、生後3カ月までの乳児を持つ母親に授乳や沐浴の指導等を行う</li> <li>「宿泊型」と「デイサービス型」の2種類の支援を提供（再掲）</li> <li>・病児病後児保育について、近隣市町村へ協力</li> </ul>			
28	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、小児科医、児童相談所、教育機関等と定期的に会議を開催し、役割分担の明確化、連携関係の一層の強化を図り、他医療機関で対応困難な症状の重い県内の患者（重度の発達障がい、被虐待児等）に効果的な医療を提供</p> <p>「認知症ケアパス」（地域連携パス）への参加（再掲）</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に上伊那圏域連携サポート会議、11月に発達障がい診療地域連絡会上伊那圏域連絡会、3月に児童相談所長会に参加し、教育、療育、保健、行政、医療分野の関係者と連携強化と情報共有を行った。</li> <li>・参照（p.16-No.2）</li> </ul>
29	<p>阿南病院では、地域の関係機関と連携して次の取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療圏内の市町村及び福祉施設等への診察、リハビリ指導等のため医師及び職員の派遣を継続</li> <li>・阿南町医療介護連携支援システムの登録対象者の増加によるシステムの更なる有効活用（再掲）</li> <li>・在宅医療や介護等と連携した地域医療の役割の明確化、地域包括ケアシステム構築に向けた訪問看護ステーションへの応援・連携体</li> </ul>	阿南	A	<p>30年度 リハビリ理学療法士派遣実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天龍村 集団12回 ・泰阜村（デイケア） 集団38回、個別75件</li> <li>・売木村 集団11回 ・救護施設阿南富草寮 集団12回</li> <li>・南信州広域連合、飯田医師会等で構築を進めている地域包括ケアシステムへの支援について、地域での退院調整ルールワーキンググループ会議に参加し、医療・介護関係者の情報共有化を図り、医療・介護・福祉の連携について協議を進めた。</li> <li>・阿南病院の電子カルテ情報と、保健・福祉との情報の共有化を図るため、阿南町地域医療介護連携システムの利用者拡大により連携に努めた</li> <li>・認知症なんでも相談室では、地域住民や関係団体へ啓発活動を積極的に行い、関係団体との協力関係の構築など認知症を地域で支える体制づくりを推進した。（認知症サポーター養成講習会4回 99人）</li> </ul>

	<p>制の検討（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療総合支援センターでは、町村と連携した認知症を地域で支える体制づくりの推進、乳児健診において町村保健師等と連携した発達障がい児の早期発見と専門スタッフによるフォローアップの実施</li> <li>・診療圏町村との連携を一層強化し、退院支援の充実、保健予防や健診事後指導を町村と連携して行い、地域住民の健康管理を推進</li> <li>・特別養護老人ホーム等への医師派遣における施設内での診療において、当院の電子カルテシステムの活用</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児健診を、阿南町、天竜村、泰阜村から引き続き受託し、発達障がい児等の早期発見に繋げているが、今年度は事例がなかった。</li> <li>・地域連携室が中心となり、町村と連携し、地域の医療・介護等との連携、退院指導等の実施体制を充実させた。</li> <li>・赤石寮を加え、全施設でインターネット環境が整い、電カルシステムの活用を図った。 (課題)</li> <li>・阿南町地域医療介護連携システムの在宅患者等の登録件数の増加と利用の促進</li> <li>・施設診療での電子カルテシステムの活用</li> </ul>
30	<p>木曾病院では、病院・保健福祉関係者連絡会議等を継続的に開催、情報交換や、学習会を行うことにより、地域の関係機関との連携を強化</p> <p>木曾広域連合から「在宅医療・介護連携支援センター」業務を受託、在宅医療及び介護連携を支援する相談窓口を運営、地域包括支援センターとの連携を強化</p>	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.12-No.16)</li> <li>・木曾郡上松町と協働し、赤沢自然休養林の開園期間中（5～10月）に実施した事業のうち、毎週行われている「森のお医者さん」（ストレスチェック・血圧測定）には69名の参加、月1回開催の「医師と歩く森林セラピーロード」には54名の参加があった。</li> <li>・参照 (p.10-No.12)</li> <li>・参照 (p.57-No.4)</li> </ul>
31	<p>こども病院では、民間団体との協働による「こども療育推進事業」を実施、医療的ケア児の在宅移行と在宅生活維持支援のための情報収集及び地域作りを推進</p> <p>医療、福祉、教育、行政関係者との連携に</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうテラスへのこども療育推進事業の委託</li> <li>・各圏域の重心WG・コンダクターチームへの参加、助言を積極的に行いチーム作りに貢献した。 (課題)</li> <li>・小児在宅医療連携を行う診療所、事業所を増やすために人材育成事業の継続と、長野県</li> </ul>

	<p>よる、小児在宅医療に係るネットワークを構築（再掲）</p> <p>医療、福祉、教育、行政関係者を対象とした研修会・学習会の開催や実習の受入れを行い、人材育成を充実</p> <p>「長野しろくまネットワーク」（在宅電子連絡帳等）の運用、ホームページでの情報提供など、小児在宅に係る全県的なネットワークの推進在宅患者のレスパイトケアの実施について検討（再掲）</p> <p>地域療育機関や特別支援学校、市町村、福祉関係機関等と患者支援・地域連携会を開催、発達障がい児や重症心身障がい児等の地域でのリハビリテーションが円滑に進むよう支援</p>		<p>全域に連携を拡大する必要がある。</p> <p>・圏域ごとに創生されつつある他職種連携チームの継続拡充支援と圏域相互の情報交換・全県連携を進める必要がある。</p>																												
32	<p>人間ドック及び各種検診の充実を図り、予防医療を推進（信州医療センター、阿南病院、木曽病院）</p>	信州	<p>・人間ドック及び各種検診の充実を図り、予防医療を推進した。</p> <table border="1" data-bbox="958 962 2056 1313"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰りドック件数</td> <td>1,920件</td> <td>1,672件</td> <td>248件（114.8%）</td> </tr> <tr> <td>2日ドック（通院）</td> <td>164件</td> <td>174件</td> <td>△10件（94.3%）</td> </tr> <tr> <td>特定健康診査件数</td> <td>85件</td> <td>80件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>企業健康診断件数</td> <td>439件</td> <td>494件</td> <td>△55件</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防健診件数</td> <td>1,275件</td> <td>1,282件</td> <td>△7件</td> </tr> <tr> <td>脳ドック件数</td> <td>146件</td> <td>39件</td> <td>107件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・オプション検査 5,431件（29年度5,084件）</p>	区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差	日帰りドック件数	1,920件	1,672件	248件（114.8%）	2日ドック（通院）	164件	174件	△10件（94.3%）	特定健康診査件数	85件	80件	5件	企業健康診断件数	439件	494件	△55件	生活習慣病予防健診件数	1,275件	1,282件	△7件	脳ドック件数	146件	39件	107件
区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差																												
日帰りドック件数	1,920件	1,672件	248件（114.8%）																												
2日ドック（通院）	164件	174件	△10件（94.3%）																												
特定健康診査件数	85件	80件	5件																												
企業健康診断件数	439件	494件	△55件																												
生活習慣病予防健診件数	1,275件	1,282件	△7件																												
脳ドック件数	146件	39件	107件																												

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、病院広報誌、市町村広報誌等により広報活動を実施した。</li> <li>・健康診断の質の維持を図るとともに安全対策を見直した。</li> <li>・理学療法士によるロコモ検診を実施した。</li> </ul>																																
33	同上	阿南	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度との差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰りドック件数</td> <td>205件</td> <td>191件</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>生活習慣病予防健診件数</td> <td>272件</td> <td>255件</td> <td>17件</td> </tr> <tr> <td>脳ドック件数</td> <td>83件</td> <td>107件</td> <td>△24件</td> </tr> <tr> <td>特定健康診査件数</td> <td>129件</td> <td>112件</td> <td>17件</td> </tr> <tr> <td>乳がん検診</td> <td>446件</td> <td>424件</td> <td>22件</td> </tr> <tr> <td>子宮がん検診</td> <td>428件</td> <td>398件</td> <td>30件</td> </tr> <tr> <td>商工会検診</td> <td>198件</td> <td>212件</td> <td>△14件</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドックの地域のニーズは高く、内科医師が不足する中でも予約枠を増やした。また、婦人科検診他各種検診も増加し、公衆衛生活動収益全般で伸びがみられた。</li> <li>・次のようなPRを行い、ほぼ前年並みの受診者を確保することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、市町村広報誌等により広報活動を実施</li> <li>・管内関係機関の定例会の際に、当院ドック活用推進について依頼を実施</li> <li>・地元食材を使ったドック食（信州産豚肉、アルプスサーモン）に季節メニューを導入しPR</li> </ul> </li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高い内視鏡の技術を持つ医師の安定的確保</li> <li>・郡内町村保健師との連携及び再受診につなげる事後指導の充実を図る。</li> </ul>	区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差	日帰りドック件数	205件	191件	14件	生活習慣病予防健診件数	272件	255件	17件	脳ドック件数	83件	107件	△24件	特定健康診査件数	129件	112件	17件	乳がん検診	446件	424件	22件	子宮がん検診	428件	398件	30件	商工会検診	198件	212件	△14件
区分	30年度実績	29年度実績	前年度との差																																	
日帰りドック件数	205件	191件	14件																																	
生活習慣病予防健診件数	272件	255件	17件																																	
脳ドック件数	83件	107件	△24件																																	
特定健康診査件数	129件	112件	17件																																	
乳がん検診	446件	424件	22件																																	
子宮がん検診	428件	398件	30件																																	
商工会検診	198件	212件	△14件																																	
34	同上	木曾	A	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>前年度比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日帰り人間ドック</td> <td>455件</td> <td>500件</td> <td>△45件 (91%)</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度実績	29年度実績	前年度比	日帰り人間ドック	455件	500件	△45件 (91%)																								
区分	30年度実績	29年度実績	前年度比																																	
日帰り人間ドック	455件	500件	△45件 (91%)																																	

		1泊2日人間ドック	4件	3件	1件 (133%)
		脳ドック	108件	98件	10件 (110%)
		生活習慣病予防検診	720件	742件	△22件 (97%)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドック受診者を対象に生活習慣病のための食事に関する説明、栄養相談を実施した。</li> <li>・ホームページにより人間ドックの広報を行った。</li> </ul>			

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

県立病院間で、理事長や改革統括医療監による内科外来診察業務をはじめ、医師、看護職及び医療技術職の人事交流や相互派遣を積極的に行い、診療体制の維持・確保に努めるとともに、他院での経験を通して当該職員のスキルアップや意識の向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 2(2) 1	県立病院間で医師等の人事交流や相互派遣するなど、診療をはじめとする業務の協力体制の充実	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>木曽病院の骨髄病理診断を当院遺伝子検査科及び臨床検査科が実施している。</li> <li>木曽病院に対し平成30年10月・平成31年2月～3月に延べ6名の理学療法士を派遣した。</li> </ul>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>阿南病院、木曽病院から診療放射線技師の派遣を受け、労働環境の改善を図った。</li> <li>信州大学、こども病院から医師の派遣を受け、労働環境の改善を図った。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>木曽病院へ理学療法士を派遣した。(5日間)</li> <li>木曽病院から理学療法士の派遣を受けた。(3日間)</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころの医療センター駒ヶ根へ診療放射線技師を派遣した。(3日間)</li> <li>・こころの医療センター駒ヶ根へMEを派遣した。(2日間)</li> <li>・信州医療センターから内視鏡が出来る医師の派遣を受けた。(12月から3月)</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人員不足対応のため、阿南病院へ12月から3月まで言語聴覚士1名を週1回、こころの医療センター駒ヶ根へ診療放射線技師を年4回派遣し、診療体制の維持を図った。</li> <li>・地域包括ケア病棟の施設基準を維持するため、9月及び2月から3月まで、信州医療センター、阿南病院及びこども病院から、理学療法士の派遣を受けて対応した。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視能訓練士1名を信州医療センターから受け入れた。</li> <li>・放射線技師1名をこころの医療センター駒ヶ根へ派遣した。</li> </ul>
6	同上	機構本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通年で医師の応援派遣を実施 駒ヶ根：木曾(週1回)、阿南(月2回) 原田理事：木曾(週2回) 理事長：阿南(月1回)、信州(月2回)</li> <li>・阿南病院の医師不足へ対応するための医師配置又は派遣はできなかった。</li> <li>・研修センター分室長発令に伴い、医学生を対象とした病院説明会では連携体制を強化することができた。</li> </ul>
7	・木曾病院及び阿南病院に医師を派遣、木曾地域と下伊那南部地域の精神科医療を充実(こころの医療センター駒ヶ根)	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科医を木曾病院に週1回、阿南病院に月2回派遣し、木曾地域と下伊那地域南部の精神科医療の充実を図った。</li> </ul>
8	・こころの医療センター駒ヶ根とこども病院は、信州大学医学部附属病院と共同して、こどもの心の診療を充実(再掲)(こころの医療センター駒ヶ根、こども病院)	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院の神経小児科等と連携し、治療を行った。 こども病院からの紹介患者 6人</li> <li>・信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部と連携し、治療を行った。 信大医学部附属病院子どものこころ診療部からの紹介患者 3人 信大医学部附属病院子どものこころ診療部への紹介患者 1人</li> </ul>

				・子どもの心の診療ネットワーク事業の一環として、2月に公開講座「不安定な愛着をもつ親と子どもの支え方」を実施した。(参加者 100人)
9	同上	こども	A	・参照 (p.32-No.31)
10	・こころの医療センター駒ヶ根から外来診療業務に医師の派遣を受けるなど、他病院から医師の派遣を受け、必要な診療体制の確保 (阿南病院)	阿南	A	・こころの医療センター駒ヶ根から精神科の非常勤医師の派遣を受け、必要な診療体制の確保を図った。(月2回)
11	・こども病院の助産師を木曽病院へ派遣、助産師教育体制を充実 (こども病院)	こども	A	・参照 (p.72-No.5)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(1) 医療従事者の確保と育成

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

医師確保に向け、医師求人サイトの活用や大学医局との連携促進に取り組んだ。

適材適所を原則とした計画的な採用活動を実施するとともに、看護職員については、医療安全の確保と経営的な視点を両立させる適正人員数を算出し、病院間の比較検討を行った。

看護師確保のための学校訪問や就職説明会を積極的に実施するとともに、育児短時間制度を活用し働きやすい職場環境の整備に努め、また、医療クラークの確保により医師の負担軽減を図った。

院内広報誌・職員だよりの発行を通して、職員間の情報共有やコミュニケーションを図り、職員間の理解と一体化につなげた。

研修センターでは、課程別の基礎研修から医療技術職員に対する専門研修まで含めた体系的な研修カリキュラムを構築し、計画的な人材の育成に努め、各病院においても、独自の院内研修の充実により、職員の資質向上に努めた。

各病院において、医師・看護職・医療技術職の認定資格の取得を奨励し専門研修への派遣を行い、医療技術の向上を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

<p>第1 3(1) 1</p>	<p>ア 積極的な医療従事者の確保 (ア) 医療従事者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット、ホームページ等広報の充実、医療系職種養成学校への積極的な訪問活動、学生就職ガイダンスへの積極的な参加などにより医療系職種の採用活動を充実</li> <li>・医師確保については、研修センターが県の「信州医師確保総合支援センター」分室として、初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション研修を実施、県の医師確保対策を支援</li> <li>・信州大学医学部等学生を対象とした県立病院機構等の説明会を開催、機構本部と病院が連携しながら、大学医局との関係強化を進めるとともに、医師研究資金制度の活用などにより、県外からの医師確保を推進</li> <li>・県及び県看護協会が推進する「退職看護職員のナースセンター登録制度」への登録を進めるとともに潜在看護師を把握し看護師を確保</li> <li>・看護師・助産師等の職種について、インターンシップ事業を展開</li> </ul>	<p>信 州</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師の確保に向け医師求人サイトへの掲載、大学医局との連携などあらゆるチャンネルを駆使し、県、機構本部と病院が一体となり取り組んだ。</li> <li>・4月から産婦人科常勤医師を3名から4名（うち産科常勤医師3名）に増員し、分娩取扱数を増加させ地域の産科医療の充実に貢献した。</li> <li>・医師臨床研修マッチングにおいて、医学生に寄り添った情報発信と当院のよさをアピールすることで、2名の枠に対して2名確保し、フルマッチした。</li> <li>・HPの掲載内容の充実や、研修医ブログの定期的な更新の効果もあり、病院見学者数が大幅に増加した。（13人）（昨年度実績4名）</li> <li>・看護師養成校へは県内3校、県外3校、合わせて6校の専門学校および大学の訪問を実施した。</li> <li>・看護師の就職ガイダンスへ県内外合わせて2回参加した。</li> <li>・看護師のインターンシップは2回開催し、8月9日に10人、3月22日に11人が参加した。</li> <li>・看護師病院説明会は4日間開催し、6人が参加した。</li> <li>・県看護協会が推進する「退職看護職員のナースセンター登録制度」へ9名登録した。</li> </ul>
<p>2</p>	<p>同上</p>	<p>駒 ヶ 根</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師確保のため、機構本部と連携して県内3カ所、県外2カ所の養成校や大学を訪問し、病院の紹介、看護師応募の案内、修学資金貸与制度の活用の働きかけ等を行った。</li> <li>・日本精神神経学会新専門医制度における単独型の基幹研修施設の指定を受け、後期研</li> </ul>

				修医（専攻医）を全国から公募した。
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元包括医療協議会と協働し、4月28日に飯田女子短期大学キャンパスにて地域版の合同就職ガイダンスを開催した。</li> <li>・看護師のインターンシップについては、ホームページで募集を行ったが応募はなかった。</li> <li>・情報誌「TSUNAGU」に木曾病院と共同で記事を掲載し、職員募集をPR</li> <li>・10月に地域の看護師のための再就職支援研修会の実施に協力した。（参加者21人）</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護大学や専門学校を積極的に訪問（県内2校、県外4校）するとともに、修学資金の利用促進を図り、看護師の確保に努めた。（新規修学資金利用者5名）</li> <li>・病院説明会（9月）に1人、インターンシップ（8月）に2人の参加があった。</li> <li>・信州木曾看護専門学校学生への説明会（交流会）に8人の参加があった。</li> <li>・将来的な医師の確保に向け、全国の医学生を対象に「病院見学会」を初めて開催し、2名の参加があった。</li> <li>・将来的な病院事務職員及び医療技術職員の確保に向け、県内高校生を対象とした「病院医療体験」を初めて開催し、124名から申し込みがあった。受け入れ人数を調整し、41名で実施した。</li> <li>・中南信地区の高校生に配布される就職活動用企業紹介冊子「TSUNAGU」へ病院紹介記事を掲載し、将来の就職選択肢となるよう、認知度の向上を図った。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師確保のため、他の県立病院と協力し県内外の養成学校への訪問を行った。</li> <li>・県内の病院合同就職説明会に、積極的に参加した（3会場）</li> <li>・病院説明会は、年間5回開催し、延べ47人が参加した。インターンシップは、1泊2日で年間2回開催し35人の参加があった。</li> <li>・高校生一日看護体験の開催を2回行い、50人の高校生が看護体験を行った</li> <li>・看護師の採用予定数を確保することができた（正規採用27人）</li> </ul>
6	同上	本	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター1年目初期研修医を対象に、シミュレーション研修を13回実施し、</li> </ul>

		<p>部</p> <p>延べ28人が参加した。また、アンケート内容等から、研修プログラムの再構築を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター2年目初期研修医3人をハワイ大学医学部SimTikiシミュレーションセンターへ派遣した。</li> <li>・信州医療センターにおいて、臨床実習を行う医学生にシミュレーション研修を35回実施し、延べ81人が参加した。</li> <li>・県立5病院と連携し、病院見学参加者増と県立病院機構研修医育成病院としてのブランディングを目的に、医学生を対象とした、第2回県立病院機構病院説明会を信州大学で開催し、4大学から17人の医学生が参加した。(うち5人が2回連続参加)</li> </ul> <p><b>【病院説明会参加者の県立病院見学会等参加者数】</b></p> <p>信州大学クリニカルクラークシップⅡ 4人(木曾3人、駒ヶ根1人)  病院見学会等 2人(木曾1人、こども1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾病院主催の第1回木曾病院見学会(医学生向け)のサポートを行い、信州大学から2人の医学生が参加した。(うち1人は病院説明会参加者)</li> <li>・木曾病院主催の第1回医療体験(高校生向け)の提案等を行い、長野県内の高校から41人が参加した。</li> <li>・看護師養成校へは県内13校、県外12校に訪問活動を実施</li> <li>・合同就職ガイダンス等への出展</li> </ul> <p><b>【看護職】</b></p> <p>2月 マイナビ看護セミナー(84名)  3月 信州で看護(134名)</p> <p><b>【薬剤師】</b></p> <p>4月 東京薬科大学(7名)【新】  10月 薬学生インターシップフェア(26名)【新】  3月 マイナビEXPO 薬学生(31名)  3月 東北医科薬科大学(12名)</p>
--	--	--

			<p><b>【事務職等】</b></p> <p>3月 就活開幕LIVE (41名)</p> <p>3月 信州大学 (26名)【新】</p> <p>3月 長野Uターン (29名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構ホームページ、採用情報のスマートフォン対応については実施できていない。学生の就職活動の現状に即して速やかに改善する必要がある。</li> <li>・「退職看護職員のナースセンター登録制度」の利用継続</li> <li>・平成30年度は、2回の採用試験(6月、8月)で96名の応募があり、うち既卒者からは33名の応募が得られた。(採用者は計59名(うち既卒22名))</li> <li>・各病院の実情に応じてインターン事業を展開  信州…2回(8月、3月)計21名参加  駒ヶ根…応募者なし  阿南…応募者なし  木曾…2回(8月、3月)計2名参加  こども…2回(8月、3月)計37名参加(定員20名/回)</li> <li>・この他病院見学、説明会も積極的に開催し、駒ヶ根や阿南でも実績を上げている。</li> </ul>
7	<p>(イ) 働きやすい職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児短時間勤務及び育児部分休業などの制度活用を推進</li> <li>・看護師の産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施、職員自身のキャリア形成と復帰後の働き方を検討、職場復帰に向けた支援の実施(信州医療センター)</li> <li>・育児短時間勤務者の勤務形態に応じた適切</li> </ul>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師28人が育児短時間制度を活用し、仕事と子育ての両立を実現している。</li> <li>・看護師については、適正な人員数と配置場所について検討を行い、全産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施し、職員自身のキャリア形成と復帰後の働き方の検討を促し、復帰に向けた支援を実施した。このことが、復帰後の働き方について看護師自身が考える契機となり、21人が夜勤、拘束、日当直を行うことができた。</li> <li>・産育休者のフォローアップ研修を該当者全員に年2回実施し、復帰後の不安解消に役立った。</li> <li>・院内保育所「カンガルーのぽっけ」(定員10人)では、保護者である職員が安心して働</li> </ul>

	<p>な配置等、部門横断的な検討を継続（信州医療センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が看護業務に専念できるよう介護福祉士、看護補助者等を活用（信州医療センター）</li> <li>・魅力再発見・組織発展プロジェクトでの意見をくみ上げるなど、意見が反映されることで達成感を感じられる職場づくりを推進（信州医療センター）</li> <li>・職員のワークライフバランス充実のため、時差出勤を拡充（木曽病院）</li> <li>・医師等の負担を軽減するため医療クラーク（医師事務作業補助者）を活用（こども病院）</li> </ul>			<p>ける環境の提供に努めるとともに、4月「お花見」5月「こいのぼり会」7月「七夕まつり」8月「夕涼み会」9月「秋の遠足」10月「ハロウィン」12月「クリスマス会」2月「豆まき」3月「ひなまつり」を開催し病院と保育所の交流を深めている。（保育総延人数1,199人）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師が本来業務に専念できる環境確保のため、介護福祉士2人が地域包括ケア病棟において夜間勤務に従事している。</li> </ul>
8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児休業等に対応するため、看護師3人の早期入職や有期職員の採用を随時行い、職員の負担軽減を図った。</li> <li>・臨床心理科に1人、デイケア科に1人の非常勤職員を配置するとともに、病棟における薬剤業務強化のため、薬剤科に委託職員1人を配置し、タスクシフトによる職場環境の改善を進めた。</li> <li>・育児短時間制度及び育児部分休業制度を7人が活用して、子育てと仕事の両立を図っている。</li> </ul>
9	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月まで医師1名が育児部分休業を活用した。</li> <li>・医療クラーク3人体制を継続し、電子カルテ代行入力、診断書、意見書作成補助にあたらせ、医師等の負担軽減を図っている。</li> </ul> <p>（課題）</p>

				・電子カルテ代行入力、マスター管理を行うため欠員を生じさせないよう医療クラークの安定的確保が必要である。
10	同上	木曾	A	・育児短時間勤務制度について周知を行い、看護職員17人、医療技術職員1人の活用があった。 ・医療クラーク1人を増員し、診断書作成業務を中心に医師事務の補助を行い医師の負担軽減を図った。
11	同上	こども	A	・育児短時間制度及び育児部分休業制度を49人が活用して、子育てと仕事の両立を図っている。 ・医療クラーク13人を配置し、医師の負担軽減を図っている。
12	同上	本部	A	「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる看護部の適正人員数のために、自作の「適正人員試算表」を活用した試算数と重症度、医療・看護必要度等の分析により、重症度に応じた傾斜配置に取り組むなど、各病院は人員配置の適正化に向けて前向きな取り組みを行った。 ・育児中の勤務に対する様々な制度を分かりやすくまとめた冊子「交代制勤務者のための育児期間中の勤務制度概要」を作成し、各種制度の正しい理解や効果的な活用方法の説明及び啓蒙に努めた結果、育児中であっても夜勤に従事できる職員が各病院で増加した。
13	・病院において院内広報誌等を発行（信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院、木曾病院）	信州	A	・院内広報誌「みちしるべ」を年3回（6、11、3月）発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、各部署の取組みや活動の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。
14	同上	駒ヶ根	A	院内広報誌「猫ベンチのつぶやき」のコンセプトを「職員が病院が見える 知れる わかる」としリニューアル発行を行った。幹部職員のインタビューや各部署の一日のスケジュール、新入職職員の紹介などを掲載、年7回発行し、院内の情報共有を図った。
15	同上	阿南	A	・職員だより「なごみ」を発行し、職員間の情報共有やコミュニケーションを図った。

16	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員相互の理解を深め、組織の一体感を醸成するため、職員の紹介や院内情報などを掲載した院内広報紙「時の河」を年3回発行した。</li> <li>・経営状況や各科の取組を紹介した「経営改善ニュース」を月1回発行した。</li> </ul>
17	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内外向け広報誌「しろくまニュースレター」を年7回発行した。</li> </ul>
18	<p>イ 研修体制の充実</p> <p>(ア) 研修システムの構築</p> <p>研修センターは、前年度の研修実績を踏まえ、新たなカリキュラムの基に、基礎研修から専門研修まで含めた研修を実施し、職員の知識・技術の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機構本部及び各病院との連携のもとに全職員を対象とした接遇、病院経営、医療安全、医療倫理、メンタルヘルス及びハラスメント防止等に関する基礎研修を実施</li> <li>・県立病院で実施する新人看護職員研修を計画段階から支援</li> <li>・シミュレーターを有効活用し、シミュレーション研修の充実</li> <li>・各種シミュレーターを搭載する車両を活用し、医療機関や福祉施設等への出前研修等の実施</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレーターを活用した技術研修を実施した。</li> </ul> <p>※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレーター、分娩シミュレーター、AED、Simman 3 G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医シミュレーション教育を10回実施した。</li> </ul>
19	同上	駒ヶ	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修センターと連携し当院のインシデントレポートを参考に作成したシナリオによる医療安全シミュレーション研修を行い、アクシデントに対応するスキルを学ぶことがで</li> </ul>

		根		きた。(30人参加)
20	同上	阿南	A	<p>(業務の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3名の新人看護師の研修を実施</li> <li>・医療機器の取り扱い、看護技術の向上をも目的とした集合研修を12回開催し、併せて、フォローアップ面接も年間を通じ、併せて行い、病院看護師メンバーの一員として業務が実施できるよう研修を実施した。</li> <li>・長野県看護協会の新人看護職員研修(県の補助事業)に4回/年に参加した。</li> <li>・診療圏域内の中学校で5校でBLS研修を実施した。</li> </ul> <p>6月 売木中学校 1～3年生 14名  7月 天龍中学校 1～3年生 13名  遠山中学校 2年生 13名  泰阜中学校 2～3年生 27名  阿南第一中学校 2年生 28名  阿南第二中学校 3年生 4名  計 99名</p>
21	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用看護職員も含めた研修で、シミュレーターを活用した研修を10回実施した。</li> <li>・新人職員を対象に多重課題、急変時の対応、緊急時の報告をテーマとするシミュレーション研修を計3回実施したほか、中堅職員を対象とした急変時の新人職員への指導について、シミュレーション研修を実施した。</li> </ul>
22	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回程度、院内各部署においてシミュレーション研修会を開催した。</li> <li>・医学生への県立病院機構説明会で、小児救急蘇生に関するシミュレーション教育を実施した。</li> <li>・機構本部及び各病院との連携のもとに職員を対象とした接遇、病院経営、医療安全、医療倫理、メンタルヘルス及びハラスメント防止等に関する基礎研修を実施した。</li> <li>・県立病院で実施する新人看護職員研修を計画段階から支援した。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師のキャリア開発ラダーレベルを踏まえた研修の実施と各県立病院への支援を行った。</li> <li>・シミュレーターの管理体制を明確にし、より有効に活用できる環境を整備した。</li> <li>・全職員向けの医療安全並びに感染対策の院内研修において、座学に加え、実習を取り入れて研修の充実を図った。</li> </ul>																												
23	同上	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院等の意見を反映させた、課程別研修から専門研修まで含めた研修カリキュラムを構築し、職員の知識・技術の向上を図るため、次の研修を実施した。</li> <li>・新たに、機構職員が講師を務める研修を実施し、病院機構に関する知識の醸成を図った。</li> </ul> <p><b>【課程別研修】</b></p> <table> <tr> <td>新規採用職員課程Ⅰ研修</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>新規採用職員課程Ⅱ研修</td> <td>34人</td> </tr> <tr> <td>勤務3年目研修</td> <td>53人</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成研修（5年目）</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成研修（10年目）</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成研修（15年目）</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>キャリア形成研修（20年目以上）</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>リーダー研修Ⅰ（フォロワーシップ研修）</td> <td>45人</td> </tr> <tr> <td>リーダー研修Ⅱ（リーダーシップ研修）</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>コーチング研修</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>新管理職研修</td> <td>22人</td> </tr> <tr> <td>キャリアサポート研修</td> <td>17人</td> </tr> </table> <p><b>【選択研修】</b></p> <table> <tr> <td>公文書の書き方・扱い方・労働条件・サービス研修</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション研修</td> <td>13人</td> </tr> </table>	新規採用職員課程Ⅰ研修	64人	新規採用職員課程Ⅱ研修	34人	勤務3年目研修	53人	キャリア形成研修（5年目）	49人	キャリア形成研修（10年目）	28人	キャリア形成研修（15年目）	19人	キャリア形成研修（20年目以上）	26人	リーダー研修Ⅰ（フォロワーシップ研修）	45人	リーダー研修Ⅱ（リーダーシップ研修）	44人	コーチング研修	15人	新管理職研修	22人	キャリアサポート研修	17人	公文書の書き方・扱い方・労働条件・サービス研修	37人	プレゼンテーション研修	13人
新規採用職員課程Ⅰ研修	64人																														
新規採用職員課程Ⅱ研修	34人																														
勤務3年目研修	53人																														
キャリア形成研修（5年目）	49人																														
キャリア形成研修（10年目）	28人																														
キャリア形成研修（15年目）	19人																														
キャリア形成研修（20年目以上）	26人																														
リーダー研修Ⅰ（フォロワーシップ研修）	45人																														
リーダー研修Ⅱ（リーダーシップ研修）	44人																														
コーチング研修	15人																														
新管理職研修	22人																														
キャリアサポート研修	17人																														
公文書の書き方・扱い方・労働条件・サービス研修	37人																														
プレゼンテーション研修	13人																														

--	--

OJT研修	17人
<b>【看護部専門研修】</b>	
副看護師長研修	16人
<b>【医療技術部専門研修】</b>	
医療技術部集合研修	34人
医療技術部フィジカルアセスメント研修	92人
臨床検査技師研修会	29人
診療放射線技師研修会	23人
薬剤師研修会	29人
栄養部門研修会	7人
管理栄養士研修会	15人
リハビリテーション技士会研修会	29人
<b>【事務職研修】</b>	
・事務職員の資質向上及び連携を図るため、事務職員研修会を初めて実施した。	
・事務職新規採用者を対象に多職種体験研修を、こども病院主催で実施した。	
事務職員研修	33人
事務職新規採用者研修	1人
<b>【接遇研修】</b>	
信州医療センター	44人
こころの医療センター駒ヶ根	40人
阿南病院	30人
木曾病院	72人
こども病院	26人
・信州医療センター新人研修委員会のメンバーとして、新人看護職員研修計画の段階から支援、協力した。	

			<p>新人研修委員会等への参加 12回  新人看護師研修の支援 10回</p> <p>・阿南病院と連携し、中学校5校でシミュレータを活用したBLS（一次救命処置）研修を実施した。</p> <p>6月 売木中学校 1～3年生 17人  7月 天龍中学校 1～3年生 13人  遠山中学校 2年生 13人  泰阜中学校 2～3学年 27人  阿南第一中学校 2年生 28人</p> <p>医療機関、福祉施設等でシミュレータを活用した研修を実施した。</p> <p>5月、7月 長野県保健師専門研修 22人  5月、6月 障がい者施設ほほえみ 12人  6月 安曇野赤十字病院 11人  10月 長野県林業センター 25人</p>
24	・看護師のキャリア開発ラダーレベルを踏まえた研修の実施と各県立病院への支援	本部	<p>A</p> <p>・看護の実践能力評価の標準化を図るため、看護部長会及び教育担当者会議を中心にラダーの見直し作業を行い、新しいキャリア開発ラダー（案）を作成</p> <p>・2020年度からの本格運用に向けて2019年度は試行を行い、人事評価との運用の調整を検討していく。</p> <p>・看護師のキャリア開発ラダーレベルを踏まえた研修にて、講師を行った。</p> <p>こども病院研究アドバイザー研修 10人  信州医療センターメンター研修 13人  信州医療センター看護部Ib研修 5人  こども病院フィジカルアセスメント研修II 13人</p>
25	(イ) シミュレーション研修の指導者育成と実践	本部	<p>A</p> <p>・SimTiki研修修了者及び長野県内医療機関等でシミュレーション教育に携わる職員等を対象とした、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ①～③を北信・南信2会</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンター研修受講者を中心としたセミナーの開催を通じ指導者の育成、スキルアップを図るとともに、当該指導者を中心に各病院においてシミュレーション研修を実施</li> <li>・シミュレーション教育に係わる県内の教育・医療機関における協力体制作りを進めるとともに、県内外のシミュレーション教育における指導的立場にある者の協力を得て、シミュレーション教育のレベルアップ</li> </ul>			<p>場で計6回開催し、11施設から延べ86人が参加した。また、SimTiki研修修了生5人が講師として携わった。</p> <p>スキルアップシリーズ① 29人          スキルアップシリーズ② 29人          スキルアップシリーズ③ 28人</p> <p><b>【新規参加施設】</b>          佐久大学、佐久総合病院看護専門学校、諏訪中央病院看護専門学校、市立大町総合病院</p> <p>・医療安全シミュレーション研修(駒ヶ根、阿南、木曾、こどもで実施)ではハワイSimTiki研修修了生13名が講師として携わった。</p> <p>・東京医科大学病院シミュレーションセンターの協力を得て、シナリオを用いたシミュレーション教育に携わる長野県内の看護職及び看護教員を対象とした、スキルアップシリーズ④シナリオブラッシュアップ講座を3月に開催し、7施設から25人が参加した。講師の指導により、研修指導用のシナリオ7本が完成した。</p> <p><b>【新規参加施設】</b> 長野中央病院</p>
26	<p>(ウ) 各県立病院及びその分室を通じた研修の充実</p> <p>各県立病院においては、病院独自の院内研修の実施、学会等の企画・運営への積極的な関与等を通じ、公的医療機関としての使命を果たすという意識の醸成、知識・技術の向上を図る。</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の各委員会等の企画による研修会を実施</li> </ul> <p>感染対策研修会、医療安全推進研修会、褥瘡予防研修会、サービス向上ロールプレイング研修会、育児休暇中フォローアップ研修会、重症度・医療・看護必要度研修会、クリニカルパス学習会、口腔ケア研修会、接遇研修会、糖尿病学習会、医療ガス安全管理研修会、R S T呼吸器学習会、看護師復帰支援研修会、クリニカルパス大会</p>
27	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外で受講した研修の情報共有を図るため、院内研究発表会でフィードバックの機会を設けた。</li> <li>・研修に参加できなかった職員が研修内容を閲覧できるようナースングスキルを活用した。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内研修会を延べ40回行い、職員の資質向上に努めた。</li> </ul>
28	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症認定看護師による認知症研修会を実施した。 (職員認知症サポーター研修 1回 18名参加 昨年度未受講者等 15人)</li> <li>・医療安全研修会、院内感染研修会、職員BLS研修会等、院内研修会を充実させるとともに、院外研修へ積極的に参加し、人材育成を図った。</li> <li>・院内情報交換会を実施し、各部門での取り組み等を発表し、情報の共有を図った。(2回開催 参加者 81人)</li> </ul>
29	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内の各委員会の企画による早朝勉強会(年11回)、院内感染対策研修会(年2回)のほか、院内研究会、医療安全研修会、診療報酬勉強会、症例検討会、医療倫理研修会、コミュニケーション研修会等を活発に行い、職員の資質向上に努めた。</li> </ul>
30	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内臨床研修助成制度、院内業績優秀制度、院外研修助成制度を制定し、職員の研修、研究体制を充実させたことで、診療技能の向上に加え英文論文、著書の数も増加した。</li> <li>・また、学術活動を通して職員の資質向上を図り、小児専門医療機関としての当院の専門性、学術レベルを一層向上させるとともに、当院の対外的な認知度を高めるために、学会等における職員の研究発表等について支援を行った。</li> <li>・信州大学との連携大学院の平成31年度開講に向けて、入学希望者を募り、研究支援体制を構築した。 (課題)</li> <li>・今後も継続して、厚生労働省等からの科学研究費をはじめ、研究資金の確保に努める。</li> </ul>
31	県立病院等合同研究会の開催等、職員が研究成果等を発表できる機会を確保	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第15回県立病院等合同研究会を以下のとおり開催した。 日 時：12月1日(土) 場 所：長野県看護大学(駒ヶ根市) 参加者： 202人 参集範囲：長野県立病院機構及び総合リハビリテーションセンターの役職員、信州木曾看護専門学校の在校生</li> </ul>

				<p>一般演題： 13演題</p> <p>特別講演：「日本の課題と地域包括ケア」</p> <p>講師： 前 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部 地方創生総括官 唐澤 剛</p> <p>・医学研究の利益相反に関する指針等を作成し次年度から活用を開始</p>
32	看護学生の実習体制充実のため、臨床実習担当者を看護学生等実習指導者養成講習会へ計画的に派遣（信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根、木曽病院、こども病院）	信州	A	・信州木曽看護専門学校・県立須坂看護専門学校へ講師として16名派遣した。
33	同上	駒ヶ根	A	信州木曽看護学校、須坂看護専門学校、岡谷市看護専門学校、上伊那准看護学校、飯田女子短期大学へ医師及び看護師を14名派遣した。
34	同上	木曽	A	・看護学生の実習体制充実のため、臨床実習担当者を看護学生等実習指導者養成講習会へ積極的に派遣した。（1名派遣）
35	同上	こども	A	・平成30年度は、実習指導者養成講習会に2名受講した。
36	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、信州大学との連携大学院教育により、医学博士取得を目指す医師を養成</p> <p>精神科研修・研究センターにより、信州大学及び県看護大学との連携の強化、各種研修のカリキュラムを検討</p> <p>研修機能を強化するため、日本精神神経学</p>	駒ヶ根	A	<p>・信州大学との協定により平成29年度に開始した連携大学院教育は、医師1人が臨床業務に携わりながら研究活動を進め、学位の取得を目指している。また、連携大学院生として平成31年度入職予定の医師1名の採用を行った。</p> <p>・信州大学大学院と連携し、統合失調症を対象とする作業療法の研究協力を開始した。</p> <p>・新専門医制度の基幹施設として全国の初期研修医に対し募集を行い、平成31年度入職の医師1人の採用を決定した。</p> <p>・新たに4人の医師が精神保健指定医に指定され、当院医師13人のうち、精神保健指定</p>

	会認定の精神科専門医制度基幹施設病院及び日本老年精神医学会専門医制度認定施設として研修医の受け入れを推進			医が11人となり、措置入院、緊急措置、医療保護入院などの救急患者受入体制が強化された。
37	こども病院では、職員研修助成基金を活用し、人材を育成 大学院と連携し臨床業務に従事しながら大学院における研究活動の検討	こども	A	・平成31年度開講の連携大学院に4名の職員が応募し合格し、大学院教育が実施される準備を整えた。
38	県立病院の研修センター分室では、各県立病院が持つ機能や特色を活かした研修を実施 ・こども病院の研修センター分室では小児科専門医研修、多職種に向けた研修及び短期研修を実施、人材育成と技能の向上	木曾	A	・学生向け説明会で「不定愁訴外来とは？～医療現場での発想の転換～」の講演を行った。
39	同上	こども	A	・小児科専門医を目指す専攻医ならびに初期研修医のための研修セミナーを開講し、座学および実技を交えた幅広い研修を提供した。その結果、診療技能の向上、専門医の取得、当院への研修希望の増加などが成果として現れた。 ・学生向け説明会でシミュレーション体験講習を行い、当院の役割と研修環境の周知を行った。
40	(エ) 職員のキャリアアップに対する支援 ・研修センターは、「新規採用職員課程別研修」や「キャリア形成研修」などの研修を通して、採用後出来るだけ早い段階からキャリア形成に向けての意識付けを行うとともに、各種研修会の開催により、様々なスキルアップのための機会を提供	本部	A	・参照 (p.83-No.23)

41	<p>ウ 医療技術の向上</p> <p>(ア) 認定資格等の取得の推進</p> <p>各県立病院において、全職種 of 医療技術向上と職員の資質向上に役立つ認定資格等の取得を奨励し、専門研修への派遣を計画的かつ積極的に行う。</p> <p>認定看護師の配置状況</p>	信州	A	<p>・今年度の認定看護師の取得状況は以下のとおり。</p> <table border="0"> <tr><td>認定看護師</td><td>人数</td></tr> <tr><td>感染管理</td><td>3人</td></tr> <tr><td>救急看護</td><td>2人</td></tr> <tr><td>がん化学療法看護</td><td>1人</td></tr> <tr><td>皮膚排泄ケア</td><td>1人</td></tr> <tr><td>摂食嚥下障害看護</td><td>1人</td></tr> <tr><td>糖尿病看護</td><td>1人</td></tr> <tr><td>手術看護</td><td>1人</td></tr> <tr><td>認知症看護</td><td>1人</td></tr> </table> <p>その他、認定看護管理教育課程 ファースト1人 セカンド1人受講</p> <p>・臨床検査科の認定資格等の取得状況は以下のとおり。</p> <p>博士 1人</p> <p>細胞検査士・国際細胞検査士 2人</p> <p>超音波検査士（循環器領域） 3人</p> <p>超音波検査士（腹部領域） 2人</p> <p>超音波検査士（表在領域） 1人</p> <p>感染制御認定臨床微生物検査技師 1人</p> <p>認定消化器内視鏡技師 2人</p> <p>日本糖尿病療養指導士 1人</p> <p>東北信地域糖尿病療指導士 1人</p> <p>2級臨床検査士（循環生理学） 2人</p> <p>2級臨床検査士（臨床科学） 1人</p> <p>臨床緊急検査士 4人</p> <p>健康食品管理士 1人</p>	認定看護師	人数	感染管理	3人	救急看護	2人	がん化学療法看護	1人	皮膚排泄ケア	1人	摂食嚥下障害看護	1人	糖尿病看護	1人	手術看護	1人	認知症看護	1人
認定看護師	人数																					
感染管理	3人																					
救急看護	2人																					
がん化学療法看護	1人																					
皮膚排泄ケア	1人																					
摂食嚥下障害看護	1人																					
糖尿病看護	1人																					
手術看護	1人																					
認知症看護	1人																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="230 531 432 627">病院名</th> <th data-bbox="432 531 633 627">人数</th> <th data-bbox="633 531 824 627">認定看護師の分野内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="230 627 432 1114">信州医療センター</td> <td data-bbox="432 627 633 1114">10人</td> <td data-bbox="633 627 824 1114">感染管理2人、救急看護2人、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケア、摂食・嚥下障害看護、糖尿病看護、手術看護、認知症看護</td> </tr> <tr> <td data-bbox="230 1114 432 1398">こころの医療センター 駒ヶ根</td> <td data-bbox="432 1114 633 1398">4人</td> <td data-bbox="633 1114 824 1398">精神科認定看護師3人（薬物療法、薬物・アルコール依存症、児童・思春期</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	人数	認定看護師の分野内訳	信州医療センター	10人	感染管理2人、救急看護2人、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケア、摂食・嚥下障害看護、糖尿病看護、手術看護、認知症看護	こころの医療センター 駒ヶ根	4人	精神科認定看護師3人（薬物療法、薬物・アルコール依存症、児童・思春期												
病院名	人数	認定看護師の分野内訳																				
信州医療センター	10人	感染管理2人、救急看護2人、がん化学療法看護、皮膚・排泄ケア、摂食・嚥下障害看護、糖尿病看護、手術看護、認知症看護																				
こころの医療センター 駒ヶ根	4人	精神科認定看護師3人（薬物療法、薬物・アルコール依存症、児童・思春期																				

		精神) 認知症 看護	<p>特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者 1人 有機溶剤作業主任者作業講習修了者 1人 毒劇物取扱者 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション技術科の認定資格等の取得状況は以下のとおり。 3学会合同呼吸療法認定士 9人 心臓リハビリテーション学会 認定指導士 1人</li> <li>・放射線技術科の認定資格等の取得状況は以下のとおり。 肺がんCT検診認定技師 1人 核医学専門認定技師 1人 X線CT技能検定 1人 放射線管理士 1人 放射線機器管理士 1人 ICLS 1人 マンモグラフィ認定 4人</li> <li>・栄養科認定資格等の取得状況は以下のとおり。 栄養サポート専門療法士 3名 糖尿病療養指導士 2名 東北信地域糖尿病療養指導士 1名</li> <li>・薬剤科の取得状況は以下のとおり。 感染制御専門薬剤師 1人 感染制御認定薬剤師 1人 日本静脈経腸栄養学会 栄養サポートチーム専門療法士 2人 日本薬剤師研修センター 認定薬剤師 8人 日本薬剤師研修センター</li> </ul>
阿南病院	1人	認知症看護	
木曽病院	6人	感染管理、皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん化学療法、認知症看護、糖尿病看護	
こども病院	12人	皮膚・排泄ケア2人、新生児集中ケア3人、感染管理2人、小児救急看護2人、がん化学療法看護、手術看護、緩和ケア	
<p>※こども病院では、上記の他、小児看護専門看護師1人を配置</p> <p>信州医療センターでは、認定看護師、専門看護師等の資格取得を支援するため、院内審</p>			

	<p>査会を開催し適正な専門研修の派遣</p> <p>木曾病院では、信州大学医学部で行われている「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」に訪問看護師1人を受講、在宅看護の資質向上</p>			<p>認定実務実習指導薬剤師 4人 日本病院薬剤師会 生涯研修履修認定薬剤師 3人 スポーツファーマシスト 1人 H I V感染症薬物療法認定薬剤師 1人 日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士 2人</p> <p>・臨床工学科の取得状況は以下のとおり。 3学会合同呼吸療法認定士 2人 透析技術認定士 2人 臨床ME 専門認定士 1人 呼吸治療専門臨床工学技士 1人 血液浄化専門臨床工学技士 1人 消化器内視鏡技師 2人 臨床高気圧酸素治療装置操作技師 1人</p>
42	同上	駒ヶ根	A	<p>・認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 1人修了</p>
43	同上	阿南	A	<p>・細胞検査士の認定資格取得 1名</p>
44	同上	木曾	A	<p>30年度認定資格等の取得状況</p> <p>・細胞検査士 1人</p> <p>・認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 2名修了 セカンドレベル 1人修了</p>

					<ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護師の状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>認定看護管理者 1人</li> <li>感染管理 1人</li> <li>皮膚排泄ケア 1人</li> <li>緩和ケア 1人</li> <li>がん化学療法 1人</li> <li>認知症看護 1人</li> <li>糖尿病看護 1人</li> </ul> </li> </ul>											
45	同上	こども	A	・平成30年度、新たな認定看護師の取得はなかったが、小児専門看護師2名、認定看護師12名が、それぞれの専門性を発揮して活動した。												
46	<table border="1"> <tr> <td>県立病院における認定資格の取得人数</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>区 分</td> <td>H29 実績</td> <td>H30 計画値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>認定看護師資格</td> <td>3人</td> <td>2人</td> <td></td> </tr> </table>	県立病院における認定資格の取得人数				区 分	H29 実績	H30 計画値		認定看護師資格	3人	2人		本部	A	<p>本年度は信州医療センターで1名（感染管理）認定を受けた。</p> <p>認定看護分野の見直されていることに併せ、これからの取得奨励方針や人材の活用方針を再検討する必要がある。</p>
県立病院における認定資格の取得人数																
区 分	H29 実績	H30 計画値														
認定看護師資格	3人	2人														
47	(イ) 大学院等への就学支援 ・業務に活かせる知識・技術等を取得させるため、大学院等へ進学できる環境を整備働きながら大学院等への進学を希望する職員に配慮した修学部分休業制度の活用	信州	A	・助産師1人が新潟県立看護大学大学院看護学研究科修士課程を修了（平成29年4月～平成31年3月まで）												
48	同上	駒ヶ根	A	・修学部分休業を活用し、事務部職員1人が大学院へ修学中												
49	同上	阿南	A	・臨床工学技士1人が修学部分休業を活用して信大大学院医学系研究修士課程を履修（H29.4.1～H31.3.31）												
50	同上	こ	A	・9月26日に信州大学大学院と連携大学院教育に関する協定の調印を行い、平成31年4												

		ども		<p>月から開講することとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携大学院に、こども病院の勤務医師3名、臨床検査技師1名が入学した。</li> </ul>
51	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学部分休業は2名（助産師1、事務職1）が利用し、大学院で修学した。</li> <li>・今後も制度の周知を継続するとともに、業務をフォローできる組織体制の構築に努める。</li> </ul>
52	<p>(ウ) 学術集会や研究会等での研究の奨励</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各県立病院において、医療に関する職員の学術研究の取組を奨励し、学術集会や研究会等での研究発表や論文発表の機会を確保、優秀な研究成果の表彰等を実施</li> </ul> <p>学術集会や研究会等での発表や論文作成リストを、病院ホームページにて公開（信州医療センター）</p> <p>こども病院では、病院独自の支援制度により職員の研究及び研究発表等を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床医学助成制度：小児・周産期の先進高度チーム医療に貢献する研究に対して助成</li> <li>・優良業績表彰：優秀な論文、出版物の発表に対して表彰</li> <li>・研究発表等助成金：学会での研究発表や論文・出版物の発表・出版に係る職員の活動に対して助成</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に関する職員の学術研究や講演会活動をホームページにて公表している。</li> </ul>
53		駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会発表 医師3人、看護師1人、臨床心理技師1人</li> <li>・シンポジスト 薬剤師1人</li> </ul>

54		木 曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.87-No.29)</li> <li>・学会での発表を医師、医療技術部、看護部合わせて26件行った。</li> </ul>
55		こ ど も	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.87-No.30)</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州型総合医については、平成30年度からの新専門医制度の開始に伴い、「総合診療専門医」の養成に引き継がれた。信州医療センターでは引き続き基幹施設として、他の県立病院は連携施設として、総合診療研修プログラムに基づき総合診療医の養成を推進している。

信州医療センターは、臨床研修指定病院として、初期臨床研修医や自治医科大及び信州大学4、5年次生の臨床実習等を受け入れ育成した。

各病院においては、地域医療、精神科、小児科などの臨床研修プログラムを充実させるとともに、信州大学医学部生8名の「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」の受入れなど、臨床研修医の育成に力を入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(2) 1	ア 信州型総合医の養成 ・5病院の特色を最大限に活かした研修プログラムによる、家庭医療専門医、認定内科医の養成	信州	A	今年度より新専門医制度がスタートし、当院でも信州型総合医に代わる「総合診療専門研修」の基幹施設の認定を受けた。

	・阿南病院では、「へき地医療臨床プログラム」に基づき信州型総合医を養成（再掲）			
2	同上	駒ヶ根	A	・領域別選択研修病院として参加しているが、研修実績はなかった。
3	同上	木曾	A	・信州医療センターを中心とした総合診療専門医育成プログラムに参加した。
4	同上	こども	A	・信州医療センターの信州型総合医の小児科研修を受け入れた。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度救急医療にかかる研修を行うため、高度救命救急センターを有する信州大学と提携</li> <li>・福島県立大学と提携し、同大学の家庭医療学専門医コースへの派遣研修を選択研修として実施</li> <li>・信州医療センターでは、プログラムとスタッフの充実を図り、専門分野に特化した指導体制を強化、豊富な臨床の場の提供によってジェネラリストの養成と定着を推進</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医が高度救急医療にかかる研修を行うため、高度救命救急センターを有する信州大学で研修を行っている。また、世界的にも屈指のシミュレーションセンターを有するハワイ大学医学部のシミュレーション研修にも研修医を2人派遣した。</li> <li>・信州型総合医の養成に備え福島県立大学と提携を継続している。</li> <li>・8月「ポートフォリオの書き方」と題し、福島県立医科大学医学部 地域・家庭医療学講座葛西龍樹主任教授による総合医養成セッションを開催した。（参加者10人）</li> <li>・他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他の職種などと連携し、地域の医療、介護、保健など様々な分野でリーダーシップを発揮しつつ多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供する医師である総合診療専門医育成のため、総合診療専門医基幹施設の申請を行い、認定された。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ 臨床研修医の受入れと育成</li> <li>・信州医療センターでは、臨床研修医の確保に努めるとともに、臨床研修プログラムの充実を図り、臨床研修医を積極的に受け入れ</li> <li>・新たな専門医制度に対応した信州型総合医</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修医を今年度新たに2人受入れた。</li> <li>・自治医科大学6年次生臨床実習受入（1人） 5年次生夏季実習受入（3人）</li> <li>・信州大学5年次生臨床実習受入（22人） 4年次生臨床実習受入（2人）</li> </ul>

	<p>養成プログラムを活用し、新卒医師等の初期臨床研修後の受け皿としての役割を果たすことで、地域医療を志す医師を育成・確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部研修センターと密接に連携し、シミュレーション教育を積極的に取り入れた病院独自の育成プログラムの実施、総合診療専門医基幹施設の準備に着手</li> <li>・こども病院では、(一社)日本専門医機構認定の小児科専門研修プログラムを提供、小児科専門医を育成、短期研修医を受け入れ、人材を育成</li> <li>・小児の専門的救急医療の対応ができる職員のスキルアップ・教育制度を整備、質の高い小児救急医療サービスを確保</li> <li>・研修センターでは、県の「信州医師確保総合支援センター」分室として、初期臨床研修医等を対象としたシミュレーション研修を実施(再掲)</li> <li>・また、5病院の特色を最大限に活かした研修プログラムによる、家庭医療専門医、認定内科医の養成(再掲)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの掲載内容の充実や、研修医ブログの定期的な更新の効果もあり、病院見学者数が大幅に増加した。(13人)(昨年度実績4名)</li> <li>・初期研修医及び総合診療専門医募集のため、ホームページにプログラムを公開している。</li> <li>・臨床実習生のカリキュラムについて、「胸部画像レクチャー」など実践的な内容を取り入れ充実させたことで学生の好評を得た。</li> <li>・医師臨床研修マッチングにおいて、医学生に寄り添った情報発信と当院のよさをアピールすることで、2名の枠に対して2名確保し、フルマッチした。</li> <li>・レジナビや合同説明会に参加し、募集活動を行った。(年4回)ブース来訪者数合計95人。</li> <li>・研修センターと連携し、医師・研修医・医学生・看護師等を対象にシミュレータを活用した技術研修を実施した。</li> </ul> <p>※腹腔鏡、大腸カメラ、上部消化管内視鏡、中心静脈カテーテル挿入シミュレータ、分娩シミュレータ、AED、Simman 3 G、さくら、リトルアン、切開キットなどを使用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医シミュレーション教育を10回実施した。</li> </ul>
7	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力型臨床研修指定病院として、初期臨床研修医5人を受け入れた。</li> </ul>
8	同上	阿	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯田市立病院から1名(1週間) 信州医療センターから3名(各4週間)の研修医を受</li> </ul>

		南		入れ、「へき地医療臨床プログラム」に基づき養成を実施
9	同上	木 曾	A	・信州大学医学部生 8 人の「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」の受入れを行った。
10	同上	こ ど も	A	・3名の小児科後期専門研修医を当院および関連する施設で受け入れた。新専門医制度に基づくカリキュラムを整備し、新制度下で新たに1名の専攻医を受け入れた。 (課 題) ・継続的で魅力ある研修体制の整備とさらなる充実を図る。
11	信州大学医学部附属病院で行う「信州大学と長野県内関連病院群研修プログラム」に信州医療センターと木曾病院が関連病院として参加、それぞれの特色を活かしたプログラムを提供し初期研修を受け入れ（信州医療センター、木曾病院）	信 州	A	信州大学からのたすき掛け1人を受入れ予定だったが、該当者が国家試験不合格により、たすき掛け受入れ実績はなかった。 臨床実習生の受入れは、5年次生17人、4年次生2人。
12	同上	木 曾	A	・参照 (p.99-No.9)

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(3) 信州木曾看護専門学校の運営

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

信州木曾看護専門学校では、平成28年度卒業生（第1期生）、平成29年度卒業生（第2期生）、平成30年度卒業生（第3期生）が国家試験に全員合格することができた。また、県内で看護師不足が顕著な木曾、伊那、飯伊地域へ28年度11名、29年度9名、30年度は11名が就職（県内就職数—28年度卒業生25名、29年度卒業生15名、30年度卒業生21名）し、地域医療に貢献できる人材を輩出することができた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(3) 1	<p>学生定員90人</p> <p>・恵まれた自然と歴史ある環境のもと、人間の生命や生活の質を多角的に理解し尊重できる豊かな人間性を育むとともに、科学的思考に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養成する。また、生涯にわたって学び続ける態度を身につけ、地域における保健・医療・福</p>	木曾看護	A	<p>・開校以来5年が経ち、平成28年度卒業生（第1期生）平成29年度卒業生（第2期生）平成30年度卒業生（第3期生）が全員国家試験に合格した（100%合格率は全国で22%）。また、1・2期生で保健師・助産師の資格取得のため進学した4名全員がそれぞれの資格を取得し県内の病院、市町村役場に就職した。</p> <p>・卒業生の就職先は、県内で看護師不足が顕著な木曾、伊那、飯伊地域へ28年度11名、29年度9名、30年度は11名が就職した。（県内就職数—28年度卒業生29名中25名、29年度卒業生21名中15名、30年度卒業生23名中21名）</p>

	<p>社の充実及び発展に貢献する人材の育成を目指す。また、4年間の実績を踏まえてカリキュラムを見直し、授業と実習の質の向上に努めるとともに、引き続き看護師国家試験受験へのサポートを行う。また、卒業生と在校生の交流の機会を設け、先輩としての力を活かせるようフォローアップしていく。</p> <p>ア 特色あるカリキュラムの提供と看護の基礎的実践力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性を活かした授業内容、地元地域への愛着を育む課外活動及び学校行事を提供</li> <li>・シミュレーション教育を充実し、基礎的な看護技術の習得と実践力の向上</li> <li>・木曽病院をはじめ臨地実習施設と連携を取り、学生が学びやすい実習体制の整備</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境論の講義や地域の里山の散策などの活動を通して、自然と人間、里山の暮らし、森林セラピーについて理解を深めた。卒業時のアンケートでは、最も印象に残った科目に環境論が挙げられた。</li> <li>・実習では、1年生は基礎看護学実習2回(7月、1月)、2年生は成人看護学実習Iと老年看護学実習II(8月、2月)、3年生は成人、老年、母性、小児、精神、在宅の領域別看護学実習(5月から11月)、統合実習(11月から12月)を実施し、実習地域も拡大した。木曽病院の他に伊那、塩尻、安曇野、大町地域の7病院と協議・連携しながら実施、在宅看護学実習では地域の訪問看護・巡回診療・町村保健活動等に同行し地域医療の実際を学んだ。</li> <li>・3年生は、事例または文献研究を学内で発表し、優れた論文は、長野県看護学生研究発表会、県立病院機構等研究会で発表した。その経験を通し、科学的思考の基盤を形成した。</li> <li>・基本的な看護技術の習得において、2年生が1年生に指導する方法を導入し、双方の技術向上に寄与した。</li> <li>・3年生の国家試験対策として必修問題及び模擬試験に重点的に取り組んだ。又、2年生から低学年模擬試験を実施した。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの評価、実習体制の充実</li> <li>・看護技術教育の実践的な学びを深める教材の充実</li> <li>・基礎学力向上及び国家試験へのサポート体制の充実</li> <li>・思考力を育てる教材の研究</li> </ul>
2	<p>イ 教員等の安定的な確保及び教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の看護教育経験者及び臨床現場である県立病院との人事交流の促進等による専任教員の安定的な確保</li> <li>・専任教員として、段階的な教育力の向上</li> </ul>	木 曾 看	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員2人の配置(28年度専任教員養成講習会受講生2名が専任教員へ)された。</li> <li>・各専門領域別に教員が配置され、教授体制が整った</li> <li>・教員は年に1回程度の学会参加を始め、専門領域の研修へ参加した</li> <li>・シミュレーション教育充実のための研修会参加-本部研修センター研修へ1名参加</li> <li>・新任教員の教育力向上への支援、及び29年3月に提示された「長野県看護教員のキャリア</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内での基礎的な看護技術指導での内容統一及び協力体制作りを促進</li> <li>・教職員等の学会・研修会等への参加の機会を増やし、教育力・教育環境の向上</li> <li>・研修会や臨地実習指導者会議での意見交換等を通して、実習における教育力の向上</li> <li>・長野県看護教員のキャリア別達成目標（教員版のキャリアラダー）について、日本看護協会や県立病院機構看護職のキャリアラダーを踏まえて、本校での運用について検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>ア別達成目標」を生かした教員全体の教育力向上－中堅期の研修へ2名が参加（課題）</li> <li>・専任教員の実習指導と学内授業との調整（実習指導教員の確保と生かし方）</li> <li>・基礎学力向上及び国家試験対策への指導力向上</li> <li>・シミュレーション教育充実のための研修会の実施</li> <li>・各実習施設での臨床実習実習指導者育成への働きかけ及び教員との情報交換・意見交換など</li> <li>・新任教員の教育力向上への支援、及び29年3月に提示された「長野県看護教員のキャリア別達成目標」を生かした教員全体の教育力向上</li> <li>・教務主任養成講習会受講への派遣</li> <li>・教員の養成－養成講習会への参加促進依頼</li> <li>・教員のキャリア形成の促進－大学・大学院への進学促進</li> </ul>
3	<p>ウ 学生募集及び学生確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲・目的意識の高い学生の確保に向け、一般入試に指定校などの推薦入試を組み合わせた選考を実施</li> <li>・ホームページなど各種の広告媒体でのPR、オープンキャンパスの開催など、県内及び木曾の隣接県への広報活動を実施</li> <li>・出願数増加につながる入学試験日程等について再検討</li> </ul>	木曾看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内（南信・中信・北信）及び木曾隣接地域（岐阜県）の高等学校訪問校64校、高等学校進路相談会参加11回（模擬授業含む）。</li> <li>・オープンキャンパスを2回（7月、10月）実施、述べ194人参加（付添者含む、昨年度より3人増）</li> <li>・推薦入学試験1回（11月）・一般入学試験2回（1月初旬、2月末）実施、昨年度より16%増の出願・受験があり31年度入学生26人を決定</li> <li>・オープンキャンパス参加者アンケート結果より、ホームページからの情報把握者の増加を確認</li> <li>・ホームページのブログで学生の活動状況を広報（年48回）（課題）</li> <li>・県内高等学校等への情報伝達の強化（学校訪問、高校進路相談会、地域進路ガイダンス、模擬授業、学校見学受入れ等）</li> </ul>
4	エ 学生の学習環境及び生活環境の整備・充	木	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立病院機構研修センターのシミュレーション教材を有効活用、借用2回（基礎看護学</li> </ul>

	<p>実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の運営に必要な、教材等の整備</li> <li>・学校及び学生宿舍周辺地域との調整等を行い、学生の生活を支援、地域との交流を促進</li> <li>・入学前学習から入学後の学習習慣のサポート</li> <li>・国家試験対策の推進、進学及び就職へのサポート</li> </ul>	<p>曾 看</p>	<p>教材フィジカルアセスメントモデル、母性看護学教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室は昨年に続き木曽郡町村会からの専門図書整備への継続的な支援を得て段階的に蔵書数を増加している（H31.3月末5,192冊—83冊増加）</li> <li>・図書係活動で学生による推薦図書の掲示や年間図書貸出しランキングと表彰、蔵書点検を実施</li> <li>・学生宿舍は27年度から2棟28戸の提供（経済力を考慮した選考による）を継続、地域行事にも参加</li> <li>・学校設置地区の文化祭(11月)への参加交流</li> <li>・近隣の林業大学校との交流；木曽町歓迎会、看護の日、学校祭への相互参加、交流事業を2回（林業大学校訪問1回、当校への招待1回）実施</li> <li>・地域の住民とともに手話の学習会に参加</li> <li>・3年生の国家試験対策として必修問題及び模擬試験に重点的に取り組み（必修対策ドリル1月～2月はほぼ連日、全国模試4回、朝テスト、個別相談・保護者との連携、学習指導、グループ学習指導、土曜日の学校開放等）</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段階的に具体的な教育方法に相応しい教材を整備</li> <li>・学生の余暇活動を支援する用具の整備</li> </ul>
5	<p>オ 卒業生と在学生との交流の場づくりとフォローアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデイをとおして卒業生の状況を把握、支援</li> <li>・卒業生と在学生や学校受験対象者との交流</li> <li>・同窓会活動等のサポート</li> </ul>	<p>木 曾 看</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデイの実施（6月）11人の卒業生が来校し教員と交流。</li> <li>・同窓会から、オープンキャンパス、3年生の国家試験対策、壮行会に卒業生を派遣依頼し、在校生支援や学生確保に協力をしてもらった。殊に、国家試験の支援は効果的であった。</li> <li>・就職先病院から参観日の招待があり、卒業生の就業状況、成長をみる事ができた。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会総会に向けて支援</li> </ul>

6	<p>カ 地元関係団体などとの連携・協力体制の構築など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議会（地元行政機関、地域住民などから構成される学校評議員が参加）を開催</li> <li>・地元行事への参加、地域の人々の教育活動への参画及び学校祭の開催</li> </ul>	木 曾 看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員を委嘱し、学校評議会を開催(7月)</li> <li>・校外授業(4月、5月、6月、9月)や地元行事等(9月、11月、2月)への参加により地元の方々と交流 (課題)</li> <li>・引き続き学校評議員等からの意見を収集</li> <li>・地域との交流を継続、拡大(授業、実習等との調整)</li> </ul>
7	<p>キ 組織的、継続的な学校運営及び教育活動の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価ガイドライン等に基づき、自己評価の仕組みを構築</li> <li>・学校評議会等をとおして意見を聞き、学校運営へ反映(再掲)</li> </ul>	木 曾 看	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員担当科目では適宜リアクションペーパー、アンケートにより学生の状況を把握して授業計画に反映</li> <li>・自己評価の準備として統一した評価項目の設定をした</li> <li>・年に3回のカリキュラムの評価会議を設け評価と課題の抽出を行った (課題)</li> <li>・自己評価の実施</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(4) 県内医療水準の向上への貢献

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

研修センターでは、大阪市立総合医療センター等の協力を得てシミュレーション教育指導スキルアップシリーズを開催したほか、感染症センターでは感染症専門医の育成や公開講座の実施により、県内医療従事者の技術水準の向上に寄与した。

信州大学医学部や信州木曾看護専門学校をはじめとする県内の医療関係教育機関からの要請に基づき、各病院から医師・看護師を派遣するとともに、各病院のもつ医療機能に応じ、職種ごとに実習生を積極的に受入れた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(4) 1	ア 県内医療従事者を対象とした研修の実施 ・医学教育学における国内外の専門家を幅広く招聘し、医学教育に関する講習会の開催 ・スキルラボガイドブックやホームページ等を活用した広報活動を積極的に行い、スキルラボ、シミュレーターの利用促進（研修	本部	A	・埼玉県立小児医療センター、大阪市立総合医療センター、信州大学医学部小児医学教室等の協力を得て、第5回長野小児救急セミナーを開催。長野県内外の医師、研修医が12人参加し、新生児、乳児、学童に対する重篤小児疾患の初期対応と3次医療機関への搬送基準についてシミュレーション教育を通して学んだ。 ・大阪市立総合医療センター及び、東京医科大学病院シミュレーションセンターの協力を得て、シミュレーション教育指導スキルアップシリーズ①～④を開催し、長野県内の

	<p>センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期研修医等を対象にしたシミュレーション研修を実施（研修センター）</li> </ul>			<p>14施設から延べ111人が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月に研修センターホームページのリニューアルを実施、レスポンシブデザインを導入し、閲覧者の端末に合わせた表示ができるように変更した。また、貸出可能なシミュレーターリスト及び借用申請書等も、リニューアルし掲載した。</li> <li>・信州医療センター1年目初期研修医を対象に、シミュレーション研修を13回実施し、延べ28人が参加した。また、アンケート内容等から、研修プログラムの再構築を行った。</li> <li>・参照（p.64-No.26）</li> </ul>
2	<p>信州医療センターでは感染症センターによる以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成</li> <li>・医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修</li> <li>・医療機関内で結核のケアに従事する看護師の短期研修</li> <li>・感染症に関する知識を広めるため、研修会や公開講座の実施</li> <li>・感染症対策関係閣僚会議が作成した薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの実現に向け、教育分野や感染予防・管理分野等の医療機関に向けた情報発信</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症センターにより以下の取組を行った。</li> </ul> <p>日本感染症学会認定施設として感染症専門医を育成</p> <p>医療機関内で感染制御に関わる薬剤師の短期研修開始に向けた準備</p> <p>医療機関内で結核のケアに従事する看護師の短期研修の実施（平成31年3月4日・5日）</p> <p>感染症に関する知識を広めるため、研修会や公開講座の実施</p> <p>ケアに活かす胸部画像読影術（8月25日）</p> <p>第2回北信HIVセミナー「大都会におけるHIV～性感染症の現状～」（11月5日）</p> <p>感染症対策関係閣僚会議が作成した薬剤耐性（AMR）対策アクションプランの実現に向け、教育分野や感染予防・管理分野等の医療機関に向けた情報発信</p>
3	<p>こころの医療センター駒ヶ根の精神科認定看護師は、薬物・アルコール依存症及び精神科薬物療法に関し、院内研修会や院外の出前講座等を行い医療の質の向上</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人の認定看護師が看護師養成学校等で講義を行い、外部からの講師依頼により講演会を行った。</li> </ul> <p>看護師養成学校 信州木曾看護専門学校、須坂看護専門学校、岡谷市看護専門学校、飯田女子短期大学へ4人を派遣</p>

				<p>外部講演 依存症、認知症、精神疾患をテーマに3人を派遣</p> <p>病院見学 見学に来た団体に対し、依存症、児童精神をテーマに2人が講演を行った。</p>												
4	<p>こども病院では、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関からのリハビリテーションスタッフ研修生の受け入れ（再掲）</li> <li>・信州大学小児医学講座、信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、こころの医療センター駒ヶ根と共同し、医師や臨床心理技術者、作業療法士などを県内10圏域ごとに行われる研修会や事例検討会などに派遣（再掲）</li> <li>・エコーセンターでは、超音波専門技師養成研修を実施して県内の超音波専門技師育成</li> <li>・研修センターと協同で、実地研修セミナーを開催して胎児診断及び超音波診断の教育と普及</li> </ul>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.63-No.23）</li> <li>・参照（p.64-No.24）</li> <li>・院内のフェロー、研修医、臨床検査技師向けに超音波シミュレーターを用いた研修を含む実地研修を実施した。</li> <li>・院外の医師3名（海外からの研修1名を含む）、超音波検査士（臨床検査技師）1名に超音波機器の取り扱い、解析方法を指導した。</li> <li>・信州大学医学部保健学科臨地実習生21名に超音波シミュレーターを用いた指導を実施した。</li> </ul>												
5	<p>イ 医療関係教育機関などへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内医療関係教育機関等での教育を担うため職員を派遣する。また、実習生を積極的に受け入れる。</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学、杏林大学、自治医科大学医学部臨床クラークシップ実習として、年間24人の医学生を受け入れた。</li> <li>・須坂看護専門学校へ医師、看護師、医療技術職員を講師として派遣している。</li> <li>・各科で以下の実習生を受け入れた。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>看護部</td> <td>須坂看護専門学校</td> <td>148人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>上尾看護専門学校（通信課程）</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション技術科</td> <td>信州大学</td> <td>理学療法士 1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>作業療法士 1人</td> </tr> </table>	看護部	須坂看護専門学校	148人		上尾看護専門学校（通信課程）	5人	リハビリテーション技術科	信州大学	理学療法士 1人			作業療法士 1人
看護部	須坂看護専門学校	148人														
	上尾看護専門学校（通信課程）	5人														
リハビリテーション技術科	信州大学	理学療法士 1人														
		作業療法士 1人														

				長野医療技術専門学校 理学療法士 2人 作業療法士 1人 放射線技術科 鈴鹿医療科学大学 1人 栄養科 高崎健康福祉大学 1人 北里大学保健衛生専門学院 1人
6	同上	駒ヶ根	A	<b>【講師派遣】</b> 信州大学医学部 医師 1人 信州木曾看護専門学校 医師 4人 看護師 4人 長野県看護大学 看護師 1人 須坂看護専門学校 看護師 2人 上伊那医師会附属准看護学院 看護師 2人 岡谷市看護専門学校 看護師 1人 飯田女子短期大学 看護師 1人 <b>【実習生受入】</b> ・診療部 信州大学医学部医学科 8人 ・看護部 長野県看護大学 44人 須坂看護専門学校 41人 信州木曾看護専門学校 23人 上伊那医師会附属准看護学院 20人 ・リハビリテーション科 信州大学医学部保健学科 2人 長野医療技術専門学校 1人 ・地域連携室 東京福祉大学 心理学科 1人 長野大学社会福祉学部 1人
7	同上	阿南	A	(業務の実績) ・信州木曾看護専門学校へ「総合医療論II」「疾病と治療論IV」「地域看護」の講師として

			<p>3人（7単位）派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南高校福祉コースへの講師派遣については、病院から「こころとからだの理解」16回（32時間）、老健から「生活支援技術」として22回（44時間）派遣した。</li> <li>・また、実習生、体験学習については以下のとおり積極的に受け入れた。</li> </ul> <p>飯田女子短期大学 「看護基礎Ⅰ」 5日 1年生9人 「看護基礎Ⅱ」10日間 2年生8名</p> <p>阿南第一中学校 職場体験 1人 2日間</p> <p>泰阜中学校 職場体験 2人 3日間</p> <p>下條中学校 職場体験 2人 2日間</p> <p>阿南第二中学校 9人 見学2時間</p> <p>阿南高校 2人 1日間</p> <p>飯田女子高校 1人 1日間</p> <p>信州木曾看護専門学校 5人 1日間 5回</p> <p>信州リハビリテーション専門学校他 3人 約6ヶ月</p>
8	同上	木曾	<p>A</p> <p><b>【講師派遣】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州木曾看護専門学校へ非常勤講師として延べ123人派遣した。</li> </ul> <p><b>【実習生受入】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護部で5月から2月にかけて139日間実習生を受け入れた（信州木曾看護専門学校・中京学院大学）</li> <li>・リハビリテーション技術科で6人、栄養科で1人、学生実習を受け入れた。</li> </ul>
9	同上	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県看護大学、信州大学医学部医学科・保健学科、佐久大学、松本短期大学、信州木曾看護専門学校、岡谷看護専門学校等に小児、産科講義の講師として職員を派遣した。</li> <li>・信州大学医学部保健学科及び長野県看護大学の実習生を積極的に受け入れた。</li> <li>・小児科専攻医を、研修のためこころの医療センター駒ヶ根に派遣した。</li> <li>・信州大学医学部子どものこころの発達医学教室の研修コース受講生の陪席時実習を受</li> </ul>

				け入れた。
10	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州木曾看護専門学校へは5病院から延べ9職種54名の職員を非常勤講師として派遣</li> <li>・この他、須坂看護専門学校、県看護大学等県内養成機関へ病院職員を派遣</li> <li>・実習生に関しても看護学校生のほか、医療技術系の学生も積極的に受入れ</li> </ul>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

(5) 医療に関する研究及び調査の推進

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

国・大学などと連携し、臨床研究や基礎研究を推進するとともに、各病院の持つ機能を活かした治験（新薬の臨床試験等）を実施し、県内医療水準の向上に貢献した。

公開講座や出前講座をはじめ、ホームページや各種メディアを通じて、各病院で行った調査研究の成果を、積極的に情報発信し県民の健康増進に貢献した。

また、こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院は、信州大学との協定に基づく連携大学院教育により、臨床業務に携わりながら研究活動を進め医学博士取得を目指す医師を養成している。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 3(5) 1	ア 研究機能の向上 ・大学などと連携し、医療に関する共同研究	信州	A	・浅野直子遺伝子検査科部長 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）研究委託費 「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の新規難治性病型に対する治療研究」

	等へ積極的に参加し、医療水準の向上を図る。			
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県看護大学修士課程（専門看護師課程）において、事例研究をまとめ発表した。</li> <li>・当院の作業療法士が信州大学修士課程において、臨床研究を実施している。</li> </ul>
3	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科医師が、信州大学と共同研究中である。</li> </ul>
4	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学医学部小児医学教室や新生児・療育学講座、遺伝医学教室などと連携し、共同研究体制を構築した。</li> <li>・平成31年度からの連携大学院での研究に向けて、信州大学医学部との連携体制を構築した。</li> </ul>
5	<p>信州医療センターでは、感染症センターによって以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・難治性感染症の治療法の確立に向けた全国多施設共同研究に参加</li> <li>・遺伝子解析装置を用いて病原体の診断や耐性検査する体制（人員体制を含む）を整備し、院内や他医療機関へ情報を提供</li> <li>・抗酸菌、特にマック菌の病態を研究解析し、新規治療法の開発</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症センターによる以下の取組に向けた準備を行った。</li> <li>難治性感染症の治療法の確立に向けた全国多施設共同研究への参加</li> <li>遺伝子解析装置を用いて病原体の診断や耐性検査する体制（人員体制を含む）を整備し、院内や他医療機関への情報提供</li> <li>抗酸菌、特にマック菌の病態を研究解析し新規治療法を開発</li> </ul>
6	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、信州大学との連携大学院教育により、医学博士取得を目指す医師を養成（再掲）</p> <p>精神科研修・研究センターにより、信州大学及び県看護大学との連携の強化、各種研修</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州大学との協定により平成29年度に開始した連携大学院教育は、医師1人が臨床業務に携わりながら研究活動を進め、学位の取得を目指している。また、平成31年4月から1人採用を予定している。</li> <li>・信州大学大学院と連携し、統合失調症を対象とする作業療法の研究協力を開始した。</li> <li>・新専門医制度の基幹施設として全国の初期研修医に対し募集を行い、平成31年度入職</li> </ul>

	のカリキュラムを検討（再掲）			の医師1人の採用を決定した。
7	こども病院では、厚生労働省科学研究費や文部科学省科学研究費などの積極的な活用、臨床や遺伝解析などの基礎研究の取組を推進、信州大学との連携大学院開校準備	こども	A	・日本医療研究開発機構（AMED）研究費委託事業2件を受託し、小児医療に関する研究に参加した。
8	イ 医療に関する臨床研究への参加 ・治験については、審査委員会の設置による適正かつ安全な実施環境を整備、各県立病院の状況に応じて積極的に実施	信州	A	・新たな治験を2件（循環器内科：非弁膜症性脂肪細動、呼吸器・感染症内科：肺炎球菌ワクチン）を開始した。非弁膜症性心房細動は、症例を追加し継続している。
9	同上	木曾	A	・製造販売後調査について、製薬メーカーへ報告を行った。
10	同上	こども	A	・治験管理室の業務として、小児治験ネットワークを介した多施設共同治験へ参加している。今年度実施していた治験が1件終了した。 ・治験支援機関である（株）エシックとの間でCRC業務等の委託契約を締結しており、治験事務局と連携しながら業務を行った。
11	ウ 地域への情報発信による健康増進への取組 県民の健康増進に寄与するため、県立病院で行った研究や調査の成果を、ホームページ、学会、地域の懇談会、講演会、公開講座及び出前講座により公表	信州	A	・10月20日 第17回病院祭を開催した。（参加者約 1,500人） 以下の公開講座を開催した。 9月9日第1回市民公開講座 共催：須高医師会 後援：須坂市、小布施、高山村 テーマ「増えつつある大腸がんの検査と治療について」 須坂市メセナ小ホール 内視鏡センター長赤松泰次医師 第2外科部長古澤徳彦医師（参加者175人） ・出前講座を53 回開催3,188人が聴講した。（29年度 78件 3,718人） 主なテーマは以下のとおり ▽筋力を低下させないために▽接触嚥下障害について▽高齢者の呼吸器疾患▽肺炎について▽結核について▽感染対策について▽一次救命処置▽家庭でできる応急手当（小児）▽高齢者の食生活について▽オムツ（スキントラブル）交換について▽糖尿病

				<p>の食事療法について▽性教育について▽大腸がんについて▽クローン病について▽めざせ！ピンピンコロリ▽家庭でできる褥瘡予防と初期対応について▽健康に役立つ漢方の知識▽発達障害について▽治療食調理実習▽正しい薬の飲み方 食事と薬▽健康に過ごすための食生活について▽エピペン使用方法▽変形性股関節症のリハビリについて▽事故防止KYT研修▽中・高生と赤ちゃんのふれあい▽訪問看護のお話▽認知症のお話▽看護のしごと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療に関する職員の学術研究や講演会活動実績をホームページにて公開している</li> <li>・マスメディアを利用した病院広報・PRにより健康に関する関心を高め、地域の健康増進に寄与した。</li> <li>・新聞掲載 信濃毎日新聞 4回（産後うつ、運営協議会） 須坂新聞 18回（個室増床、働き方改革、病院祭等）</li> <li>・テレビ出演 テレビ信州 「奥さまはホームドクター」 4回（痛み、リビングウィル等） 須高ケーブルテレビ 「STV ニュースウォーカー」 5回（産科病棟リニューアル等）</li> <li>・ラジオ出演 信越放送 「こんにちはドクター」 5回（子宮内膜症、高齢者の肺結核等）</li> </ul>
12	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座 「不安定な愛着をもつ親と子どもの支え方」2月開催 参加者100人</li> <li>・出前講座 うつストレスケア 7回 417人 精神疾患について 3回 200人</li> </ul>

				<p>アルコール依存症 4回 133人  認知症（メニュー外） 2回 87人  SST（メニュー外） 1回 5人  合計 17回 842人</p> <p>・新聞掲載  信濃毎日新聞 2回（公共建築賞）  長野日報 3回（公共建築賞、公開講座）  医療タイムス 5回（公開講座、精神科薬剤師研修等）  月刊かみいな 10回（5月より月1回掲載 児童精神、依存症、認知症）</p>
13	同上	阿南	A	<p>・病院祭の開催に併せて長野県立病院機構 統括産業医 鳥海 宏氏を講師に迎え、公開講座を実施した。</p>
14	同上	木曾	A	<p>・病院スタッフが講師となり、治療、運動、薬物療法、検査、日常生活、食事会と幅広い内容の糖尿病教室を7月から12月にかけて計6回開催し、延べ78人の参加者があった。そのうち7月は地域住民も対象とした糖尿病に関する一般公開講座（病院機構第2回公開講座）を行い、住民の健康に対する意識向上を図った（参加者18人）</p> <p>・病院祭に併せて、認知症に関する一般公開講座を開催し、60人の参加があった。</p>
15	同上	こども	A	<p>・公開講座の開催案内のホームページへの掲載。  9月8日「アレルギー対応食クッキング」栄養科：信毎メディアガーデン  11月11日「口唇裂・口蓋裂のはなし」口唇口蓋裂センター  ：こころの医療センター駒ヶ根  11月25日「ワクチンの安全性と効果を考える」予防接種センター：こども病院</p> <p>・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績についてこども病院のホームページで公開している。</p> <p>（課 題）</p> <p>・ホームページ更新作業者の複数化。</p>

## 第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

### 4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

#### (1) より安全で信頼できる医療の提供

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院の医療安全管理者による相互点検や共通のチェックシートを活用した自己点検を実施し、医療安全の質の向上につなげた。

また、機構独自の研修会や県との共催による管理者研修会、多職種を対象としたシミュレーション研修を開催し、職員の質の向上を図った。

各病院において、引き続きクリニカルパスの適用を進め、また、セカンドオピニオンについては、利用者の希望に基づき適切に対応した。

各病院では、あいさつ運動の実施や接遇研修会の開催を通して、患者対応力の一層の向上を図った。

県の個人情報保護条例及び情報公開条例に基づき適切な情報管理を行うとともに、情報セキュリティに関する知識の習得等を図るための研修会を開催し、後日ナーシングスキルに動画と資料を掲載し周知を徹底した。

医療機器の購入要望に対しては、各病院の医療機器購入検討委員会や幹部のヒアリングにより、先送りや凍結も含め精査し、さらに、購入時期に合わせ、各病院の医療技術部長らで構成する医療器械等審査部会を開催する等、効率的な購入に努めた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	
				取組結果及び取組の効果

第1 4(1) 1	ア 医療安全対策の推進 県立5病院の医療安全の標準化と質の向上を図るため、以下の取組を行う。 (ア) 医療安全対策 ・医療安全への取組状況を医療安全管理者が互いに実地確認し合う医療安全相互点検を実施	信州	A	・8月に南3階病棟と、リハビリテーション科の相互点検を行った。南3階病棟は非常口、消火器の前にベッドと床頭台が置かれていた事と、災害時のヘルメットと非常持ち出し袋の保管場所の指摘があった。リハビリテーション科はヘルメットの数の指摘があり災害に関する用具の整理整頓の再確認を行った。
2	同上	駒ヶ根	A	・12月にA1・B1病棟の相互点検を実施し、改善事項に速やかに対応した。 ・医療安全カンファレンスを週1回実施した。
3	同上	阿南	A	10月薬剤科・4病棟の相互点検を実施。指摘事項より薬剤科は、室内の整理整頓、患者限定薬の保管場所の変更、ヘルメットの保管場所をとりやすい場所に変更した。4病棟は避難器具がすぐに取り出せるように倉庫内の物品の配置の変更、入浴日の患者待機場所について検討を行い患者の移動はできるだけ入浴直前とした。 外来・リハビリ科の再点検項目においても改善が認められた。
4	同上	木曾	A	・11月に放射線技術科、木曾介護老人保健施設の相互点検を実施したほか、再点検として検査室・3南を実施した。 ・避難経路や避難器具の保管場所を分かりやすく表示する、障害物の撤去等の改善を行った。 ・避難経路や保管場所を分かりやすく表示、防火扉前の荷物の撤去等の改善を行った。
5	同上	こども	A	・1月11日に検査科及び5病棟の相互点検を実施した。平成29年度の再点検として南外来の出入り口のモニター等の状況確認と避難経路の掲示状況確認を行った。相互点検に関しては、検査については避難経路の現在地が明記されておらずわかりにくい状況であったので現在地を明記した。5病棟については廊下にPCを置いたままの状況になっており、保管場所の検討を行っている。

6	同上	本部	A	・10月に木曽病院、11月に阿南病院、12月にこころの医療センター駒ヶ根、1月にこども病院を「危機管理体制」をテーマに実施した。相互点検を継続して実施することにより、医療安全に対する質の向上を図ることができている。
7	・県立5病院共通の医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を実施、課題の把握を行い、改善策の立案や体制の整備	信州	A	・医療安全チェックシートを活用した院内自己点検を10月から12月にかけて各部署の医療安全委員会を中心に実施し、医療安全管理者が総合評価を行い課題の抽出をおこなった。危機管理の対応などの項目で評価が低く今後の課題が明らかになった。
8	同上	駒ヶ根	A	・自己点検シートを使用し各セクション長、リスク部員で自部署の課題の把握に努めた。その結果をリスク部会で報告し、共有化を図った。
9	同上	阿南	A	・シートを利用した自己点検を各部署のリスクマネージャーと共に行った。危機管理面での課題が明確となり、特に時間外、休日の院内への入退者の管理についてさらに改善していく。
10	同上	木曽	A	・全部署において、リスクマネージャーを中心に自己点検を実施し、点検結果において防犯対策等達成度の低かった項目に対し、部会で課題の確認を行うことで各部署における安全に対する意識付け等を行うことができた。 ・防犯対策として、休日夜間出入口の制限等、入退館の管理を徹底した。
11	同上	こども	A	・全部署において各部署のセフティ・マネージャーにより、医療安全チェックシートによる自己点検を実施してもらっている。 ・達成率は殆どの項目で100%となってきている。大規模災害対応に関する職員の訓練については、今後実施していく予定である。
12	同上	本部	A	・多くの職員を巻き込んで実施することで、医療安全に対する認識のずれ等の把握ができ、その問題点に医療安全管理者が介入し点検を続けることで、認識の統一・改善につなげていくことができている。
13	・病院機構職員を対象とした医療安全研修会の開催	信州	A	・2月14日に開催された県医療安全管理研修に1名参加した。

	・全県の医療関係者も対象とした医療安全管理研修会の開催			
14	同上	駒ヶ根	A	<p>・7月7日に開催された県立病院機構の医療安全研修会「よりよいコミュニケーションを職場で実践するために」に5人参加し、職場におけるコミュニケーションの基本を多職種で学ぶことができた。</p> <p>・2月14日に開催された県医療安全管理研修会「裁判事例に学ぶ 説明と記録の重要性～コミュニケーションの観点から～」に4人が参加した。</p>
15	同上	阿南	A	<p>・2019年2月14日開催された県医療安全研修会「裁判事例に学ぶ説明と記録の重要性～コミュニケーションの観点から～」に5名参加した。</p>
16	同上	木曾	A	<p>・2月14日に開催された県医療安全管理研修会「医療安全ワークショップ」に3名参加した。</p>
17	同上	こども	A	<p>・2月14日に開催された県医療安全管理研修会「裁判事例に学ぶ説明と記録の重要性～コミュニケーションの観点から～」に7人参加した。</p>
18	同上	本部	A	<p>・計画通りに研修会を実施し、多職種間でのコミュニケーションについて考えることができた。研修に参加できなかった病院や職員に対して、ビデオ等の鑑賞等によるフォローアップができるよう検討をしていくことが必要。</p> <p>・2月14日（木）「裁判事例に学ぶ説明と記録の重要性～コミュニケーションの観点から～」をテーマに開催。インフルエンザ蔓延時期に開催したため、参加人数が例年より少なかったが、参加者からは好評であった。来年度は秋頃開催できるよう県担当者と検討していく。</p>
19	・各県立病院において、職員の資質向上を図るための研修を実施	信州	A	<p>・以下の院内医療安全研修会を開催し、のべ798人が参加した。</p> <p>6月「医療安全管理の概要」(PC鑑賞) 参加者412名(5日間)</p> <p>7月「転倒、転落に関する調査報告」</p> <p>「医療の安全のための薬品管理について」参加者55名</p>

				8月「MRI検査の注意点と造影剤副作用発生時の対応について」 「医療ガスの安全な取り扱い」参加者68名 3月「安全な経管栄養法」 「医療機器の取り扱いについて」(PC鑑賞)参加者263名
20	同上	駒ヶ根	A	・1月に「ヒューマンファクターについて」をテーマに院内医療安全研修会を開催し、委託業者職員も含め、179人が参加した。参加した委託業者職員からも意見が出され、職種を問わず意見を言える職場づくりに貢献できた。
21	同上	阿南	A	・12月15日院内において研修センター協力のもと「コミュニケーションエラーを回避するためのシミュレーション研修」を開催し39名が参加した。
22	同上	木曾	A	・院内研修として医療安全研修会（BLS）」を年3回実施した。 ・1月24日に研修センターの協力のもと医療安全シミュレーション研修会を実施した。 (参加者70名)
23	同上	こども	A	・7月7日に開催された医療安全研修会「よりよいコミュニケーションを職場で実践するために～スキルとして「訊き方」「伝え方」を振り返る～」に11人参加した。 ・院内においては「シミュレーション研修として「医療訴訟を回避するための予防策について」に110人、「クレーム対応時、暴言・暴力をどう回避するか」35人が参加、他8テーマの研修開催し職員の質向上が図れた。
24	同上	本部	A	・県立5病院と連携し、職員の接遇の向上を図るため、接遇研修を開催し、212人が参加した。
25	・医療安全への知識・認識の標準化を図るためシミュレーション研修を多職種で実施	本部	A	・多職種を対象とした医療安全シミュレーション研修を、県立病院等にて開催した。 阿南病院 12月5日 39人 県立総合リハビリテーションセンター 12月21日 69人 木曾病院 1月24日 70人 こども病院 2月20日 32人 こころの医療センター駒ヶ根 3月6日 30人

26	・研修受講履歴を把握できる個人カードを作成し、職員の医療安全研修の受講促進	本部	A	・名刺サイズの研修履歴カードを使用し、受講履歴を管理することができた。
27	・医療安全研修にテレビ会議システムを活用	阿南	A	・6月薬剤安全管理研修会（DVD研修を含む）7回開催。7月放射線・医療機器安全管理研修会（DVD研修を含む）7回開催。10月KYT研修会を開催。医療安全に関する知識の習得、資質の向上を図った。
28	同上	木曾	A	・情報セキュリティ研修のDVD研修を4回実施し、情報セキュリティに関する知識の向上が図られた。
29	同上	こども	A	・平成29年度と同様に12月にDVD研修会「医療安全の基本」（昨年度と違う内容のもの）実施し、計315人が参加した。多くの職員が基礎知識を学んだ。
30	・医療安全に関する知識の習得及び資質の向上を図るため、先進的な取組を行う病院を視察	本部	A	・視察は実施していないが、他施設での先進的な取り組みについて学ぶことは大切なため、今後も情報共有をしながら、先進的な取り組みを行っている施設があれば見学や情報収集を行っていく。
31	(イ) 感染対策 ・各県立病院において、感染症発生時を想定した院内及び関係機関などとの間で伝達訓練などを実施	信州	A	・訓練等を行い、第一種・第二種感染症指定医療機関及び県の政策医療としての結核患者の受入体制と、新型インフルエンザなどの感染症の集団発生等に適切な対応ができる体制を維持した。 ・院内感染症対応マニュアルは、職員に配布するとともに電子カルテ上でも参照を可能としている。 ・長野県との情報伝達訓練は毎年1回実施している。 ・日常業務の中で、感染症発生時の伝達方法について、適宜確認を行っている。
32	同上	駒ヶ根	A	・毎月1回、全セクションのラウンドを行い、院内の感染防止に関する問題点の改善を試みた。継続的なラウンドの実施とともに各部署への助言を行ったことにより、その都度出てくる問題点の解決と感染防止のための環境整備に対する職員の意識向上が見られるという成果が出た。 ・院内感染対策マニュアルは随時見直し、必要に応じて保健所に助言を求め改訂を行っ

				た。また、同時にチーム会において緊急連絡先等の確認を行ったことにより、感染防止だけでなく感染発生時の対応について職員の理解に繋がることができた。
33	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗菌薬適性使用のマニュアルを作成した。</li> <li>・新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画を作成した。</li> </ul>
34	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策のより一層の推進と院内感染防止の徹底を図るため、「院内感染対策マニュアル」を改訂した（年1回）。また、院内感染対策研修会を年2回実施した。</li> <li>・阿南病院と感染対策に係るカンファレンスを年4回実施した。</li> </ul>
35	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活動により院内感染情報を速やかに把握し、情報収集及び共有し、チームメンバーや関係部署と協力して対応した。</li> <li>・冬のアウトブレイク時にも、速やかな介入・改善活動により、院内感染を可及的速やかに終息した。</li> </ul>
36	・県内唯一の日本環境感染学会認定教育施設としての実績を活かし、「北信ICT連絡協議会」の運営に参加（信州医療センター）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北信地域で抗菌薬使用量と耐性率に関するサーベイランス活動、合同カンファレンス及び相互ラウンドなどによって感染防止技術・対策の向上に貢献した。</li> <li>・山崎善隆感染症センター長が北信ICT連絡協議会代表理事を務め、年2回（8月、12月）、講演会と合同カンファレンスを開催した。</li> </ul>
37	・感染防止地域連携病院との相互視察を実施（信州医療センター、木曾病院、こども病院）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携加算で連携している長野赤十字病院、長野市民病院等のラウンドを受け、指摘された事項については速やかな改善がなされた。</li> </ul>
38	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども病院との相互視察を互いに1回ずつ実施した。</li> </ul>
39	同上	こども	A	<p>感染防止地域連携加算で連携している木曾病院・信州大学医学部附属病院と、それぞれICTメンバーが相互視察を実施した。</p> <p>視察に於いて指摘された以下の事項に関する改善活動を実践した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児病棟の耐性菌隔離方法の改善。</li> <li>・病棟の物品配置の改善（第2病棟）。</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術室内の環境整備 物品整頓。</li> </ul>
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染管理認定看護師は、医療関連感染サーベイランスを行い、院内の感染発生状況を把握し必要な感染対策を提案・実施、基本を周知するため研修会を開催（信州医療センター、こども病院）</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染管理認定看護師は、感染制御部、院内感染対策委員会の一員として院内のみならず院外においても感染防止対策の中心的な役割を果たしている。</li> <li>・サーベイランス 日本環境感染学会（JHAI S）が行っている中心静脈血流感染サーベイランス、尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランスに参加し、全国のデータと比較し対策を検討した。</li> <li>・地域医療機関、介護施設等からのコンサルテーションを行った。</li> <li>・中島恵利子感染管理認定看護師による感染症の知識普及のための介護施設等への講演会活動</li> <li>・その他院内外での活動例 院内環境ラウンド、全職員対象の研修会、マニュアルの改訂を実施 看護部のリンクナース部会で感染予防の標準化、環境改善、研修を実施</li> </ul>
41	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種サーベイランス活動を実践し、この結果を盛り込んで年2回の職員研修会を実践した。研修会を複数回実施し、さらに画像講義配信をすることにより、医療職は99%に参加率となった。事務職や委託職員の参加率も合わせて上げることが次年度の課題である。</li> </ul>
42	<p>イ 患者中心の医療の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立病院への来院者が気持ちよく病院を利用できるよう、利用者へのあいさつ運動を継続的に実施するなど、患者対応力の向上を図る。</li> <li>・また、患者サービスの一層の向上や職員の資質向上を図るための接遇研修会を実施する。</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間接遇標語である「挨拶と笑顔でつなぐ心の和」を院内全体に掲示し周知を図った。</li> <li>・職員接遇研修会 11月15日（木）16:30～ 講師：(株)インソース 青木理子先生（参加者44人）</li> <li>・7～3月第2週の月～金曜日に、サービス向上委員会を中心に1日3～4名であいさつ運動を実施した。（年間45日） ※あいさつ運動：患者さんやご家族に声掛けすることで安心感を与えるとともに、職員にあいさつを促す</li> <li>・接遇のロールプレイ研修会 9月20日（木）17:30～（参加者42人） 発表部署：放射線技術科、南7階病棟、栄養科</li> </ul>

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・いいところ探し：各部署の「いいところ」を他部署が推薦。病院祭の出展ブースで発表し来場者が良い事例に投票 推薦件数16事例 投票により3事例を表彰</li> <li>・患者満足度調査を実施し患者対応力の向上を図った。 10月22日（月）から外来及び入院患者アンケートを配布・回収 調査報告会 令和元年度当初予定</li> <li>・職員マナーブックの全面改訂 H26年度以来。病院名を始め、現状に即した内容に大幅に改訂 見直しにあたっては職員に広く周知しアイデアを募集</li> </ul>
43	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス向上委員会で毎月標語を作成し、電子カルテ及び院内に掲示し啓発活動を行った。</li> <li>・「あいさつ運動」強化週間を、6月と2月に各セクションごとに実施し、意識の向上を図った。</li> <li>・院内の環境整備のため、掲示物の点検を8月と2月に実施し、不備な点はその場で改善した。</li> <li>・11月7日に接遇研修会を実施し、41人の参加があった。</li> <li>・本部研修センター接遇研修への参加を促し40人が参加した。過去3年間で最高人数で、3年間では70%の参加率となった。</li> </ul>
44	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2ヶ月毎にテーマを決め、そのテーマに掲げて、患者への対応を実施した。</li> <li>・11月18日に外部講師を招き、接遇研修会を実施した。（参加者30名）</li> </ul>
45	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス向上委員会で「接遇標語」を作成し、院内各所に掲示し周知を行った（2ヶ月に1回）</li> <li>・接遇の改善を図るための身だしなみチェックを行った。</li> <li>・5月及び10月に、守る会の協力をいただき、プランターに花の苗を植え、入り口や中庭に配置した。</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に接遇研修を行い、76人の参加があった。</li> <li>・入院患者、来院中の外来患者を対象に、職員による七夕コンサート（7月）、もみじコンサート（10月）、クリスマスコンサート（12月）を開催した。</li> <li>・3月に中央ホールへひな人形の飾りつけを行った。</li> </ul>												
46	同上	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動週間のあいさつ運動を実施（職員対象）</li> <li>・接遇月間 8月と1月を接遇月間として取り組んだ。部署ごとにスローガンを作成し、取り組みの評価を実施した。スローガン作成にあたって、あいさつレンジャーバッチを活用することを目標にあげ、作成してもらった。そのため取り組み評価として、あいさつレンジャーバッチの活用について評価を実施した。評価内容としては、あいさつレンジャーバッチをつけることで意識してあいさつできたという意見が多かった。あいさつレンジャーバッチは、接遇の取り組みにおいて有効だった。</li> <li>・あいさつ新聞 接遇月間の取り組みやあいさつ運動の様子を掲載し、職員にアピールできた</li> <li>・接遇研修 ・10月23日「取材から見えたこども病院」 講師：MGプレス常務取締役 井上裕子 参加者35名 ・11月20日「接遇研修」機構本部主催研修 講師：(株)インソース 参加者：26名 研修内容的には、大変興味のある内容だったが、周知方法や研修時間などの工夫が必要であり、研修参加を増やすためにも、来年度は検討が必要である。</li> </ul>												
47	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組を進める。</p>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の適用を引き続き進めた。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>30年度実績</th> <th>29年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者延人数</td> <td>5,201人</td> <td>5,321人</td> </tr> <tr> <td>パス適用患者延人数</td> <td>1,610人</td> <td>1,724人</td> </tr> <tr> <td>パス適用率</td> <td>31.0%</td> <td>32.4%</td> </tr> </tbody> </table>	内容	30年度実績	29年度実績	患者延人数	5,201人	5,321人	パス適用患者延人数	1,610人	1,724人	パス適用率	31.0%	32.4%
内容	30年度実績	29年度実績													
患者延人数	5,201人	5,321人													
パス適用患者延人数	1,610人	1,724人													
パス適用率	31.0%	32.4%													

	<p>(ア) 信州医療センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した日程表）の適用推進</li> <li>・介護福祉士、看護補助者職員等を活用し日常生活支援を実施</li> <li>・地域医療福祉連携室に社会福祉士を取得している福祉相談員の配置</li> <li>・入退院センターの設置に向けた準備（再掲）</li> <li>・地域包括ケア病棟を3床増床（再掲）</li> <li>・入院患者に対し休日に提供している理学療法、作業療法及び言語聴覚療法を継続（再掲）</li> <li>・産科病棟利用者の満足度を向上させるため、一部個室化の検討などアメニティ向上</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士が夜勤を開始するとともに、時差勤務による食事提供サービス等の日常生活支援を行っている。</li> <li>・地域医療福祉連携室に社会福祉士を取得している福祉相談員を4人配置している。</li> <li>・地域医療福祉連携室の医療相談によるセカンドオピニオン外来の利用はなかった。</li> </ul>
48	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組を進める。</p> <p>(イ) こころの医療センター駒ヶ根</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クオリティマネジメント委員会において、病院機能維持及び医療の質の向上</li> </ul>	駒ヶ根	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に更新した電子カルテシステムにおいて、精神科に特化したクリニカルパスの機能があり、継続したクリニカルパスの適用を引き続き進めている。</li> <li>・セカンドオピニオンについて実績はなかった。今後も現在の体制を維持していく。</li> <li>・QM委員会で今年度の内部監査重点項目を挙げ、内部監査5班で9項目の内部監査を実施し、現状把握と課題を明確にした。</li> <li>・内部監査員を対象に医療の質を評価し、改善するために必要な知識やスキルを習得するための研修会を実施するとともに、ケアプロセス調査※を年2回実施し、チーム医療についての再確認を行った。</li> </ul> <p>※ケアプロセス調査</p> <p>入院から退院までの診療・看護を提供する過程において、診療と看護間、その他チーム</p>

				との間における業務の伝達プロセスや、チーム医療の実態調査のことで、入院から退院までの一連の関わりを評価するもの。
49	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組を進める。</p> <p>(ウ) 阿南病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤医師による当直・救急応援、内視鏡検査、呼吸器内科・外科・整形外科・精神科・泌尿器科及び婦人科の外来診療の継続による診療体制の充実</li> <li>・施設入所者等の短期検査入院の積極的な受け入れ</li> <li>・クリニカルパスの見直しや新規策定、患者が理解しやすい治療計画の作成・説明</li> <li>・職員が認知症を正しく理解し高齢者に優しい病院・地域づくり実践のため、職員認知症サポーター研修の継続実施</li> </ul>	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外科等を中心に他病院から非常勤医師の当直、救急応援を受け、診療体制の充実を図った。</li> <li>・現在の当院の患者動向や医療の専門性を考慮すれば、本格的なセカンドオピニオン外来の受入の必要性は低いので、当面は紹介に関する情報提供を行っていく。</li> <li>・看護必要度評価加算について、毎月算定の可否を判断しこまめに届出を行い、できる限り算定した。</li> <li>・医局会や経営企画会議において周知し、施設入所者等の短期検査入院を積極的に受け入れた。</li> <li>・院外処方箋は発行率80%程度を維持し、医薬分業体制の継続を図り、院内においては入院患者に対する薬剤管理指導等を実施し、薬物療法の有効性及び安全の向上を図った。</li> <li>・参照（p.17-No.3）</li> </ul>
50	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組を進める。</p> <p>(エ) 木曽病院</p>	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年3月に地域包括ケア病棟を開設し、許可病床・稼働病床を見直したことから、新しい病棟編成で現行のクリニカルパスが使用できるか、評価を実施した。</li> <li>・参照（p.42-No.49）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん相談支援センターによる患者相談、情報提供を進め、がん予防、がん診療支援等の機能の充実（再掲）</li> <li>・患者サロンを定期的に開催することにより患者への支援（再掲）</li> <li>・がん早期発見のため、関係機関との連携を強化、相談・情報提供機能の充実</li> <li>・がん患者に関する地域連携クリニカルパスの運用を継続、地域との連携を強化（再掲）</li> </ul>		
51	<p>クリニカルパス（入院患者の治療計画を示した工程表）の適用を引き続き進めるとともに、セカンドオピニオン体制の充実を図る。</p> <p>このほか、質の高い医療・看護を行うため以下の取組を進める。</p> <p>(オ) こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の自立教育のためのツール作成、外来でのコーディネーター看護師の育成、成人先天性心疾患の地域医療ネットワークを構築（再掲）</li> <li>・3Dモデル造形センターが製作する頭蓋骨等の3Dモデルを活用した手術前シミュレーション、患者への事前説明及び医療関係者教育・研修等の実施</li> <li>・カルテ及び説明と同意の書の院内監査により、患者にもわかりやすい書類の作成</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.33-No.33）</li> <li>・医療情報管理委員会において、毎月多職種（医師、看護師、放射線科技師。臨床検査技師、事務職員）によるカルテ監査を実施し、監査結果をフィードバックすることで、診療録の質の向上に努めた。</li> <li>・平成30年度クリニカルパスを14項目追加した。パスの使用率は毎月20%を超えている。</li> </ul>

52	ウ 適切な情報管理 ・ 県個人情報保護条例及び県情報公開条例に基づいた適切な情報管理	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者等から診療情報提供の依頼があった場合には、個人情報を取り扱う観点から厳正に申出者の資格確認を行い、速やかに対象となる情報を特定して提供できるよう努めている。また、審査にあたっては関係法令等に照らし、全部提供することについて、問題がないか慎重に判断している。</li> <li>・ 30年度情報提供取扱件数：19件（29年度 26件）</li> </ul>
53	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8件の診療情報提供の申出があり、指針に基づき情報開示を行った。</li> </ul>
54	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11件の診療情報提供の申請があり、指針に基づき情報開示を行った。</li> </ul>
55	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 15件の診療情報提供の申請があり、指針に基づき14件の情報開示を行った。</li> </ul>
56	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報セキュリティ及び個人情報保護に関する研修会として、ナーシングスキルに研修資料等を掲載し、職員が受講しやすい環境にした。また、受講確認のための確認テストも行った。</li> </ul>
57	・ 県立病院情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得や意識の向上を図るため、研修会等の開催	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得のため、当院の新入職員オリエンテーションの中で全新人職員に対し情報セキュリティ研修を行った。</li> <li>・ 3月に機構本部主催の情報セキュリティ研修会を全職員対象に実施した。</li> </ul>
58	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4月に全新規採用職員及び中途採用職員に対しては随時、個人情報の適正な取扱い、情報基盤ネットワークの適切な運用及び情報セキュリティに関する知識の習得のための研修を行った。</li> <li>・ 情報セキュリティ研修を113人が受講し、受講確認テストを実施したことにより、職員の情報セキュリティに関する意識の向上に寄与した。</li> </ul>

59	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新規入職者向けの研修会を開催し、病院独自の電子カルテの院内管理運用規程とセキュリティ遵守のための具体的遵守事項を説明した。</li> <li>・8月から2月にかけて、機構本部主催の情報セキュリティ研修会（e-ラーニング）を実施した。（受講対象者104名、受講者95名）</li> </ul>
60	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者、転入者を対象とした情報セキュリティ研修会を年度当初のオリエンテーションに併せて開催した。</li> <li>・受講対象者に対してDVD研修（4回）及びナーシングスキル研修を実施し、個人情報漏えい防止を徹底した。</li> </ul>
61	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用者及び年度途中入職者のオリエンテーションにおいて個人情報、情報セキュリティの講義を行った。</li> </ul>
62	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.129-No.56）</li> </ul>
63	<p>エ 医療機器の計画的な更新・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高額な医療機器について、各県立病院で計画的な更新やリユースを検討</li> <li>・高額な医療機器の選定に際しては、医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点から検討、医療機能に見合った機器の選定</li> <li>・導入後の医療機器等については、計画に対する費用対効果が得られているか検証</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌年度の医療器械等の各部署からの購入希望に対して、4日間にわたる院長ほか幹部によるヒアリングの上、機器のスペック等の妥当性の精査をはじめ機器購入による収支見通しやランニングコスト等の観点から検討を行い、購入機器を選定した。</li> </ul>
64	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修正型電気痙攣療法（m-ECT）に使用する「パルス派治療器 サイマトロン」の購入にあたり、医療器械等審査部会の承認を経て更新した。</li> <li>・電子カルテの更新費用が多額であることから、修理対応が可能な機器の更新を先送り</li> </ul>

				し、投資額の圧縮を図った。
65	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器の更新については、各セクションからヒアリングを実施し、医療機器等購入調整委員会を、必要に応じて開催し、更新機器を審査決定している。また、修理不能で急遽更新が必要となった機器については、計画していた機器について先送り等調整し購入している。</li> <li>・30年度は、「マルチスライスCT装置」「乳房撮影装置」「生体情報モニタリングシステム装置」等を購入した。</li> </ul>
66	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌年度の医療機器購入について、院内の医療機器等購入検討委員会を開催し、申請部署からヒアリングを行い、仕様、台数等を含め必要性を審査し、購入機器を決定した。</li> <li>・老朽化により不具合のある医療機器について状態により優先順位をつけ更新を行い、診療体制の充実を図った。</li> </ul>
67	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翌年度分の医療機器の購入については、106品目の購入希望に対して、院長ヒアリングを行うとともに、医療機器等購入委員会でその必要性・緊急性を精査し、45品目に絞り込みを行った。</li> <li>・事務部だけでなく、各部署においても業者との価格交渉を行い、一層の支出額の縮減に努めた。</li> </ul>
68	同上	本部	A	<p>審査対象として37件（書面審査4件含む）の医療器機について、妥当性の検証をし、適切な購入ができるように検討を行った。</p> <p>医療器機等の効率的・効果的な購入のための既存の「検討表」に加え、購入した医療器機の収益性を（人件費等の固定費を控除予測できる「医療器機等購入収益予測表」を活用した。</p> <p>計画と実績の乖離を検証することにより、次期購入時の参考とすることや原因分析から利活用方法の検討を行った。</p>

第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

(2) 患者サービスの一層の向上

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

患者満足度調査の中で診療待ち時間の調査を行い、結果を共有し接遇面での改善など対応策を検討したほか、信州医療センターでは、会計待ち時間の改善と利用者の利便性の向上に向け、医療費あと払いサービスを導入し改善につなげた。

調剤薬局との協働により医薬分業体制を維持するとともに、病棟薬剤業務を強化し、服薬指導・持参薬管理など患者満足度の向上に努めた。

臨床評価指標（C I）や医療の質の評価指標（Q I）について、わかりやすい解説を工夫しホームページ上で公開するとともに、各病院の診療案内を、病院だよりやホームページへ掲載するなど、診療情報の発信を積極的に行った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第1 4(2) 1	ア 患者満足度の向上 (ア) 診療待ち時間の改善等 各県立病院において診察及び検査などに関する待ち時間調査などを実施、待ち時間短縮等の改善	信州	A	・毎月の運営会議資料クリニカルインディケーターにて外来平均待ち時間（診療科別）をモニタリングしている。 ・平成29年9月から会計待ち時間の改善及び受診者の利便性向上を図るために導入した医療費あと払いサービスについて、利用者増加に向けた方策検討（あと払いサービス強化週間の実施、利用可能範囲の拡大等）を行った。なお、利用範囲については、人間ドッ

				ク、時間外土日祝日の日勤帯への拡大を図った。 (課 題) ・医療費あと払いサービスの登録者数の増加に向けた広報の充実
2	同上	駒ヶ根	A	・外来患者満足度調査で待ち時間の調査を実施した。受付から診察開始時間の平均は22分となり、前年度より短縮、改善された。電子カルテの更新による受付時間管理の効果と判断される。(29年度24分) ・予約外で来院した患者を円滑に受け入れるため、医師のバックアップ体制を明確にし、グループウェアで情報共有している。
3	同上	阿南	A	・待ち時間が生じていることに対する患者さんへの説明やおわびを励行するよう外来看護部門を中心に取組んだ。また他の部門でも待っている患者に意識して、声を掛けるよう標語を各部署に掲示。 ・外来予約制の運用拡大については、電子カルテシステムの稼働以来取り組んできた。継続して、時間予約の枠の見直し、電光掲示板による院内情報や休診案内、薬の引き渡し案内等によりサービスの向上を図っている。
4	同上	木曾	A	・待ち時間調査を実施した。予約済の患者について、概ね予約時間に受診できたが、予約がない患者については、平均1~2時間待ちで、前年度より待ち時間がやや長くなっている状況が見られた。 ・各科、診察待ち時間の案内板を出す、長時間待ちの患者には声かけをするなど、接遇面での対応に心がけた。
5	同上	こども	A	・患者満足度調査の結果、「外来患者」において、職員全体への満足度が上がっていた。診療待ち時間満足度は、50%の診療科もあった。待ち時間は、30分~1時間の割合が一番多く、昨年の1時間~1時間30分という待ち時間は6%程度の減少がみられた。
6	(イ) 患者の満足度の向上 各県立病院において接遇研修会を実施	信州	A	・11月15日に(株)インソースの青木理子先生を講師として接遇研修会を実施した。
7	同上	駒	A	・11月7日に接遇研修会を実施し、41人の参加があった。

		ケ 根		
8	同上	阿 南	A	・11月に外部講師を招き、接遇研修会を実施した。(参加者 30人)
9	同上	木 曾	A	・10月23日に接遇研修会を実施し、76人の参加があった。
10	同上	こ ど も	A	・「入院患者」満足度調査の結果から、診療に対する満足度は上がっている。再利用意向も上昇がみられた。しかし、看護師・事務職に対する満足度の若干の低下があった。入院生活環境の院内の利便性の項目で低下がみられた。
11	患者満足度調査について、引き続き実施、5病院間で満足度向上のための取組内容等の情報交換	本 部	A	・本部ではH29年度の調査報告会は5月16日に実施。各病院での報告会を順次実施 ・本年度の調査は10月から実施。委託業者による集計と分析を経て、5月以降に順次報告会を行う予定である。
12	同上	信 州	A	・患者満足度調査は、入院115人、外来237人に実施した。結果については調査結果報告会（令和元年度当初予定）において、分析結果を院内全体に周知予定。
13	同上	駒 ヶ 根	A	・入院患者からは11月からの3か月間で85人、外来患者からは12月の5日間で355人から回答を得た。入院、外来とも、29年度に伸びた高い満足度が30年度においても維持されている調査結果となっている。 ・この調査結果について運営会議で報告するとともに、各セクションごと結果の考察と今後の対応について検討し満足度の向上・維持への取組みを進めていくこととした。
14	同上	阿 南	A	・患者満足度調査は入院患者 91人 外来患者 300人に配布した。 ・身だしなみや月毎のテーマについての反省が徹底されていないところが見受けられたので、今後もサービス向上接遇委員会を中心に接遇の改善等につなげる。
15	同上	木 曾	A	・入院患者への食事の充実 入院患者への食事アンケート（1回）を実施したほか、バイキング給食1回、ワゴンサービス5回、乳製品等のミニワゴンサービス6回、出産お祝い膳56回（103人）行事食38

				<p>回を実施し、患者サービスの向上を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者満足度調査を実施し、入院96人、外来280人より回答が得られた。入院患者の満足度は昨年並みだったが、複数の項目で満足度が向上した。外来患者の満足度は全体的に評価が向上した。</li> </ul>
16	調剤薬局との協働による医薬分業体制を維持、病棟専任薬剤師を配置し、服薬指導、持参薬管理など病棟薬剤業務の強化を図り、患者満足度の向上（信州医療センター、阿南病院、こども病院）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外処方せん発行率は93.5%であった。保険薬局との連携により、入院患者の持参薬の確認だけでなく、必要に応じて入院前の服用状況、院外処方箋による調剤時の工夫、患者の状態などの情報提供を受けるため、薬剤管理情報連絡書の運用を開始し、15件の情報提供を受けた。また、当院薬剤科主催の地域勉強会を年3回実施し連携強化を図った。</li> <li>・入院患者では、病棟薬剤管理指導件数は10,631件であり、薬剤師が減員となる状況の中、病院経営にも貢献した。また、プレアボイド報告数は16件であり、薬物療法の有効性と安全性の確保に取り組んでいる。薬剤管理指導業務及び病棟薬剤業務の支援システムを更新し、効率的な運用を図っている。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育休代替の薬剤師が確保できず、職員の負担が増大している。</li> </ul>
17	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師の病棟業務を救急・急性期病棟を中心に行い、薬剤管理指導は1,190件と前年度実績を上回った。（29年度実績1,164件）</li> <li>・医師への処方提案により、より安全で効率的な薬物療法の提供に積極的に取り組んだ。（処方提案154件）</li> <li>・薬剤師外来によるお薬相談を実施し、外来患者の薬物療法への不安を解消できるように努めた。（薬剤師外来17件）</li> <li>・院外処方箋発行率は96%と医薬分業体制を確立した。</li> </ul>
18	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外処方箋は年間平均発行率80%を維持し、医薬分業体制の継続を図った。</li> <li>・入院患者への薬剤指導を充実させるとともに病棟薬剤業務継続し、安全かつ効果的な薬物治療を推進した。</li> </ul>
19	同上	木	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬分業に関しては、医事課や調剤薬局と協力し、院外処方箋発行率を上半期80.3%か</li> </ul>

		曾		<p>ら後半は86.0%まで向上させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟専任薬剤師は、療養病棟で病棟薬剤業務実施加算の算定要件を満たす薬剤師の配置ができなかったが、他病棟では専任薬剤師を配置し、病棟薬剤業務を行った。</li> </ul>
20	同上	こ ど も	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全病棟で病棟薬剤業務を実施した。医薬品情報業務を充実させ、医薬品情報の一元管理に取り組み、転棟時の処方確認やTDM業務の充実など薬物療法の有効性、安全性の向上に貢献できた。</li> </ul> <p>(課 題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師確保及び育成が大きな課題となっている。</li> </ul>
21	<p>信州医療センターでは、以下の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来院患者の待ち時間ストレス解消や待合室での日常の健康に関する情報を提供するため、デジタルサイネージを継続</li> <li>・「意見箱」や出前講座などの様々な機会に収集している「信州医療センターアンケート」による意見を、サービス向上委員会で共有し改善</li> <li>・医療メデイエーション活動のため、研修会への参加などにより人材育成</li> <li>・医療費あと払いサービスの利用を広め、会計待ち時間の短縮や支払いについて利便性の向上</li> <li>・入退院センターの設置に向けた準備（再掲）</li> </ul>	信 州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来院患者の待ち時間ストレス対策と情報の効果的な提供のため、情報を容易に入手できるデジタルサイネージの設置を継続した。</li> </ul> <p>主な放映内容は以下のとおり</p> <p>ニュース、天気予報、季節の健康情報、熱中症、咳エチケット、便秘、インフルエンザなど、アルコール手指消毒、ピロリ菌、小児虐待、糖尿病、検査結果の読み方、病院の特徴（消化器疾患、呼吸器疾患、母子医療、感染症等の紹介）、病院の医師等のスタッフや診療科の紹介、施設案内、新棟建築、病院名称変更、お産受入、人間ドック新メニュー紹介等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内に設置した意見箱に寄せられた患者等からの意見について、各部署からの回答案をもとに委員会において対応を検討。寄せられた意見は、毎月運営会議にて院内全体に周知するとともに、南棟1階会計窓口前掲示板に回答を掲示。</li> <li>・平成29年9月から導入した医療費あと払いサービスについて広く周知し、会計待ち時間の改善及び受診者の利便性向上を図った。</li> </ul>
22	こころの医療センター駒ヶ根では、院外調	駒	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依存症をテーマに調剤薬局薬剤師を対象にした研修会を企画し35人の参加があった。</li> </ul>

	<p>剤薬局に対し、精神科薬物療法の研修会を開催する。</p> <p>また、病棟薬剤業務の強化により、次の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・処方提案や持参薬管理等の医師の業務負担の軽減</li> <li>・薬剤師の服薬指導による患者満足度の向上</li> <li>・安全で質の高い薬物療法の提供</li> <li>・病棟における多職種チーム医療の推進</li> </ul> <p>薬剤師外来により、服薬相談や服薬指導を行い、再入院の防止及び患者満足度の向上</p>	ケ根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師の病棟業務を救急・急性期病棟を中心に行い、薬剤管理指導は1,190件と前年度実績を上回った。(29年度実績1,164件)</li> <li>・医師への処方提案により、より安全で効率的な薬物療法の提供に積極的に取り組んだ。(処方提案154件)</li> <li>・薬剤師外来によるお薬相談を実施し、外来患者の薬物療法への不安を解消できるように努めた。(薬剤師外来17件)</li> <li>・在宅患者の再入院を防ぐため、訪問看護に同行し、て薬剤管理指導を行った。(訪問件数26件)</li> <li>・NSTラウンド、認知症ラウンドに薬剤師が参加し、チーム医療を推進した。</li> </ul>
23	<p>阿南病院では、時間予約制、午後診療などによる患者の利便性の向上と併科の受診順等について配慮</p> <p>「サービス向上・接遇委員会」の一層の充実</p> <p>ロビーコンサート、なごみ市などによるアメニティの向上</p>	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての外来科において予約制の運用を行っており、時間予約の枠の見直し、電光掲示板による院内情報や休診案内、薬の引き渡し案内等によりサービスの向上を図っている。</li> <li>・病院北側の駐車場の整備により、以前より多くの駐車スペースが確保され、受診者の利便性が向上した。</li> <li>・ロビーコンサート、なごみ市などを定期的に行い、アメニティの向上を図っている。</li> </ul> <p>ロビーコンサート：5月 職員バンド（看護の日のイベント） なごみ市：毎週火・木曜日に開催</p>
24	<p>木曽病院では、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員や地域のボランティアによるコンサートを開催、患者サービスの向上</li> <li>・入院患者を対象に、ワゴンサービス、出産お祝い膳等のフードサービスを実施</li> <li>・院内設置の意見箱により来院者からの意見等を収集、管理者会議等で検討</li> </ul>	木曽	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者を対象に「七夕コンサート」(7月)、「もみじコンサート」(10月)、「クリスマスコンサート」(12月)を開催、職員及び地域ボランティアによるピアノ演奏やコーラス、ダンスなどを披露し、サービス向上を図った。</li> <li>・院内設置の意見箱により、来院者からの意見を収集し、管理者会議等で検討し、必要に応じて掲示板に回答を掲載した。</li> </ul>

25	<p>こども病院では、以下の取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイルド・ライフ・スペシャリスト※を配置、医療を受ける過程での不安の軽減となるよう療育支援、子ども自身への情報提供や相談等に対応、医療相談員（医療メディエーター）の配置により、患者サービスの向上</li> <li>※チャイルド・ライフ・スペシャリスト：病院生活における子どもの精神的負担を軽減し、子どもの成長・発達を支援する専門職。病棟や外来における遊びの援助、子どもの理解力に応じた説明、治療における精神的サポート、兄弟姉妹への援助などの業務を行う。</li> <li>・病棟保育士の組織体制を強化、保育業務の専門性及び自立性を高め、こどもの成長発達を支援</li> <li>・院外処方せんの発行率向上のため、院外薬局と連携、患者の利便性の向上に寄与</li> <li>・多様なボランティア活動の受け入れを積極的に行い、子どもの療養生活環境の向上</li> <li>・安曇野市社会福祉協議会と連携し、ボランティアの育成</li> </ul>	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チャイルド・ライフ・スペシャリストは、多職種協働したチーム医療のなかで、特に病児に対するインフォームド・コンセント／アセントが彼らの闘病生活を支え自己肯定感を維持するための効果的な情報となり得るように心理社会的側面からの支援に努めた。</li> <li>また、緩和医療では地域企業のアルペンローゼ(株)の協力のもと、他職種と協働してアロマケアを導入した。平成25年度から介入相談依頼制を開始し、平成30年度は病棟及び外来においてのべ1,221件の活動実績となった。</li> <li>・きょうだい支援のニーズが高まっている一方で、病児のきょうだいの心理及び支援方法に特化して学んだスタッフがごく限られている現状があった。12月にプレパレーションチームの協力を得てNPO法人しぶたねから講師を招致し「病気や障がいをもつ子どもの『きょうだい』の支援をひろげる」研修会を開催した。院内外から29名の参加があり、新たな試みとして好評だった。</li> <li>・医療相談員は、療育支援部所属の相談業務係となり「よろず相談室」での対応だけでなく、院内のご意見箱に寄せられた声にも目を通し、患者家族および職員の環境・状況改善となるよう働きかける役割を担った。平成30年度の活動実績は、618件。</li> <li>・新生児保育士の勤務時間（交代勤務）の見直しを行い、保育士の働きやすさと他職種との連携について話し合い、体制整備ができた。</li> <li>・院外処方箋発行率は96.3%であった。</li> </ul> <p>薬業連携の強化に向けて長野県薬剤師会雑誌に寄稿したり、地域薬剤師会で小児医療の課題と現状を講演し、今後の在宅医療、成人移行の問題について理解と協力を働きかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動実績は、1,011人だった。</li> <li>・患者家族から、託児サービスの情報を求める声が多かったことを踏まえ、地域の有料託児サービスの情報を再度収集し、療育支援部が窓口となるよう集約した。院内の療養環境の充実という点ではまだ改善の余地はあるが、地域にある「子育て」の資源と繋がることで、地域にあるこども病院という位置づけを見直しつつ、地域社会との今後の関係構</li> </ul>
----	---	-----	--

				築にも寄与した。
26	イ 患者への診療情報の提供 ・臨床評価指標（クリニカルインディケーター）や医療の質の評価指標（クオリティーインディケーター）をホームページ上に公開、機構全体のホームページの充実や各県立病院の診療案内等を広報誌に掲載するなど、情報発信	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの臨床評価指標等を随時更新している。</li> <li>・健康管理センターの予約状況等の情報を容易に入手できるように、随時更新している。</li> <li>・当院のチーム医療の取り組み状況を伝えるため、ホームページに院内、院外の研修活動等の情報を掲載している。</li> </ul>
27	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを随時更新し、情報発信を行った。（各種統計等）</li> <li>・医療の質の評価公表等推進事業の報告ページへリンクを貼り、多くのデータ閲覧ができるようにしている。</li> </ul>
28	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿南町等の広報誌に診療案内等を毎月掲載し、積極的に情報発信した。</li> <li>・手術件数やクリニカルインディケーターについては、ホームページへの掲載等により公表している。</li> </ul>
29	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院外広報誌である「病院だより」を年4回発行した。医師の紹介や診療案内、身近な病気やがんの情報、病院の取組み等を掲載し、行政機関等を通じて地域住民へ全戸回覧した。</li> <li>・より分かりやすく内容の充実したホームページへとリニューアルし、病院紹介をはじめ、業務実績、医療の質当の情報公開を行った。</li> </ul>
30	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床評価指標（クリニカルインディケーター）や医療の質の評価指標（クオリティーインディケーター）については、病院機能にフィードバックできるような指標になるように内容の見直しを検討している。</li> <li>・厚生労働省による「病院情報の公表」（臨床評価指標等）をホームページに公開したことで、患者へ医療情報の提供を行うことができ、またDPC機能評価係数への評価に繋がるため増収にもつながった。</li> </ul>

31	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床評価指標（Q I）や医療の質の評価指標（C I）について、ホームページ上に公開</li> <li>・広報担当者会議を開催し各病院間の情報交換を実施。</li> </ul>
32	信州医療センターでは、全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会の「Q Iプロジェクト（Q I推進事業）」を継続、こころの医療センター駒ヶ根、木曽病院及びこども病院は、全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価、公表推進事業」と日本病院会の「Q Iプロジェクト（Q I推進事業）」を継続し、指標のベンチマークによりQ I委員会等を通じてフィードバックを行い、医療の質の改善を図った。</li> </ul>
33	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」に継続して参加し、データの提出を行った。</li> <li>・新電子カルテシステムを導入したことにより、精神医療の見える化研究プロジェクト（PECOシステム）に参加し、他病院との医療の質について、ベンチマークできるようになり、委員会等での活用が開始された。</li> </ul>
34	同上	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を推進した。</li> </ul>
35	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」については小児専門病院に特化した評価でないため、事業参加を見送った。</li> </ul>
36	信州医療センターでは次の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、講演会、出前講座、院内研修会等の活動を病院ホームページに公開</li> <li>・広報誌を須高地域に全戸配布、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等を掲載</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会、講演会、出前講座、院内研修会等の活動を病院ホームページにて公開している。</li> <li>・須坂市報への当院の情報掲載を継続した。なお、須坂市報12月号における特集企画では、当院の院長が寄稿し、当院の役割や取組みについて地域へ向けた情報発信を行った。</li> <li>・院外広報誌「かがやき」を5月、11月、2月に発行し、須高地域に全戸配布を行った。</li> <li>・「親子病院見学会」の開催を継続し、地域住民へ当院への理解を深めてもらうように努めた。（1月17日実施、7家族16名の親子が参加）</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来院患者の待ち時間ストレスの間接的対策と待合室で情報を提供するため、日常の健康に関する情報を容易に入手できるデジタルサイネージを継続（再掲）</li> <li>・地域の病院である当院の理解を深めてもらうため、「親子病院見学会」を開催</li> </ul>			
37	阿南病院では、ホームページの迅速な更新による病院情報のアピールと、市町村広報誌への毎月情報掲載や、病院だよりの定期的な発行による地域への情報発信	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページについては必要があれば、随時迅速な更新に心がけ、広く情報発信した。</li> <li>・市町村広報誌へ毎月掲載を依頼し、医療情報や医療機器の紹介を行った。阿南町においては毎月掲載している。</li> <li>・病院だより「地域とともに」を発行し、地域住民や利用される方に阿南病院を知ってもらうことができた。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

#### (1) 柔軟な組織・人事運営

〔自己評定〕           A

〔自己評定の理由〕

各病院が提供する医療サービス内容、施設基準、収支見通しを検討し、効率的な職員配置に努めた。

職員の業績や能力を的確に評価し人材育成や人事管理に活用するため、現行の人事評価制度に関し、処遇等への反映方法のあり方や新制度導入に向けた検討を行った。

「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる看護部の適正人員数の検討・分析結果に基づき、各病院が人員配置の適正化に向けて前向きな取組みを行った。

また、各病院や職員が持つノウハウや情報を共有し、課題を検討するための各種プロジェクトチームを積極的に開催した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1(1) 1	ア 組織・人事運営 ・ 県立病院の円滑な業務運営に資するため、採用計画の立案に際しては、各県立病院が提供する医療サービスの内容・施設基準・収支	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療サービスの内容によって職員を配置している。</li> <li>・ 医師については、産婦人科常勤医師を1名増員し、分娩取扱数を増加と収益確保に努めた。</li> <li>・ 看護師については、適正な人員数と配置場所について検討を行い、全産育休者を対象に</li> </ul>

	<p>の見通しを十分把握・分析し、効率的な職員配置に努める。</p> <p>・また、長期的視点に立って経営の安定化を図るため人件費の医業収益に対する比率（人件費率）を随時注視し、その低減に努める。</p>			<p>して、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施し、復帰に向けた支援を実施した。このことが、復帰後の働き方について看護師自身が考える契機となり、21人が夜勤、拘束、日当直を行うことができた。</p>
2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年4月から信州大学との連携大学院教育を開始し、病院に勤務しながら医学博士取得を目指す医師1人を引き続き雇用した。</li> <li>・育児休業等に対応するため、必要な職員を年度中途に随時採用した。</li> <li>・外来クラーク2人の枠を維持することにより、超勤時間の削減及び書類作成の迅速化を進め、医師業務の削減と患者満足度の向上を図った。</li> <li>・臨床心理科に1人、デイケア科に1人の非常勤職員を配置するとともに、病棟における薬剤業務強化のため、薬剤科に委託職員1人を配置し、タスクシフトによる職場環境の改善を進めた。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な部署ごとに、正規職員や有期雇用職員を確保するために随時採用をするなど適正配置に努めた。（年度中途の採用：看護師 2人、医療技術職員 1人）</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤師、リハビリ職員などについて職員が不足し、求人を行っても確保が困難だった。</li> <li>・患者数の減少に見合った職員数について検討を行い、職員数の適正化を図ることにより、人件費比率の低減に努めた。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療部、看護部等、必要な部署には随時、正規職員をはじめ有期雇用職員の採用を迅速に行っている。（年度中途の採用：医師13人、看護師・助産師他19人、医療技術職員5人、事務職員6人）</li> </ul>
6	同上	本部	A	<p>「医療安全の確保」と「経営的な視点」を両立させる看護部の適正人員数のために、自作の「適正人員試算表」を活用した試算数と重症度、医療・看護必要度等の分析により、重症度に応じた傾斜配置に取り組むなど、各病院は人員配置の適正化に向けて前向きな取り組みを行った。</p>

7	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用計画 退職者等による不足人員の補充を基本として、年度当初から定年者の再雇用意向調査や早期退職希望者の把握を精査し、必要な採用を行った。</li> <li>・看護職員の適正人員配置に向けた取組 医療安全の確保と経営的な視点を両立させる適正人員数を算出し、病院間の比較検討を行った。 その結果は9月19日の院長会議等で発表したほか、試算表に基づく取組結果又は状況を10月及び1月の合同会議で報告し、今後に向けた検証を行った。</li> <li>・採用実績（常勤） <ul style="list-style-type: none"> <li>【看護職員】 不足数87名 採用者数79名（差引△8）</li> <li>【医療技術職員】 不足数25名 採用者数21名（差引△4）</li> <li>【事務職員】 不足数6名 採用者数6名（差引0）</li> <li>【介護職員】 不足数3名 採用者数6名（差引+3）</li> </ul> </li> </ul>
8	県立病院間で医師等の人事交流や相互派遣するなど、診療をはじめとする業務の協力体制の充実（再掲）	5 病院	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.71-No.1～p.72-No.5）</li> </ul>
9	病院運営上の様々な課題について、病院の担当者間で横断的に議論・検討などを行うプロジェクトチーム等を積極的に活用	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医業収益確保のための担当者会議を開催し、施設基準・未収金対策及び診療報酬改定をテーマに、意見交換を行った。</li> <li>・経費削減のための事務連絡会議を開催し、委託経費の見直しなど各病院の取組や情報交換を行った。</li> <li>・購入時期に合わせて3回の審査部会を開催。また、審査部会で留保となった案件を再度</li> </ul>

				<p>審査する書面審査を1回実施し、37件の審査を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に購入した医療機器について、計画に対する実績の検証を行い、利活用の方法等を検討した。</li> <li>・広報担当者会議を開催し、機構年報の作成や広報戦略についての情報交換を行った。</li> <li>・情報化推進プロジェクトチーム運営会議を開催し、信州メディカルネットのサーバ更新等課題の検討や新たな事務用PCの導入に向けて情報の共有を図った。</li> </ul>
10	<p>イ 医療組織にふさわしい人事評価制度の構築</p> <p>職員の業績や能力を的確に評価し、人材育成、人事管理に活用するため、現行の人事評価制度について、処遇等への反映方法のあり方等を引き続き検討、新制度導入に向け、法人内部で検討</p>	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募により検討メンバーを募り、3月に「人事評価検討ワーキンググループ」を立ち上げ、2019年度中に評価制度案を提言予定</li> <li>計25名（医師4、看護師3、薬剤師1、医療技術12、事務5）</li> </ul>
11	<p>信州医療センターでは、院長が年2回、診療部、看護部、医療技術部、事務部の職場責任者等と面接、年間目標の設定と実績などPDC Aサイクルを推進</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDC Aに伴う前年度の振り返り及び今年度の目標設定を院長ヒアリングとともに、6月12日～7月6日に実施した。</li> <li>・PDC Aに伴う上半期の振り返りを院長ヒアリングとともに11月27日～12月21日に実施した。</li> </ul>
12	<p>こころの医療センター駒ヶ根では、院長が年2回、各医師と目標や実績に関する面談、病院目標達成に向けた動機付けや適正な能力開発を推進</p>	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院長が、必要に応じて各医師と目標及び実績に関する面談を実施した。</li> <li>・院長から各医師に対し、病院目標達成に向けた説明を行い、医師の技量や希望に応じた課題を課し、能力開発に努めた。</li> </ul>
13	<p>こども病院では、院長が行う診療部（年4回）及び看護部、医療技術部、薬剤部（各年2回）の職場責任者等との面接に加え、病院</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院長が診療科部長や看護師長、医療技術部科長と各自面談し、病院の貢献度や自己評価等の聴取を行うと共に、病院経営に関しての改善増収策等意見交換の実施した。（5～6月、7月、11～12月、3月、随時 のべ79名）</li> </ul>

	独自に医師の業績評価を試行実施、本格導入に向けたデータの蓄積		
--	--------------------------------	--	--

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

#### (2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

職員満足度の向上のため病院組織文化調査を実施し、結果を分析した上で管理職と一般職の意見交換会を行う等、必要な対応策を検討した。  
院内保育所の充実により職員の子育てを支援し、働きやすい職場環境の整備に努めた。

ハラスメントやメンタルヘルスに関する職員相談体制を充実させるとともに、弁護士によるパワーハラスメントに関する研修会を実施し、職員の心身の健康の保持増進、快適な職場環境づくりに貢献することができた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 1(2) 1	ア 職場環境の整備 ・育児と仕事の両立を可能とする育児短時間勤務及び育児部分休業などの制度活用を推進(再掲)	信州	A	・参照 (p.78-No.7)
2	・看護師が看護業務に専念できるよう、介護福祉士、看護補助者等を活用(再掲)(信州医	信州	A	・参照 (p.78-No.7)

	療センター)			
3	・看護師の産育休者を対象にして、キャリアシート及び妊娠時の手続きフローシートを活用した面談を実施、職員自身のキャリア形成と復帰後の働き方を検討、職場復帰に向けた支援の実施（再掲）（信州医療センター）	信州	A	・参照（p.78-No.7）
4	・育児短時間勤務者の勤務形態に応じた適切な配置等、部門横断的な検討を継続（再掲）（信州医療センター）	信州	A	・参照（p.78-No.7）
5	イ 職員満足度の向上 ・職員のモチベーション、チームワーク、職務満足や負担感などを含めた病院組織文化調査を全職員へ実施し、調査結果を多角的に分析、多施設ベンチマークから病院の立ち位置や最良の実践法を見出すことで、満足度が高く、意欲を持って働ける職場環境の改善を推進	信州	A	・院内広報誌「みちしるべ」を年3回（6、11、3月）発行し、管理者からのメッセージや各部署からのお知らせ、各部署の取組みや活動の紹介等を掲載し、職員間の理解と一体化を図った。 ・職員の心身の健康の保持増進と病院職員同士の横断的な交流を図るため、サークル活動支援制度を作りサークルへの支援制度を作り交流を深められる魅力ある職場づくりに努めている。 ・6月に院内ソフトバレーボール大会を開催し職員間の交流を深めた。院外との関わりにおいては、恒例行事として第41回須坂カッタカタまつりに参加し、当日は健康相談ブースを出展した。
6	同上	駒ヶ根	A	・12月に病院の組織文化に関する調査を実施した。（配布数168、回収数156） ・職員満足度向上のため、以下の取組を実施した。 <b>【継続】</b> ・病院運営会議だよりの発行（12回） ・職員スポーツ交流会の開催（12月） <b>【新規】</b> ・院長と職員との懇談会の開催

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内広報誌「猫ベンチのつぶやき」リニューアル</li> <li>・職場環境改善コアチームの設置</li> <li>・サクスアワード実施に向けたコアチームの設置</li> </ul>
7	同上	阿南	A	<p>経営企画会議において、職員満足度調査結果の分析・検討を行い、分析し、必要なものは改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院内情報交換会を2回開催（参加者 81人）</li> <li>・職員意見交換会を5回開催（参加者 87人）</li> </ul>
8	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員満足度調査の実施 10月 調査実施 3月 調査結果報告会を開催</li> <li>・院長、看護部長、事務部長による「院内巡視」を実施し、職員から要望、意見等を収集し必要な対策を行った。</li> </ul>
9	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月 病院の組織文化に関する調査を実施。</li> <li>・3月～ 調査結果報告書を受理し、職場ごとの取組及び病院としての取組の推進（課題）</li> <li>・P D C Aサイクルによる取組の推進</li> </ul>
10	同上	機構本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本部ではH29年度の調査報告会は5月16日に実施。各病院での報告会を順次実施</li> <li>・本年度の調査は10月から実施。委託業者による集計と分析を経て、5月以降に順次報告会を行う予定である。</li> </ul>
11	<p>職員の子育て支援と女性活躍推進の視点から、院内保育所の充実を含め、職員が働きやすい職場環境の整備その他福利厚生施策を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センターでは、院内保育所での</li> </ul>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内保育所「カンガルーのぽっけ」（定員10人）では、保護者である職員が安心して働ける環境の提供に努めるとともに、4月「お花見」、5月「こいのぼり会」、7月「七夕まつり」、8月「夕涼み会」、9月「秋の遠足」、10月「ハロウィン」、12月「クリスマス会」、2月「豆まき」、3月「ひなまつり」を開催し病院と保育所の交流を深めている。（保育総延人数1,387人）</li> </ul>

	「保護者会」や「親子・職員と楽しむ夕涼み会」等を開催、安心して働ける環境の提供 ・こども病院では、院内保育所利用者のニーズに対応するため、院内保育所での保護者会を開催、安心して働ける環境づくりを推進			
12	同上	駒ヶ根	A	・現在、院内保育所設置についての要望はないが、職員のニーズがあれば検討を行う。
13	同上	阿南	A	・現在、院内保育所の設置についての要望はないが、未満児保育を実施している近隣の保育園の斡旋等により対応している。
14	同上	木曾	A	・院内保育所利用者のニーズに対応するため、保育所運営協議会の場において、要望等を把握し、安心して働ける環境づくりを推進した。
15	同上	こども	A	・保護者会での利用者の意向を尊重し、委託業者と綿密な連絡調整を行い、夏休み等の長期休みの一時預かりの充実を図る等、利用者が安心して業務に専念できる環境を整えている。
16	同上	本部	A	・参照 (p.80-No.12) ・7月～9月の夏季期間に、通常より30分～1時間程度早く出退勤するとともに定時退勤に努め、夕方からの時間を有効活用する朝型勤務を実施
17	・信州医療センターでは、老朽化した職員宿舎及び敷地の有効活用を検討	信州	A	・民間借上宿舎について、長期間入居者のいない物件の今後の契約更新しないことや職員宿舎のあり方について検討を行った。
18	職員の心身の健康の保持増進及び快適な職場環境の形成のために、健康相談の充実を図るとともに、健康づくり等心身の健康に関する研修を実施	信州	A	・メンタルヘルス巡回相談・全職員対象のストレスチェックを実施。 ・職員安全衛生委員会により、毎月職場環境の巡視を行っている。 ・職員の心身の健康の保持増進と病院職員同士の横断的な交流を図るため、サークル活動支援制度を作り交流を深められる魅力ある職場づくりに努めている。 ・6月に院内ソフトバレーボール大会を開催し職員間の交流を深めた。院外との関わりに

				<p>おいては、恒例行事として第41回須坂カッタカタまつりに参加し、当日は健康相談ブースを出展した。</p>
19	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハラスメントやメンタルヘルスなどに関する職員相談体制を整備するとともに、職場復帰支援マニュアルにより、療養休暇を取得した職員の職場復帰を組織的に支援した。</li> <li>・弁護士によるコンプライアンス研修会を3月に実施し、28人が参加した。</li> <li>・12月にスポーツ交流会を開催した。職員間の交流が深まり、心身の健康の増進に効果があった。</li> <li>・7月及び12月を超過勤務縮減月間と定め全職員へ周知し、超勤の縮減に努めた。</li> </ul>
20	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全衛生委員会の開催と毎月の職場環境の巡視により、快適な環境の整備に努めた。</li> </ul>
21	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流などを目的に、木曾町駅伝大会へ木曾病院チームとして2チーム参加した。</li> <li>・産業医により月1回、職場巡視を行い、職員の勤務環境のチェック、改善を指導している。</li> </ul>
22	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が産業医と直接相談予約ができる体制を整備した。</li> <li>・機構本部主催のメンタルヘルス研修会を受講した。</li> </ul>
23	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員メンタルヘルス研修（病院ごと。受講者数61人）、新規採用職員対象のメンタルヘルス巡回相談及び全職員対象の健康・メンタルヘルス巡回相談（病院ごとに3回）、ストレスチェック（受検者数1,483人）及び集団分析報告会（病院等ごと）などを実施することにより、職員の心身の健康の保持増進、快適な職場環境づくりに貢献することができた。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 2 経営力の強化

#### (1) 病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上

〔自己評定〕           A

〔自己評定の理由〕

第3期中期計画に向けた中長期ビジョンの策定に当たり、多くの職員が参加し組織が目指す方向性を共有したことにより、職員一人ひとりの経営参画意識、モチベーションが高められた。

組織が一体となって経営改善に取り組むため、キャッチフレーズを活用し、経営目標を明確にする取組みを進めた。

「病院力アップ職員提案制度」では、優秀な提案「動画を活用した院内研修会の実施」に基づきオンライン研修ツールの有効活用を実践することにより経営の効率化が図られるとともに、病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上につながった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 2(1) 1	月次決算をはじめとする経営指標について引き続き理事会などで確認、その状況の全職員への周知を徹底、経営改善に取り組み安定した病院経営	本部	A	部長会議、理事会で月次の経営状況を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取組みが図られた。 新規職員や他部署から異動者等を対象に基礎的な会計制度の研修会を開催し、理解を深められた。

	・経営感覚の向上などを目的とした、病院経営に関する研修を引き続き実施			
2	・第2期中期計画策定後の情勢の変化に対応するため、中長期ビジョンの策定	本部	A	・2025年度を見据えた中長期ビジョンを、各病院の様々な部門の職員が参画して自病院のビジョンを作り、12月に理事会に報告した。第3期中期目標・中期計画策定に向けた県との協議において活用する。
3	・病院経営上の様々な課題について、病院の担当者間で横断的に議論・検討などを行うプロジェクトチーム等を積極的に活用（再掲）	本部	A	・参照（p.144-No.9）
4	<p>・毎月の全体朝礼と運営会議で院長方針の伝達と、PDCAサイクルの繰り返しにより経営への参画意識の向上（信州医療センター）</p> <p>・職員の能力向上と相互理解を深めるため、院内研究発表会を年1回開催（信州医療センター、木曽病院）</p> <p>・数値目標に係るキャッチフレーズにより、経営への参画意識の向上、病院運営会議で経営状況について説明、「病院運営会議だより」により職員一人ひとりが経営状況を把握するよう周知徹底（こころの医療センター駒ヶ根）</p> <p>・各部門別のBSC（バランスト・スコアカード）の展開の充実を図り、チーム医療を推進（木曽病院）</p> <p>・日頃の業務内容や実施した調査研究、業務改善の取り組み等の報告を行う院内情報交換</p>	信州	A	<p>・毎月の役職者を対象とした運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計係による収支の分析結果を組織全体で把握している。</p> <p>・また、毎月の全体朝礼で院長から、経営状況や課題等の説明、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされ、病院全体で取り組んだ結果、通年で高稼働率を維持することができた。</p> <p>・院内研究会を開催し、医師、看護師、医療技術部職員、医事事務職員及び事務職員が、相互に研究結果を発表する場を設けている。</p> <p>開催日時 3月18日（月）17:45～</p> <p>発表演題 10題</p> <p>なお、最高得点の演題について、全自病学会での発表を検討中</p>

	会の開催による、職員間の情報共有と業務改善の推進（阿南病院）			
5	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝実施している朝会において、病棟ごとに入院患者数を報告し、目標の達成状況を確認した。</li> <li>・毎月の病院運営会議において経営状況及び分析結果を報告した。また全職員に対し、「病院運営会議だより」を発行し、経営状況を周知した。また10月以降は、グループウェアにより配信することで、ペーパーレス化を図った。</li> </ul>
6	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の業務内容や実施した調査研究、業務改善の取り組み等の報告を行う院内情報交換会を2回開催（参加者 87人）し、職員間の情報の共有化を図った。</li> <li>・経営等に関する情報を共有し、経営の意識を高めるために、各セクションに赴き、年度計画、決算状況の説明と、併せて経営改善の意見交換を行った。</li> </ul>
7	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃の研究成果の発表の場として院内研究会を2月に開催し、優秀な演題を表彰し職員のモチベーションアップにつなげるとともに、職員相互の資質向上を図った。</li> <li>・毎月の月次決算の状況を分かりやすく解説するとともに、各部署の取組みを紹介する「経営改善ニュース」を発行し、職員の経営改善に対する意識の醸成を図った。</li> <li>・BSCについて、「院内巡視」において部署別29年度実施内容の検証及び、30年度計画の確認を行い、目標と課題の共有を図った。</li> </ul>
8	・「魅力発見・組織発展プロジェクト」の最終報告を全職員に周知、職員意識の向上（阿南病院）	阿南	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営企画会議内で病院内部の強み・弱み、病院外部の機会・脅威、クロス分析・克服するための方策等を検討する機会があったが、全職員に対する説明会の実施や具体的な対応策を検討することが出来なかったため、今後も引き続き検討を進めていく。</li> </ul>
9	・病院において、院内広報誌等を発行（再掲）（信州医療センター、こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院、木曾病院）	各病院	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.80-No.13～p.81-No.16）</li> </ul>
10	病院経営への職員の参画意識を高めることなどを目的に、業務改善に関する提案を職員	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院力アップ職員提案では、ICTチームの提案「動画を活用した院内研修会の実施について」が、機構全体で優秀賞を受けることができた。また、会計待ち時間の改善及び受</li> </ul>

	から募集する「病院力アップ職員提案」を引き続き実施			診者の利便性向上を目的とした医療費あと払いサービスの積極的利用を周知した。
11	同上	駒ヶ根	A	・当院からの「病院力アップ職員提案」はなかったものの、職場環境の改善に向けた提言を行うためのコアチームを設置し、「看護ラダー」と「交代制勤務」をテーマとした検討を通じ、病院経営への参画意識を高めた。
12	同上	阿南	A	・経営企画会議において、対策が必要な重点項目について、担当科で検討し取組んだ。しかし、病院力アップへ提案が出なかったため、引き続き業務改善に取り組む。
13	同上	木曾	A	・29年度の決算に基づく損益分岐点分析から1日当たりの入院患者数の目標129人（一般病棟108人、療養病棟21人）を算出し、院内全体で共有し目標を達成するために、キャッチフレーズを職員から募集、「1歩2歩9ろじ（黒字）」とし、入院患者の確保を進めた。
14	同上	こども	A	・例月の収支状況を各種会議で報告、周知し、職員個々が病院運営への参画意識を高めるよう努めた。
15	同上	本部	A	・機構全体に関わる提案が4件あり、優秀賞1件（動画を活用した院内研修会の実施）を表彰した。当該提案の主旨（受講者の確保、講師の負担軽減、超過勤務の削減など）を活かし経営の効率化を図るため、オンライン研修ツールの有効活用への取組を開始した。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 2 経営力の強化

#### (2) 経営部門の強化

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

事務職員の資質向上及び相互連携強化を図るため、事務職員研修会や院内多職種体験研修を実施した。

「医療の質の評価・公表等推進事業」に参加し、管理者会議や運営会議でベンチマークとする病院の指標との比較検討を行い、経営の質の向上につなげた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 2(2) 1	病院運営や医療事務等に精通した人材の確保・育成を行い、経営力の向上 ・事務職員を対象とした体系的な研修プログラムの充実	本部	A	・事務職新規採用者を対象に、院内多職種体験研修を、こども病院主催で実施し、1名が参加した。 ・11月10日に集合研修を実施し、33人が参加。講義のほか、グループワークにより資質向上と事務職の相互連携強化を図った。
2	・管理者会議、運営会議等でベンチマークとする病院（民間・公的・他自治体病院等）の	信州	A	・ベンチマークとする病院（民間・公的・他自治体病院等）の指標を管理者会議と院長方針を伝えるための役職者を対象とした運営会議等で比較検討し、経営の質の向上につなげている。

	指標について比較、経営の質の向上（信州医療センター）		・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」及び日本病院会のQ Iプロジェクトに参加し、院内のQ I委員会を中心に指標の検証を継続している。
--	----------------------------	--	---

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (1) 年度計画と進捗管理

〔自己評定〕           A

〔自己評定の理由〕

年度計画を達成するためのアクションプランを策定した上で、進捗状況や課題を定期的に把握、自己評価を行い、P D C Aサイクルによる業務改善を推進した。

各病院の月次決算をはじめ、病床利用率や診療単価等の経営指標を把握し、組織全体で情報共有することにより経営改善を図った。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(1) 1	各病院長は、その付与された権限に基づき、県立病院の医療機能を最大限に発揮するよう、業務の進捗管理と経営改善を図り、責任を持って年度計画を達成する。 また、機構全体で、年度計画を達成するための行動計画（アクションプラン）を策定、P D C Aサイクルによる業務運営を推進	信 州	A	・年度初めに院長が各診療科部長、各病棟師長、各部門科長とヒアリングを行い、昨年度の結果を検証してから新たな年間プランを作成し実行している。 ・アクションプランの進捗管理のため下半期終了後に再度ヒアリングを行い検証している。

2	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡充事業及び新規事業について具体的な実行スケジュールを策定し、進捗管理を行った。</li> <li>・アクションプランに基づく実績及び成果について、各部門において10月に中間評価を3月に期末評価を実施した。</li> </ul>
3	同上	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画達成のため各セクションにおいてアクションプランを策定し、P D C A サイクルによる業務改善を行った。</li> <li>・具体的な数値目標を設定し、上半期での進捗状況のチェックと下半期に向けての課題等のチェックを行い、年度計画を達成するように努めた。</li> </ul>
4	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画達成のためのアクションプランを基に、「各部署にてB S Cの作成 → 実行 → 自己業績評価 → 院内巡視で病院幹部に報告」の手順による取組みを行った。</li> </ul>
5	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度計画を基に、各関係部署の計画をまとめたアクションプランを策定した。</li> <li>・経営企画室会議において、経営改善に繋がるプロジェクトを複数立案し実行した。</li> </ul>
6	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に、本部アクションプランを作成、各病院分を調整の上で取りまとめ、4月の部長会議及び理事会に報告した。</li> <li>・10月に、本部アクションプランに関する上半期の進捗状況を確認・評価し、各病院分と併せ上半期業務実績報告書として、12月の部長会議及び理事会に報告した。</li> </ul>
7	各病院の月次決算の状況を的確に把握し、機構全体として経常損益及び資金収支の向上を図り、経営の安定化	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週管理者会議で入院と外来の患者数を確認し、毎月の役職者を対象とした運営会議では、医事課での分析結果による患者状況の把握と会計係による収支の分析結果を組織全体で把握している。</li> <li>・また、毎月の全体朝礼で院長から、経営状況や課題等の説明、損益分岐点となる病床稼働率と医療看護必要度を維持するための病床運用への協力の呼び掛けがなされ、病院全体で取り組んだ結果、通年で高稼働率を維持することができた。</li> </ul>
8	同上	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療情報管理士が中心となって、病院経営上必要な診療実績に関するデータの収集及び分析を行い、院内に積極的に情報発信を行った。</li> </ul>

		根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月開催の病院運営会議で経営状況を報告し、情報共有を図った。</li> <li>・3ヵ月以内の再入院患者を減少させる取組を検討するために必要な分析を行い、幹部会議や病院運営会議に報告し、3ヵ月以内の再入院率が減少した。</li> </ul>
9	同上	阿南	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人口動態や医療動向を加味した阿南病院独自のクリニカルインディケーターを毎月の経営企画会議に提示し、臨床指標を用いた量的、質的な現状の把握、分析を行い経営力の評価を行い、新たな取組を検討している。</li> <li>・月1回開催している運営会議において、計画の進捗状況と毎月の運営状況を示すとともに、主な項目をグラフ化し当院の経営状況について新たな様式で職員に周知を図り、経営状況を職員間で共有を図る。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトカム・プロセス評価についての医局及び各部門へのフィードバックとその実践</li> </ul>
10	同上	木曾	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の運営委員会において、毎月の病床利用率や入院単価などの診療実績を検証し、経営状況の分析・把握を行うとともに、2回のうち1回を希望する職員が誰でも参加できるようにし、経営状況の周知や収益確保と費用削減への意識啓発に努めた。</li> </ul>
11	同上	こども	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の経営企画室会議において、毎月の病床利用率や入院単価などの診療実績を検証し、経営状況の分析・把握を行った。</li> <li>・毎月本部へ「収益増に対する取り組み状況表」を提出することで機構全体として経常損益及び資金収支の向上に寄与した。</li> </ul>
12	同上	本部	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長会議、理事会で月次の経営状況を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取り組みが図られた。</li> </ul>

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (2) 収益の確保と費用の抑制

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

「経営改善プログラム」(平成29年度下半期～平成31年度)により、機構全体が一丸となって収益確保・経費削減に取り組んだ結果、職員の経営意識の醸成が図られるとともに、計画を大幅に上回る改善がなされた。

各種経営指標や評価指標を分析・活用することにより、医療の質の向上及び経営改善につなげる取組みを積極的に行った。

業収益確保及び経費削減について、病院ごとの取組みに加えて病院と本部とで横断的に議論や検討を行うプロジェクトチームの活動を充実させ、未収金対策や機器保守委託費削減など実効性のある検討を進め、会議を契機として医療機器の保守契約方法の見直しなど、具体的な削減成果につながった。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(2) 1	ア 評価指標の活用 ・臨床評価指標(クリニカルインディケーター)を公開、より質の高い医療を提供できる	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価、公表推進事業」と日本病院会の「Q I プロジェクト(Q I 推進事業)」を継続し、指標のベンチマークによりQ I 委員会等を通じてフィードバックを行い、医療の質の改善を図った。</li> <li>・業務運営の改善のため、毎月の運営会議でクリニカルインディケーターを報告してい</li> </ul>

	よう医療の質評価指標（クオリティインディケーター）を公開（再掲）			る。 ・ホームページの臨床評価指標等を随時更新している。
2	同上	駒ヶ根	A	・ホームページを随時更新し、情報発信を行った。（各種統計等） ・医療の質の評価公表等推進事業の報告ページへリンクを貼り、多くのデータ閲覧ができるようにしている。
3	同上	木曾	A	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」に引き続き参加した。 ・ホームページで、医療の質の評価公表等推進事業の報告ページへリンクを貼り、多くのデータ閲覧ができるようにしている。
4	・業務運営の改善のため、経営企画室会議によって検討したクリニカルインディケーターの分析結果等を管理者会議へ提案（信州医療センター）	信州	A	・業務運営の改善のため、毎月の運営会議でクリニカルインディケーターを報告している。
5	・経営企画会議による、クリニカルインディケーターの項目の見直し（阿南病院） ・経営改善ワーキンググループによる重点取り組み事項の検討と実践（阿南病院）	阿南	A	・参照（p.160-No.9）
6	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（再掲）（こころの医療センター駒ヶ根、木曾病院、こども病院）	駒ヶ根	A	・全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」に継続して参加し、データの提出を行った。 ・「医療の質の評価・公表等推進事業」で得たデータについて、運営会議等を通じて院内へフィードバックを行った。
7	同上	木曾	A	・参照（上記No.3）
8	・医療の質の向上を図るために、全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会のQ Iプロジェクト（Q	信州	A	・全国自治体病院協議会の「医療の質の評価、公表推進事業」と日本病院会の「Q Iプロジェクト（Q I推進事業）」を継続し、指標のベンチマークによりQ I委員会等を通じてフィードバックを行い、医療の質の改善を図った。

	I 推進事業)に参加、自院の診療の質を知ることによって、経営改善(信州医療センター)			
9	・人件費比率低減に向けて、各部門職員の適正な人員数と配置場所、業務の見直し及び働き方の検討を継続(信州医療センター)	信州	A	・病床利用及び医療・看護必要度に応じた適正な人員及び職種配置に努めるとともに、育児短時間職員の勤務スタイル見直しを行い、配置人数の適正化を図った。
10	・県立病院の月次決算等のデータと、各県立病院がベンチマークとする病院(民間・公的・他自治体病院等)の様々な指標や財務状況について比較、経営状況を客観的に分析・把握し改善	信州	A	・役職者を対象とした運営会議等で経営状況に関する各種データを周知し、病院経営参画を促している。
11	同上	駒ヶ根	A	・診療情報管理士が中心となって、病院経営上必要な診療実績に関するデータの収集及び分析を行い、院内に積極的に情報発信を行った。 ・全国自治体病院協議会が実施する医療の質の評価・公表等推進事業に引き続き参加した。26年度から提出しているデータを分析し、他の参加病院との比較を行った。 ・毎朝実施している「ベッドコントロール会議」で入院患者の状況、病棟別入院患者数の報告をするとともに、チャレンジ80(病床稼働率80%)の達成に関することを院内全体に促した。
12	同上	阿南	A	・参照(p.160-No.9) ・本部へ提出する「収益増に対する取り組み状況表」を分析することで、経常損益及び資金収支の向上に寄与した。 (課題) ・アウトカム・プロセス評価についての医局及び各部門へのフィードバックとその実践
13	同上	木曾	A	・参照(p.165-No.25) ・全自病医療の評価公表事業に参加し、指標の作成を推進した。

				・経費削減チームを結成し、財務内容の改善に取り組んだ。
14	同上	こども	A	・参照 (p.160-No.11)
15	同上	本部	A	・部長会議、理事会で月次の経営状況を示し、また各病院においても運営会議等の場で活用され、収益向上・費用削減の取り組みが図られた。
16	診療内容の透明化・標準化を図り、DPC請求における精度の向上のため、DPC分析結果の運営委員会等へのフィードバックを行いながら常に改善に取り組む。(信州医療センター、木曽病院、こども病院)	信州	A	・2018年度診療報酬改定の内容を踏まえて、当院における主な疾患別にDPC期間と点数を比較したシミュレーションを行い、経営企画室会議での分析や各部門へ情報提供を行った。 ・診療報酬改定や新たな施設基準の取得に伴うDPC係数の推移と収益への影響額を分析し、経営改善に向けた検討資料として活用した。
17	同上	木曽	A	・DPCソフトを活用し、急性期病棟から地域包括ケア病棟へのベットコントロールの判断基準とした。
18	同上	こども	A	・全国こども病院診療情報研究会(四国おとなとこどもの医療センター開催)に出席し、全国の小児病院とベンチマーク分析を行った。
19	全国小児病院による研究会、小児医療施設協議会での診療情報分析連絡会など相互に連携、医療の質の向上、医療安全、経営改善の分野の発展に寄与(こども病院) 診療科ごとの原価計算システムのデータを基に、病院経営分析の充実(こども病院)	こども	A	・医療材料について信州大学医学部附属病院と情報交換し、費用削減交渉の参考とした。 ・全国こども病院診療情報研究会(四国おとなとこどもの医療センター開催)に出席し、全国の小児病院とベンチマーク分析を行った。 (課題) ・信州大学医学部附属病院と共同で経営改善できる事項を今後も検討していく。
20	診療報酬と原価の関係を把握し、より効率的な医療を提供するため部門別原価計算など	信州	A	・昨年度に引き続き、医師一人当たりの受け持ち患者数を指標として使用し、診療科ごとの医療提供状況の把握に努めた。 ・病院として部門別収支分析は行っていない現状だが、診療科別の患者数及び収益の状

	の管理会計の導入について検討			況、月次損益状況と経営分析結果（前年対比と変動要因分析）を毎月の運営会議で共有し、収益確保と費用削減の方策について検討している。
21	同上	本部	A	・木曽病院で導入に向けて準備をしている新たな経営指標の勉強会に参加するなどして、病院と情報の共有を図った。
22	イ 効率的な予算の編成と執行 ・各病院長が、中期計画、年度計画及び長期的な投資計画や収支見通しに基づき、責任ある収支計画案の作成 ・収入見通しの作成に際しては、地域の人口減、患者動向や各県立病院における増収策を的確に反映させるなど、以下のとおり取り組む。 ・各県立病院の医療機能に対応した、施設基準の適切な届出を実施、診療報酬の算定漏れを防止	信州	A	・施設基準等管理委員会で、医療・看護必要度、在宅復帰率、地域包括ケア病棟のリハビリテーション単位数、月平均夜勤時間等をモニターし、施設基準の維持に努めるとともに、新たな施設基準が届出可能か検討を行った。なお、30年度に新たに届出した施設基準は、医療安全対策地域連携加算、提出データ評価加算、救急搬送看護体制加算、急性期看護補助体制加算（25対1、看護補助者5割未満）、後発医薬品使用体制加算1、乳腺炎重症化予防ケア・指導料、医師事務作業補助体制加算1（30対1補助体制加算）、入院時支援加算、腹腔鏡下仙骨脛固定術があり、収益増加に繋がった。 ・また、診療報酬改定に伴い、病棟群単位での入院料算定から、急性期一般入院料2での算定へ移行したが、通年で必要な基準を維持し、入院収益を大幅に増収させることができた。 ・また、診療報酬の算定漏れについては、診療報酬対策委員会で査定の内容を毎月確認し、原因分析と対策検討を行った。
23	同上	駒ヶ根	A	・31年度予算作成に当たっては、地域の医療ニーズに対応する医師を確保した上で、収支の均衡を図った。
24	同上	阿南	A	・年度計画に沿った運営に取り組み、施設基準の届出を速やかに行い、また、収支見直しを考慮しながら、必要度、緊急度を踏まえ予算執行に努めた。
25	同上	木曽	A	・毎月2回行われる運営委員会において、患者数や経営状況に係る情報共有を図るとともに、年度末の収支見直しなどを常に考慮し、支出の削減に取り組みながら予算の適正な執行に努めた。 ・地域包括ケア病棟入院料1の届け出を行った。

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・下肢抹消動脈瘤指導管理加算の届け出を行い、11月より算定を開始した。</li> <li>・院外処方箋発行の推進と薬剤管理指導料算定増に取り組んだ。</li> <li>・後発医薬品使用体制加算届け出によりDPC係数の改善を図った。</li> <li>・入退院支援加算Ⅰの届け出を行い、11月から算定を開始した。</li> </ul>
26	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.131-No.67)</li> <li>・機構本部主催の経費削減事務連絡会議での検討を行い、経費全体の圧縮に努めた。</li> </ul>
27	・出来高算定項目の実施率向上及び包括項目の効率化を推進、DPC係数の向上（信州医療センター、木曽病院、こども病院）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営企画室会議にて、診療報酬改定の影響に関する分析（DPC係数による影響額、DPC期間と点数の比較、経過措置後の重症度及び医療・看護必要度）を行ったほか、診療単価向上のため、栄養指導向上WGでの検討を経て、多職種で栄養指導の増加に向けて取り組む体制を整備した。</li> <li>・より高い施設基準の取得によりDPC係数を向上させることができた。（25対1急性期看護補助体制加算、医師事務作業補助体制加算1 30対1等）</li> <li>・新規クリニカルパスは、DPC入院期間を考慮し作成している。</li> </ul>
28	同上	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署との連携により、施設基準届け出に必要な体制を整備し、下肢抹消動脈疾患指導管理加算、入退院支援加算等の算定を開始した。</li> <li>・入院中の指導等の充実に取り組み、薬剤管理指導料の算定増につなげた。</li> </ul>
29	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未コード化傷病名を減少に取り組んだ。（平成30年4月7.36%→平成31年3月2.41%）</li> <li>・DPC出来高項目（肺血栓塞栓症予防管理料、救急搬送料、超重症児加算等）の請求もれ防止に努めた。</li> <li>・地域支援病院の認定により約2,700万円増収した。（DPC係数 平成29年0.0266→平成30年0.0304）</li> </ul>
30	・人間ドック受診者増加に向けた取組を充実（信州医療センター、阿南病院、木曽病院）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.68-No.32)</li> </ul>
31	同上	阿	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.69-No.33)</li> </ul>

		南		(課 題) ・内視鏡の技術を持つ内科医師の安定的確保 ・将来の治療も見据えた受診者への丁寧な説明
32	同上	木 曾	A	・参照 (p.69-No.34)
33	・病棟群単位の経過措置の終了に伴う急性期一般入院基本料への移行に対応し、より収益の高い入院基本料の取得を目指し増収(信州医療センター)	信 州	A	・病棟群単位の経過措置終了に伴う急性期一般入院基本料への移行に対応して、医療・看護必要度の状況を院内で共有し、通年で必要な基準を維持し、入院収益の大幅な増収につながった。
34	・第三者評価(病院機能評価、健診施設機能評価)の質を維持継続(信州医療センター)	信 州	A	・健康診断機能の第三者評価機関である(公社)日本人間ドック学会による「人間ドック健診施設機能評価Ver.3.0」に認定された質を維持し、常勤医師(日本内科学会認定内科医、認定産業医、人間ドック学会認定専門医)によるドック受診後のフォローアップを継続するなど、受診者が安心して健診を受けられる施設を提供した。
35	・退院後3カ月以内再入院患者の縮減対策について検討、入院診療単価の増(こころの医療センター駒ヶ根)	駒 ヶ 根	A	・入院後速やかに、多職種や地域関係者及び家族と支援会議を行い、退院後の地域生活について検討を行った。 ・外出・外泊評価シートを利用し、外出・外泊訓練前に目標を立て、訓練後の評価を多職種で検討し退院につなげた。 ・適正なベットコントロールをするため、入院後60日以上の中長期入院患者のベッドコントロール会議を開始した。
36	・多職種連携による効果的なプログラムを開発し、「思春期デイケア」を実施(再掲)(こころの医療センター駒ヶ根)	駒 ヶ 根	A	・新設された思春期デイケアプロジェクトチームで検討を行い、SST等のプログラムを新たに追加し内容の強化を図った。 ・思春期デイケア利用者が前年度比270%増と急増した。(30年度延利用者数230人 同29年度85人 体験者数含む)
37	・地域生活支援を推進するため、訪問看護機能を強化、多職種チームによる訪問や退院後	駒 ヶ	A	・参照 (p.28-No.22)

	の早期訪問を実施（再掲）（こころの医療センター駒ヶ根）	根		
38	・システムを活用した診療報酬請求漏れ防止対策を実施、診療報酬請求事務の精度の向上（こども病院）	こども	A	分析システムを月3回活用。DPCコードのチェックを行い、正確な請求に取り組んだ。 （レセプト査定率 平成29年度0.4%→平成30年度0.15%）
39	各県立病院では、医業未収金について、「病院機構未収金対応方針」及び「病院機構未収金対応マニュアル」に基づき、発生の未然防止や回収の促進	信州	A	○信州医療センター (1) 未収金の未然防止 ・昨年度に引き続き、経営企画室会議内に組織した拡大未収金プロジェクトチームを中心に、多職種で退院時請求率の向上、医療費あと払いサービスによる外来の未収金対策等に取り組んだ。 (2) 未収金の縮減・回収強化 ・平成30年1月より開始した債権回収弁護士委託を継続し、病院担当者では回収が困難であった債権のうち約272万円を回収した。（平成30年1月～平成31年3月累計） （課題） ・組織として未収金対策を図る体制づくりを継続する。
40	同上	駒ヶ根	A	○こころの医療センター駒ヶ根 ・精神保健福祉士と医事業務担当が日常的に協力し、入院中から医療費に関する相談等を行うことで、未収金発生の未然防止に努めた。
41	同上	阿南	A	○阿南病院 ・臨戸訪問での徴収、郵送や電話での督促により、30年度の未収金は低水準となっている。 （課題） ・過年度発生の未収金は徐々に減ってきてはいるが、回収が遅延している状況となっている。今後も引き続き督促を図っていく。
42	同上	木	A	○木曾病院

		曾		<ul style="list-style-type: none"> <li>・未収金防止対策の強化として、外来医療費の即日払いの徹底と未払者からの誓約書徴取、入院医療費の退院日即日会計の導入、料金あと払いサービスを開始した。</li> <li>・未収金回収業務の強化として、法律事務所と債権管理及び回収業務委託契約を締結した。</li> </ul>
43	同上	こども	A	<p>○こども病院</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度末現在の過年度未収金（個人）に対し、計千円以上の未収患者への回収業務を弁護士委託実施、467万円委託に対し146万円回収（分納回収あり）</li> <li>・受診継続中の未収患者に対し都度面談を実施。</li> <li>・入院申込未提出の未収患者に対し早期対応実施。</li> <li>・支払い困難者への早期対応。</li> </ul>
44	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医事課長会議を開催し、各病院の未収金に対する取り組みの情報交換を行った。特に、信州医療センターから各病院においても導入可能な事例が紹介され、有意義なものとなった。</li> </ul> <p><b>【医業未収金収納状況の推移】</b></p>

		(単位：千円)									
当年度	区 分	信 州	駒ヶ根	阿 南	木 曾	こども	阿南老健	木曾老健	計	収納率	
29年度分	うち個人分	27,151	13,112	4,683	18,163	3,704	3,747	7,839	78,399	92.2%	
	上記個人分の 今年度収納額	24,967	11,902	4,663	16,786	3,066	3,747	7,162	72,293		
28年度分	29年度末の 未収金額	2,345	1,350	199	2,207	1,930	0	197	8,228	29.3%	
	今年度収納額	914	319	20	755	401	0	0	2,409		
27年度分	29年度末の 未収金額	1,954	593	0	1,892	1,556	0	330	6,325	21.8%	
	今年度収納額	151	186	0	569	236	0	240	1,382		
26年度 以前分	29年度末の 未収金額	8,272	3,511	73	13,173	2,889	0	2,093	30,011	21.2%	
	今年度収納額	3,173	212	20	1,843	1,124	0	0	6,372		

  

45	効率的な費用の支出により経費の節減 ・ 機構本部と各県立病院の担当者で構成する 経費削減のための事務連絡会議等を積極的に 活用、医療機器等の保守点検費用等の委託費 を中心にトータルコストを意識した経費（費 用）の削減  医療材料費／医業収益比率（単位：％）	信	A	○信州医療センター ・ 診療材料と試薬について、単価契約や新規材料採用時の価格交渉ツールとしてMRP ベンチマークシステムを活用し、約11,200千円の診療材料費削減となった。 ・ 医療機器の保守委託費を削減するため、一部の放射線機器の保守を保険契約に切り替 え約100万円の経費削減を図った。 ・ ジェネリックの採用を順次進め、ジェネリック比率は90%程度まで向上した。 ・ 病院独自でも全国自治体病院協議会ベンチマーク事業のデータを活用し、医薬品単価 の値引き交渉を随時行い、医薬品費の削減を図った。										
					州									
					<table border="1"> <tr> <th>県立病院名</th> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>23.4</td> <td>25.2</td> </tr> <tr> <td>こころの医療セン</td> <td>5.5</td> <td>9.3</td> </tr> </table>	県立病院名	H28 実績	H30 目標	信州医療センター	23.4	25.2	こころの医療セン	5.5	9.3
					県立病院名	H28 実績	H30 目標							
信州医療センター	23.4	25.2												
こころの医療セン	5.5	9.3												

	<table border="1"> <tr> <td>ター駒ヶ根</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>15.2</td> <td>16.1</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>26.4</td> <td>23.5</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>21.1</td> <td>20.0</td> </tr> </table> <p>・医薬品・診療材料の購入については、県立病院間で情報を共有、取引業者の見直し、価格動向などの情報収集、交渉方法の研究等により経費の節減、ジェネリック医薬品の採用を積極的に推進</p> <p>ジェネリック医薬品使用割合（院内） （単位：％）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>83.6</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>阿南病院</td> <td>64.4</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>木曽病院</td> <td>77.4</td> <td>80.0</td> </tr> <tr> <td>こども病院</td> <td>78.7</td> <td>85.0</td> </tr> </tbody> </table>	ター駒ヶ根			阿南病院	15.2	16.1	木曽病院	26.4	23.5	こども病院	21.1	20.0	県立病院名	H28 実績	H30 目標	信州医療センター	83.6	80.0	阿南病院	64.4	80.0	木曽病院	77.4	80.0	こども病院	78.7	85.0			
ター駒ヶ根																															
阿南病院	15.2	16.1																													
木曽病院	26.4	23.5																													
こども病院	21.1	20.0																													
県立病院名	H28 実績	H30 目標																													
信州医療センター	83.6	80.0																													
阿南病院	64.4	80.0																													
木曽病院	77.4	80.0																													
こども病院	78.7	85.0																													
46	同上	駒ヶ根	A	○こころの医療センター駒ヶ根 ・ジェネリック医薬品への切り替えを進め、8月から後発医薬品使用体制加算3の算定開始した。																											
47	同上	阿南	A	○阿南病院 ・委託費の見直し、保守契約を年間契約からスポット契約や修繕での対応により経費削減を進め、医業収益対材料費率を目標に近づけた。																											

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・30年度にはさらに21品目をジェネリック医薬品に切り替え、H30.7月に後発医薬品使用率が80%を超えたことより7月から後発医薬品使用体制加算2の算定を取得した。さらにH30年度末には使用率は86.2%となった。</li> </ul>
48	同上	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○木曾病院</li> <li>・毎月開催される運営委員会において、各経費の前年度との比較増減の状況等、経理状況の報告を行い、職員の経費節減に対する意識向上を図った。</li> <li>・電気料金を複数の電力会社と比較検討し、契約内容の変更を打診したことがきっかけとなり、機構全体で契約変更し、当院では年間約150万円、機構全体で約3千万円の電気使用料の削減となった。</li> <li>・電子カルテシステム等保守業務に関する常駐要員を廃止し、約840万円の保守委託料の削減となった。</li> </ul>
49	同上	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○こども病院</li> <li>・委託料を削減するため、保険契約や仕様内容の変更を検討し既存契約分について平成31年度契約では約600万円（税抜）削減することができた。</li> <li>・参照（p.166-No.26）</li> <li>【医療材料費／医業収益比率】 平成30年度実績：21.4%（平成29年度実績：20.6%）</li> <li>【ジェネリック医薬品使用割合（院内）】 平成30年度実績：86.45%（平成29年度実績：87.0%）</li> </ul>
50	同上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費削減のための事務連絡会議を開催し、委託経費の見直しなど各病院の取組や情報交換を行った。</li> <li>県立病院間で情報を共有するとともに、取引業者の見直し、価格動向などの情報収集を行い、交渉方法の研究等により経費の節減を図った。</li> <li>また、医薬品担当者会議（9月、2月実施）を開催し、同一医薬品在庫管理システムの導入検討を行った。</li> </ul>

51	・医療機器の選定に際しては、医療器械等審査部会で、仕様やスペックの妥当性や機種統一等の観点から検討（再掲）	駒ヶ根	A	・参照（p.130-No.64）
52	同上	本部	A	・参照（p.144-No.9）
53	・導入後の医療機器等については、計画に対する費用対効果が得られているか検証（再掲）	本部	A	・参照（p.144-No.9）
54	・各県立病院の施設設備については、長期的な修繕改良計画を定期的に見直し、計画的な予算編成と施設設備の長期利用	信州	A	・施設の修繕については、病院運営に支障をきたさないことを念頭に置き、優先度を考慮しながら立てた計画に基づきながら適切に行った。
55	同上	駒ヶ根	A	・23年度に全面改築を完了したことから、大規模な施設修繕はなかったが、温水や給湯の配管設備のポンプやラバーボールジョイントなどのゴム部やシール部に経年劣化が発生してきているため、緊急修繕にて更新した。量水器の更新も行った。（法定更新）
56	同上	阿南	A	施設整備については、点検等から状態を早期に把握して計画的に進めている。30年度は西館吸引ポンプ改修工事を実施した。また、中長期ビジョンの作成に併せ、修繕改良計画を見直した。
57	同上	木曾	A	・老健の西側通用口風除室設置、リハビリ室横障害者要トイレ改修、検査科横検尿トイレ改修が予定通り終了し、療養環境整備に努めた。今後も緊急度優先順位を考慮し、計画的な予算執行に努めていく。
58	同上	こども	A	・修繕改良計画表に基づき、設備等の重要性も考慮した上で、年次計画に沿った部品等交換整備を行った。 ・予防保全を重点的に実施した結果、故障率が低下するなど設備の信頼性が高まった。（課題） ・経費の更なる効率的執行を図るため、年次計画の適宜見直しや事業の取捨選択を徹底

				する。
59	・医療器械購入費、診療材料費、経費、それぞれの見直しチームを設置、経費削減の取り組みを継続、経費削減意識の醸成を推進（信州医療センター）	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営企画課で経費削減の可能性が高いものについて、重点的に取り組み費用の圧縮に努めた。</li> <li>・診療材料の価格交渉については平成30年2月に導入したMRPベンチマークシステムを活用した価格交渉を実施して年間約11,200千円の診療材料費の削減をすることが出来た。</li> <li>・物流管理委員会において閉鎖式輸液セットの切替検討を行いメーカーと交渉した結果、年間約400万円ほどの診療材料費削減となったほか、院内採用手袋の統一や共通物品の安価な材料への切替を実施した。</li> <li>・16列X線CTスキャナー装置とX線循環器撮影装置の医療機器の保守について、保険を活用した補償サービスを導入して約100万円の保守費用を削減することが出来た。</li> </ul>
60	・電子カルテ更新に合わせて、保守費用の見直し（こころの医療センター駒ヶ根）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ更新前のSEの保守体制は、電子カルテ保守で常勤者1名、院内情報システム運用支援で常勤者1名の2名体制であったが、保守体制の見直しを行い、電子カルテ保守は原則リモート対応とし、SEの常勤保守を1名としたことで、7年で約2,700万円の費用圧縮となった。</li> </ul>
61	・職員宿舎の利用方法を見直し、経費削減（こころの医療センター駒ヶ根）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員宿舎の空室を医学生の実習中の宿舎として利用するための整備を行った。医師等確保費60万円の経費削減となった。</li> </ul>
62	・在庫管理システムの試行稼働、光熱水費の執行状況の周知、TV会議の利用、省エネ対策の計画的な実施などによる経費の節減（阿南病院）	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬品は、在庫管理システムにより適切な在庫管理をしているが、本部と連携した新しい在庫管理システムの導入を進めた。併せて医療材料も在庫管理システムを整備し運用を開始した。</li> <li>・会議の出席もTV回議を多く利用し経費の節減に取り組んだ。</li> </ul>
63	・消耗品について、購入方法を見直し、消耗品費の節減（木曽病院）	木曽	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内にリユース棚を設置し、不用物品の再利用と購入前にリユース品の利用を検討するよう呼びかけ、廃棄費用と消耗品費の抑制を図った。</li> <li>・物品を購入する際には「物品購入依頼書」を職員から提出してもらうこととし、職員に</li> </ul>

				使用物品の価値の再考と重複発注や誤発注の防止を図った。
64	・エコーセンターを適切に運営、機器の保守や計画的な更新、経費の削減（こども病院）	こども	A	・参照（p.35-No.37）
65	・材料（医薬品・診療材料）を管理するSPDシステムを活用、より一層の費用削減（こども病院）	こども	A	・参照（p.164-No.19） ・メーカー訪問を実施し、病院の経営改善について協力を求めた。 ・預託方式のメリットである細分化した材料の払出を推進し、費用削減に努めた。
66	ウ 内部監査の実施 ・監事及び会計監査人とも連携した上で、機構本部内のチームによる内部監査を実施	本部	A	・平成30年度内部監査監査計画に従い8月8日～9月21日に職員宿舎の管理について実施 ・各病院が参考となる事例として、こころの医療センター駒ヶ根で取り組んでいる「固定資産台帳と現物を照合するための独自様式」を共有した。 ・職員宿舎の活用状況の把握を詳細に行ったことで、遊休資産の今後の方針を検討する機会となった。
67	エ 診療情報等の活用 ・県立病院間で統一性を持った、診療情報の分類・集計が可能になるような体制を整備 ・DPC（診断群分類包括評価）データを始めとする各種データを活用して診療内容や経営状況などの分析、データを活用した各種計画の策定や執行管理 ・県立病院の担っている医療、各種データ、研究成果などを網羅した「機構年報」を発刊	本部	A	・各病院の収益増に対する取組みを毎月報告し、診療報酬の加算等の取得を促す仕組みを作ることが出来た。 ・1月に第3号の平成29年度年報を発行した。
68	・「信州メディカルネット」を活用した電子カルテの相互参照による情報の共有化を図り、	5病院	A	・参照（p.52-No.4～p.53-No.8）

	引き続き県内医療機関などとの間での診療体制の拡充（再掲）			
69	・信州医療センターでは、全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会の「Q Iプロジェクト（Q I推進事業）」を継続、こころの医療センター駒ヶ根、木曽病院、こども病院は、全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（再掲）	信州	A	・参照（p.140-No.29）
70	同上	駒ヶ根	A	・全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」に継続して参加し、データの提出を行った。 ・「医療の質の評価・公表等推進事業」で得たデータについて、運営会議等を通じて院内へフィードバックを行った。
71	同上	木曽	A	・参照（p.140-No.31）
72	・こども病院では、診療科ごとの原価計算システムのデータを基に、病院経営分析の充実を図る。（再掲）	こども	A	・参照（p.164-No.19）
73	・全国こども病院研究会を開催、小児病院のクリニカルインディケータを共有、今年度分の長野県立こども病院クリニカルインディケータの冊子を発行	こども	A	・平成29年度輪番病院だったため当院にて開催。今年度は四国おとなとこどもの医療センターが開催。 ・平成30年度は冊子の内容等の検討を行った。
74	・全国診療情報管理研究会開催病院として研究会を実施	こども	B	・実施なし

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (3) 情報発信と外部意見の反映

〔自己評定〕 A

〔自己評定の理由〕

各病院等において、出前講座や病院祭の開催、病院だよりの発行等により積極的に地域へ情報発信を行うとともに、病院運営協議会等を開催し、地域の関係機関との連携を深め、地域の意見を病院等の運営に反映した。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(3) 1	ア 情報発信 ・新聞、広報誌等の各種媒体を活用、各県立病院などの広報活動を積極的に実施、機構全体の認知度を向上させるための方策などについて組織横断的に検討、県立病院ブランドの向上	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時適正な新聞広告等を行った。</li> <li>・広報担当者会議を開催し各病院間の情報交換を実施。</li> <li>・機構主催による高騰研修会は開催できなかったが、県の広報研修会を案内するとともに、講演資料の情報共有を図った。</li> <li>・機構ニュースの発行。</li> <li>・各病院の取組状況を平成29年度年報において公開。</li> </ul>
2	県立病院の担っている医療、各種データ、研究成果などを網羅した「機構年報」を発刊	本部	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照 (p.175-No.67)</li> </ul>

	(再掲)		
3	<p>県立病院の取組や健康情報を広く県民にお知らせをする「公開講座」及び「出前講座」を積極的に開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座の主なメニュー</li> <li>信州医療センター <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症、誤嚥性肺炎、一時救命処置（小児含む）、嚥下障害、病院・施設等の感染対策、高齢者の食生活などについて</li> </ul> </li> <li>こころの医療センター駒ヶ根 <ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活における心のケアについて</li> </ul> </li> <li>阿南病院 <ul style="list-style-type: none"> <li>ロコモティブシンドローム、子どもの足を鍛える、薬との付き合い方、安全な食事、低栄養、認知症などについて</li> </ul> </li> <li>木曽病院 <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症、糖尿病、認知症、看取り、腰痛等対策、森林セラピーについて</li> </ul> </li> <li>こども病院 <ul style="list-style-type: none"> <li>食中毒、感染症、発達障がい、予防接種、児童虐待、アレルギー（食物、アトピーなど）、救急対応、目の病気、泌尿器、耳や鼻の病気、言葉の遅れ、形成外科的疾患（胸の変形、口唇口蓋裂）などについて</li> </ul> </li> </ul>	信州	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月20日 第17回病院祭を開催した。（参加者約 1,500人）</li> <li>・以下の公開講座を開催した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>9月9日第1回市民公開講座</li> <li>共催：須高医師会 後援：須坂市、小布施、高山村</li> <li>テーマ「増えつつある大腸がんの検査と治療について」</li> <li>須坂市メセナ小ホール</li> <li>内視鏡センター長赤松泰次医師 第2外科部長古澤徳彦医師（参加者175 人）</li> </ul> </li> <li>・出前講座を 53回開催3,188人が聴講した。（29年度 78件 3,718人）</li> </ul> <p>主なテーマは以下のとおり</p> <p>筋力を低下させないために、接触嚥下障害について、高齢者の呼吸器疾患、肺炎について、結核について、感染対策について、一次救命処置、家庭でできる応急手当（小児）、高齢者の食生活について、オムツ（スキントラブル）交換について、糖尿病の食事療法について、性教育について、大腸がんについて、クローン病について、めざせ！ピンピンコロリ、家庭でできる褥瘡予防と初期対応について、健康に役立つ漢方の知識、発達障害について、治療食調理実習、正しい薬の飲み方 食事と薬、健康に過ごすための食生活について、エピペン使用方法、変形性股関節症のリハビリについて、事故防止KYT研修、中・高生と赤ちゃんのふれあい、訪問看護のお話、認知症のお話、看護のしごと。</p>

4	同上	駒ヶ根	A	<p>○公開講座</p> <p>2月開催 演 題 「不安定な愛着をもつ親と子どもの支え方」 講 師 駒木野病院 副院長 笠原 麻里 参加者数 100人</p> <p>○出前講座</p> <p>4 講座を開講し、年間14回実施した。</p> <table> <tr> <td>うつストレスケア</td> <td>7回</td> <td>417人</td> </tr> <tr> <td>精神疾患について</td> <td>3回</td> <td>200人</td> </tr> <tr> <td>アルコール依存症</td> <td>4回</td> <td>133人</td> </tr> <tr> <td>精神科薬について</td> <td>－回</td> <td>－人</td> </tr> <tr> <td>認知症（メニュー外）</td> <td>2回</td> <td>87人</td> </tr> <tr> <td>SST（メニュー外）</td> <td>1回</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>17回</td> <td>842人</td> </tr> </table>	うつストレスケア	7回	417人	精神疾患について	3回	200人	アルコール依存症	4回	133人	精神科薬について	－回	－人	認知症（メニュー外）	2回	87人	SST（メニュー外）	1回	5人	合計	17回	842人
うつストレスケア	7回	417人																							
精神疾患について	3回	200人																							
アルコール依存症	4回	133人																							
精神科薬について	－回	－人																							
認知症（メニュー外）	2回	87人																							
SST（メニュー外）	1回	5人																							
合計	17回	842人																							
5	同上	阿南	A	<p>・病院スタッフが講師となり出前講座を実施し、住民の意識向上に資することができた。</p> <p>内容</p> <p>「虐待について」 40人 「認知症の方を理解する」 50人 「ロコモティブシンドロームについて」 3回 合計 90人</p>																					
6	同上	木曾	A	<p>・参照（p.115-No.14）</p>																					
7	同上	こども	A	<p>・参照（p.115-No.15）</p>																					

8	地域に県立病院をアピールするため、地域に開かれた病院祭や講演会等を開催 病院祭開催計画	信 州	A	・参照 (p.179-No.3)		
					信州医療センター	10月
					阿南病院	10月
					木曽病院	11月
					こども病院	10月
9	同上	阿 南	A	<p>・10月の病院祭ではメインテーマを『延ばそう健康寿命 見直そう健康習慣 ～地域のみなさんとの笑顔とともに～』として、地域の皆様に情報発信を行った。(来場者約300人)</p> <p>・病院祭では下伊那南部保健医療協議会と共催で長野県県立病院機構 統括産業医 鳥海 宏氏を講師に迎え、公開講座を実施した。</p>		
10	同上	木 曽	A	<p>・10月に出前病院として南木曽町での地域イベントに参加し、各種相談や計測を始め病院のPRを行った。</p> <p>・11月に病院祭を開催し、各種イベントを通じて病院の取組みや役割に関する情報発信を行った(来場者約延1,000人)。また、出店販売や中央ホールイベントへの参加、パンフレット協賛等で地域の方々にも積極的に関わってもらうなど、地域へのアピールに繋がる活動ができた。</p> <p>・11月に南木曽町の住民懇談会にて、当院医師が「がん、とは?」というテーマで講演会を行った。</p> <p>・参照 (p.115-No.14)</p> <p>・参照 (p.151-No.21)</p>		
11	同上	こ ど も	A	<p>・当院の取組などを多くの者に周知する機会として、『オープンホスピタル ～病院祭の原点に帰って～』をキャッチフレーズとした第10回病院祭を10月7日に開催し、多くの来場者にアピールすることができた。</p>		

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座の開催案内のホームページへの掲載。(再掲) (p.117-No.15)</li> <li>9月8日「アレルギー対応食クッキング」栄養科：信毎メディアガーデン</li> <li>11月11日「口唇裂・口蓋裂のはなし」口唇口蓋裂センター：こころの医療センター駒ヶ根</li> <li>11月25日「ワクチンの安全性と効果を考える」予防接種センター：こども病院</li> <li>・病院の医学指標を機構本部のホームページで、また各診療科での診療実績や手術成績についてこども病院のホームページで公開している。</li> </ul>
12	信州医療センターでは、広報誌を須高地域に全戸配布、須坂市報への当院の情報掲載、須高ケーブルテレビへの休診情報等を掲載(再掲)	信州	A	・参照 (p.140-No.33)
13	全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」と日本病院会の「Q I プロジェクト (Q I 推進事業)」を継続(再掲)	信州	A	・参照 (p.140-No.29)
14	「須高地区手をつなごう会」の開催を継続	信州	A	・11月8日に開催し、竹前医院院長、当院訪問看護師長による講演「感染性胃腸炎」「在宅医療それぞれの立場から」を行った。(参加者96人)
15	産科医療の充実、内視鏡センター及び健康管理センターの強化等について、地域へ積極的な広報活動	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや広報誌、雑誌等様々な広報媒体を活用し、積極的な広報活動を行った。</li> <li>・「大腸がん」をテーマにした市民公開講座を開催し、内視鏡検査による早期発見の重要性及び当院の診療体制のPRを行った。</li> <li>・産科医療の充実について広く周知するため、プレマイイベントへのブース出展、ママ向け雑誌への情報掲載、SNSを活用した情報発信など、ターゲットを絞った広報活動を行った。</li> </ul>
16	こころの医療センター駒ヶ根では、病院だより(ここ駒通信)を下平地区に全戸配布、	駒ヶ	A	・院外広報誌「ここ駒通信」を2月にリニューアル発行し、駒ヶ根市内へ隣組回覧で配布を行ったほか、長野県庁や伊那合庁、駒ヶ根市内の公共施設などに配置を行った。広報誌

	地元住民を対象とした広報を実施、当院の医療機能について周知	根		に対しては、院内外から反響がありマスコミからの取材依頼が1件あった。
17	全国自治体病院協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」を継続（再掲）	駒ヶ根	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国自治体病院協議会主催の「医療の質の評価・公表等推進事業」に継続して参加し、データの提出を行った。</li> <li>・「医療の質の評価・公表等推進事業」で得たデータについて、運営会議等を通じて院内へフィードバックを行った。</li> </ul>
18	阿南病院では、関係機関との連携を深めるための交流会などを継続、地域における連携を一層強化、病院だよりの発行により地域住民への情報発信	阿南	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院だより「地域とともに」を発行し地域住民への情報発信に努めた。</li> </ul>
19	木曾病院では、病院だよりやホームページ、また、木曾広域のCATV及び文字放送を利用することにより、地域住民への情報発信	木曾	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参照（p.76-No.4）</li> </ul>
20	<p>こども病院では、クラウドファンディング、コラボレーション寄付など寄付プログラムを進め、当院を支援するサポータークラブの輪を広げる取り組みを実施、ホームページ、ニュースレター、マスコミなど様々な媒体を通じ、当院の情報を発信</p> <p>また、病院を支えるボランティア団体との交流会を開催、病院への支援・協力体制の充実</p>	こども	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウドファンディングについては、ドクターカーの購入が達成されたため終了し、コラボレーション寄附プログラムを引き続き進めると共に当院の情報を発信している。</li> <li>・今年度初めてボランティア同士のつながりを作り、現在活動中のボランティアさんのモチベーション維持を目的に、座談会を開催した。ボランティアの視点で「こども病院」のサービスや環境について気付いたことや改善した方がいいことをご提案いただく場ともなった。</li> <li>・3月にボランティア交流会を実施し、25名（団体登録者5団体14名、個人登録者11名）ボランティアさんにご参加いただいた。</li> </ul>
21	<p>イ 病院運営に関する地域の意見の反映</p> <p>・各県立病院において、市町村、地域住民の</p>	信州	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州医療センター運営協議会を2回（7月31日（火）、2月8日（金））実施し、当院の業務実績、運営動向、経営状況、働き方改革の取組等について説明した。</li> </ul>

	代表、病院支援団体及び保健・医療・福祉機関等が参加する病院運営協議会等を開催、積極的に地域意見を反映			・委員各位との活発な意見交換が行われた。
22	同上	駒ヶ根	A	・地元市町村、地域の患者家族会、精神科医療関係団体の代表等が参加する運営協議会を1月に開催し、病院運営状況や業務実績、当院の課題について説明を行い、出席の委員全員からの意見をいただき協議を行った。
23	同上	阿南	A	・行政、診療所医師及び保健師などで構成される下伊那南部保健医療協議会は7月の総会を開催し、積極的な情報・意見交換を行った。
24	同上	木曾	A	・病院運営協議会を9月に開催し、病院の運営状況について説明するとともに意見交換を行った。
25	同上	こども	A	・こども病院運営協議会を7月24日と12月13日、3月8日に開催した。地域の行政・住民組織、医療、患者、ボランティア関係者などが委員となっており、多方面から病院運営に関する貴重な意見を頂戴することができた。
26	また、病院モニターなどからの意見や、患者家族と病院管理者との懇談会等の様々な提言などを病院運営に活用	信州	A	・院内に設置した意見箱に寄せられた患者等からの意見について、各部署からの回答案をもとに委員会において対応を検討。寄せられた意見は、毎月運営会議にて院内全体に周知するとともに、南棟1階会計窓口前掲示板に回答を掲示。 ・昨年度に比べ感謝の意見が増えているが、要望、苦情も増加。 (30年度：感謝186件(+32)、要望79件(+19)、苦情114件(+35)、メール問い合わせ28件)
27	同上	駒ヶ根	A	・患者家族相談窓口により迅速な相談対応を行った。(30年度11件、29年度29件) ・院内6か所に設置した意見箱への投書を毎日回収し、迅速に対応した。(30年度132件、29年度99件) 意見箱や相談窓口に寄せられた意見や苦情について、対応後、多職種による委員会において検討を行い、病院運営会議やグループウェアを活用して職員へフィードバックすることで、改善に活かした。
28	同上	阿	A	・参照 (p.184-No.23)

		南		・当院では、環境美化活動に参加している地域ボランティアの者の意見など、機会を捉えて地域住民からの意見等の聴取を行っている。
29	同上	木 曾	A	・参照 (p.137-No.21)
30	同上	こ ど も	A	・外来・入院患者を対象とした「提案箱」を院内8箇所に設置し、提案内容については、該当部署及び病院管理者で検討の上、回答を院内に掲示するとともに病院運営に反映させている。

## 第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

### 3 経営改善の取組

#### (4) 病床利用率の向上

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

各病院において、ベッドコントロール会議の取組みにより効率的な病床管理を行い、信州医療センター、木曽病院及びこども病院では年度計画の数値を上回り、また、ほとんどの病院で昨年度比で病床利用率の向上が図られた。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第2 3(4) 1	効率的・弾力的な病床管理を徹底 ・役職者を対象とした運営会議により、経営状況の全職員への周知と方向性の徹底（信州医療センター） ・ベッドコントロール会議を毎日開催、多職種で病棟の効率的な運用等に関わる情報の共有を目的に拡大ベッドコントロール会議を週	信州	A	○概要 ・信州医療センターでは、拡大ベッドコントロール会議等の取組みにより効率的な病床管理を行った結果、年度計画の目標値を上回り、昨年度比で病床利用率の向上が図られた。 ・引き続き効率的・弾力的な病床管理を徹底し、病床利用率の向上を図る。 ・紹介患者や新入院患者の増加のため、院長や地域医療福祉連携室の職員による地域の診療所や介護福祉施設等への訪問を継続し、地域連携の強化に努めた。

	<p>1 回程度開催（信州医療センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟全体でベッドコントロールを行い、保護室・観察室の空床を確保、救急患者の入院体制を整備（こころの医療センター駒ヶ根）</li> <li>・地域連携室において、入院時期の調整（こころの医療センター駒ヶ根）</li> </ul>		<p>○病床利用率の実績（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="958 236 2056 336"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30 年度実績</th> <th>29 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>信州医療センター</td> <td>81.2</td> <td>79.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>・信州：運用病床数に基づき算出（H26.8月から226床、H30.12月から215床） ※結核病床(24)、感染症病床(4)、地域包括ケア病棟(49)は除く。</p>	区分	30 年度実績	29 年度実績	信州医療センター	81.2	79.3
区分	30 年度実績	29 年度実績							
信州医療センター	81.2	79.3							
2	<p>こころの医療センター駒ヶ根）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外救急患者の入院及び中等度疾患の入院治療を促進（阿南病院）</li> <li>・病床数見直しについて、公的病院ガイドラインの病床利用率70%以上達成に向け取り組むとともに、運営検討委員会において地域の医療事情や病棟の運用も含めた方向性の決定・実施（阿南病院）</li> <li>・他院からの回復期患者や胃瘻交換等施設からの短期入院患者の受け入れを促進（阿南病院）</li> <li>・岐阜県内の医療機関の再編の動きを踏まえ、木曽南部地域の患者獲得に向けた広報等を積極的に展開、退院調整等院内の一層の連携強化、病床利用率の向上（木曽病院）</li> <li>・診療部と看護部の連携による効率的なベッドコントロールを実施（こども病院）</li> </ul>	駒ヶ根	<p>○病床利用率の実績（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="958 480 2056 580"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30 年度実績</th> <th>29 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころの医療センター駒ヶ根</td> <td>78.5</td> <td>79.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>・駒ヶ根： H23.1から新病棟129床に基づき算出</p>	区分	30 年度実績	29 年度実績	こころの医療センター駒ヶ根	78.5	79.2
区分	30 年度実績	29 年度実績							
こころの医療センター駒ヶ根	78.5	79.2							
3	<p>阿南</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜県内の医療機関の再編の動きを踏まえ、木曽南部地域の患者獲得に向けた広報等を積極的に展開、退院調整等院内の一層の連携強化、病床利用率の向上（木曽病院）</li> <li>・診療部と看護部の連携による効率的なベッドコントロールを実施（こども病院）</li> </ul>	阿南	<p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病床数見直しについて、公的病院ガイドラインの病床利用率70%以上達成に向け取り組むとともに、病棟再編検討ワーキンググループで検討し、一定の方向が出された。1月から病床77床で試行的運用を始めた。</li> <li>・新たな患者の獲得に向けてリハビリクリニカルパスの導入や施設入所の定期的な検査、入院等の取組の検討を進める。</li> </ul> <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病床数については今後、患者動向から病棟の再編に向けて分析を進めて、最終的に将来の病院運営について地域の医療構想や医療事情等を考慮して検討し決定していきたい。</li> </ul> <p>○病床利用率の実績（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="958 1102 2056 1203"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30 年度実績</th> <th>29 年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>阿南病院</td> <td>60.4</td> <td>63.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・阿南病院：運用病床数に基づき算出（H25.6から85床、H31.1月から77床）</p>	区分	30 年度実績	29 年度実績	阿南病院	60.4	63.7
区分	30 年度実績	29 年度実績							
阿南病院	60.4	63.7							
4	<p>病床利用率の目標（単位：％）</p> <table border="1" data-bbox="241 1305 810 1353"> <thead> <tr> <th>県立病院名</th> <th>H28 実績</th> <th>H30 目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	県立病院名	H28 実績	H30 目標				木曽	<p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟師長及び医事課からなる、ベッドコントロール会議による病床利用率の向上を図った。</li> </ul>
県立病院名	H28 実績	H30 目標							

	信州医療センター	76.0	80.9			区分	30年度実績	29年度実績
	こころの医療センター駒ヶ根	76.2	80.0			木曽病院	78.1	64.3
	阿南病院	58.7	70.0			木曽病院：運用病床数に基づき算出（30年4月から159床） 29年度実績は変更前の181床で算出		
5	木曽病院	70.7	72.6	こども	A	○概要 ・副看護部長を責任者として、看護師長と毎日ベッドコントロール会議を行い有効な病床稼働により、病床利用率の向上が図れた。 ○病床利用率の実績（単位：％）		
	こども病院	76.0	73.4			区分	30年度実績	29年度実績
	<p>（注1）信州医療センターは、運用病床（平成26年8月から226床）での利用率 ※地域包括ケア病床（46床）、結核病床（24床）及び感染症病床（4床）は除く</p> <p>（注2）木曽病院は、運用病床（平成28年度は186床、平成30年度は159床）での利用率</p> <p>（注3）こども病院は、運用病床（平成25年10月から180床）での利用率</p> <p>（注4）阿南病院は、病床数見直しにより削減予定での利用率（平成30年度）</p>					こども病院	78.0	74.6
						・こども病院：運用病床数に基づき算出（H25.10から180床）		

### 第3 財務内容の改善に関する事項

#### 1 経常黒字の維持

〔自己評定〕 S

〔自己評定の理由〕

- ・経常収支比率は、H28：98.9% → H29：99.5% → H30：101.8% と、平成30年度において大幅に改善した。
- ・平成30年度決算は、前年度と比較して収益が大幅に増加した一方、費用は僅かな増加で済んだことから、年度計画（21百万円）及び前年度（△123百万円）をそれぞれ120%以上上回る417百万円の経常損益となった。
- ・また、中期計画の目標である「経常収支比率100%以上の維持」については、30年度大幅な改善が図られ29年度までの債務超過を解消し、累計で66百万円の経常損益となっている。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果
第3 1 1	・平成30年度予算	法人全体	S	平成30年度決算等

(税抜き、単位：千円)

科 目	平成30年度計画
経常収益 (ア)	23,453,440
医業収益	17,099,048
うち入院収益	12,302,601
うち外来収益	4,356,570
うち公衆衛生活動収益等	340,569
介護老人保健施設収益	386,413
看護師養成所収益	20,593
運営費負担金収益	5,480,000
その他経常収益	467,386
経常費用 (イ)	23,431,576
医業費用	21,544,006
うち給与費	12,513,322
うち材料費	3,782,942
うち減価償却費	1,960,416
うち経費	3,168,534
介護老人保健施設費用	433,784
看護師養成所費用	166,416
一般管理費	295,293
財務費用 (支払利息)	407,695
その他経常費用	584,382
経常損益 (ア-イ)	21,864
臨時損益 (ウ)	0
当期純損益(ア-イ+ウ)	21,864

(税抜き、単位：千円)

科 目	平成30年度	平成29年度	平成30年度計画	増減(30-29)	増減(30-計画)
経常収益 (ア)	23,763,042	23,200,791	23,453,440	562,251	309,602
医業収益	17,303,748	16,814,272	17,099,048	489,476	204,700
うち入院収益	12,481,914	12,063,886	12,302,601	418,028	179,313
うち外来収益	4,352,810	4,311,713	4,356,570	41,096	▲ 3,760
うち公衆衛生活動収益等	362,252	337,894	340,569	24,358	21,683
介護老人保健施設収益	361,728	375,370	386,413	▲ 13,642	▲ 24,685
看護師養成所収益	18,846	18,970	20,593	▲ 124	▲ 1,747
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	598,720	512,179	467,386	86,541	131,334
経常費用 (イ)	23,345,675	23,324,292	23,431,576	21,384	▲ 85,901
医業費用	21,458,844	21,374,907	21,544,006	83,938	▲ 85,162
うち給与費	12,449,220	12,336,320	12,513,322	112,900	▲ 64,102
うち材料費	3,817,198	3,688,267	3,782,942	128,931	34,256
うち減価償却費	1,944,244	2,173,860	1,960,416	▲ 229,616	▲ 16,172
うち経費	3,182,899	3,112,123	3,168,534	70,776	14,365
介護老人保健施設費用	424,040	423,576	433,784	464	▲ 9,744
看護師養成所費用	154,907	159,185	166,416	▲ 4,279	▲ 11,509
一般管理費	319,787	355,327	295,293	▲ 35,541	24,494
財務費用 (支払利息)	404,026	449,510	407,695	▲ 45,485	▲ 3,669
その他経常費用	584,072	561,785	584,382	22,286	▲ 310
経常損益 (ア-イ)	417,367	▲ 123,501	21,864	540,867	395,503
臨時損益 (ウ)	▲ 612	▲ 6,958	0	6,346	▲ 612
当期純損益(ア-イ+ウ)	416,755	▲ 130,458	21,864	547,213	394,891

・報告書p.28「経常収支比率（病院機構全体）」再掲

指標：経常収支比率（病院機構全体）

達成目標：経常収支比率100%以上の維持

（単位：百万円、%）

区 分		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合 計
経常収益	計 画	23,320	23,192	23,540	23,453	23,720	117,225
	実 績	23,222	23,095	23,201	23,763	-	93,280
経常費用	計 画	22,910	23,180	23,508	23,432	23,703	116,733
	実 績	23,185	23,358	23,324	23,346	-	93,214
経常損益	計 画	410	12	32	21	17	492
	実 績	37	-263	-123	417	-	66
経常収支比率	計 画	101.8	103.2	100.1	100.1	100.1	100.4
	実 績	100.2	98.9	99.5	101.8	-	100.1

※ 経常収支比率の計画値は、各年度予算の数値

※ 計数は、端数をそれぞれ四捨五入している

### 第3 財務内容の改善に関する事項

#### 2 資金収支の均衡

〔自己評定〕 B

〔自己評定の理由〕

- ・資金収支については、H30年度計画ではマイナス273百万円であったが、マイナス237百万円に抑えることができた。
- ・しかしながら、依然として資金収支はマイナスであることから、引き続き、経営改善プログラムの着実な実施による収益確保、経費削減などに努めるとともに、医師の確保と働き方の改善、看護職・医療技術職・事務の適正な職員配置などへの取組みの強化が必要となっている。

〔取組結果及び取組の効果〕

番号	年度計画	業務実績		
		病院	評定	取組結果及び取組の効果

第3 1 2	・中期計画における資金計画（平成27年度～平成31年度） （単位：百万円）		法人 全体	B	・報告書p.28「資金収支」再掲							
					指標：資金収支 達成目標：資金収支の均衡 （単位：百万円）							
	区 分	金 額			区 分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	合計	
	資金収入(ア)	125,340			現金収入	計 画	24,492	25,961	24,479	25,228	24,514	124,674
	業務活動による収入	117,030				実 績	23,996	25,267	24,428	25,159	-	98,850
	投資活動による収入	25			現金支出	計 画	24,224	26,030	24,297	25,501	24,579	124,632
	財務活動による収入	7,619				実 績	23,907	25,690	24,774	25,396	-	99,767
	前期中期目標期間からの繰越金(イ)	666			資金収支	計 画	268	△ 69	182	△ 273	△ 65	42
	当期資金収入(ウ)：(ア)-(イ)	124,674				実 績	89	△ 423	△ 346	△ 237	-	△ 917
	資金支出(エ)	125,340			※ 資金収支の計画値は、中期計画策定時の数値							
	業務活動による支出	103,812			※ 計数は、端数を四捨五入している							
	投資活動による支出	7,914										
	財務活動による支出	12,907										
	次期中期目標期間への繰越金(オ)	708										
	当期資金支出(カ)：(エ)-(オ)	124,632										
	当期資金収支(ク)：(ウ)-(カ)	42										